このたびは、スズキ ランディをお買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 本書では、次の記号を使用しています。これらは重要ですので、とくにしっかりお読みください。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害または事故につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと車両破損につながるおそれや正規性能を確保できないことがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車やいろいろな装備を上手に使うことができ便利です。

- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車に付けてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

目次

■ 外観フロント **.2**
■ 運転席まわり **.5**
■ 警告灯一覧 **.8**
■ 外観リヤ **.3**
■ インストルメントパネル **.6**
■ 表示灯一覧 **.9**
■ 車室内 **.4**
■ メーター **.7**

イラスト目次 P.2

■ 運転する前に **.12**
■ お子さまの安全のために **.40**
■ シートベルト **.19**
■ 盗難防止機能 **.54**
■ エアバッグ **.27**

安全なドライブのために P.11

■ 計器類 **.56**
■ メーターの明るさの調節 **.101**
■ 警告灯·表示灯 **.61**
■ マルチインフォメーションディスプレイ **.71**

メーターの見かた P.55

■ キー **.104**
■ ハンドルの調節 **.164**
■ 燃料補給口の開閉 **.170**
■ ドアの施錠と解錠 **.112**
■ ミラーの調節 **.165**
■ エアコンの操作 **.174**
■ シートの調節 **.145**
■ 窓ガラスの開閉 **.168**
■ オーディオ **.195**

各部の操作 P.103

■ 始動する **.200**
■ 運転支援機能 **.229**
■ 運転する **.206**
■ カメラシステム **.291**
■ ランプをつける、ワイパーを使う **.217**

運転のしかた P.199

■ 室内照明 **.322**
■ 収納装備 **.325**
■ その他の室内装備 **.334**

室内装備 P.321

■ まずはじめに **.354**
■ 緊急時の対処方法 **.360**

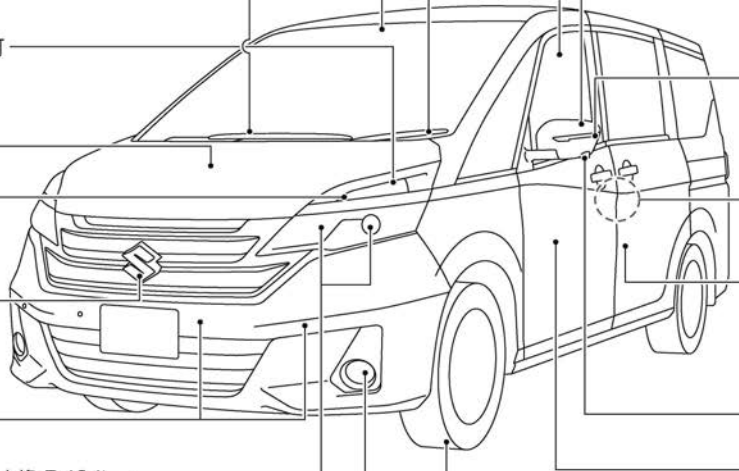
トラブルがおきたときは P.353

■ メンテナンスの前に **.394**
■ サービスデータ **.449**
■ 点検と整備 **.402**
■ 清掃·お手入れ **.437**

メンテナンス P.393

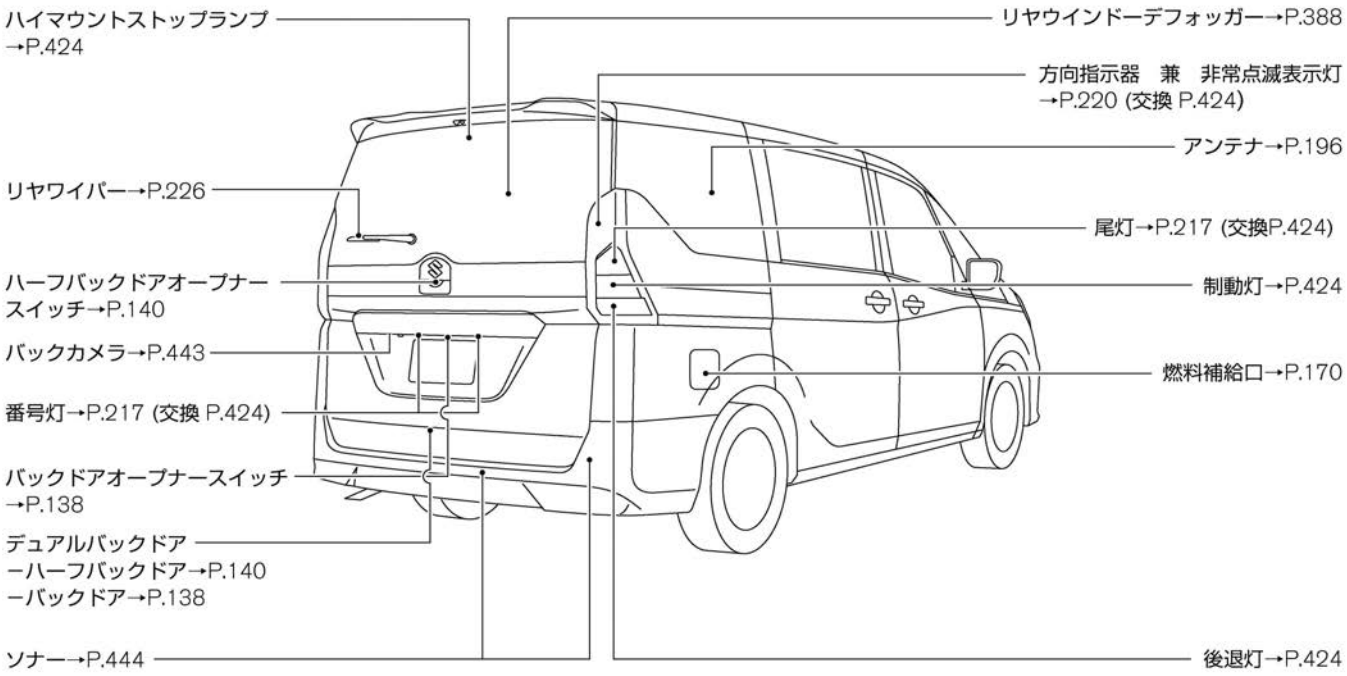
索引 P.455

外観フロント



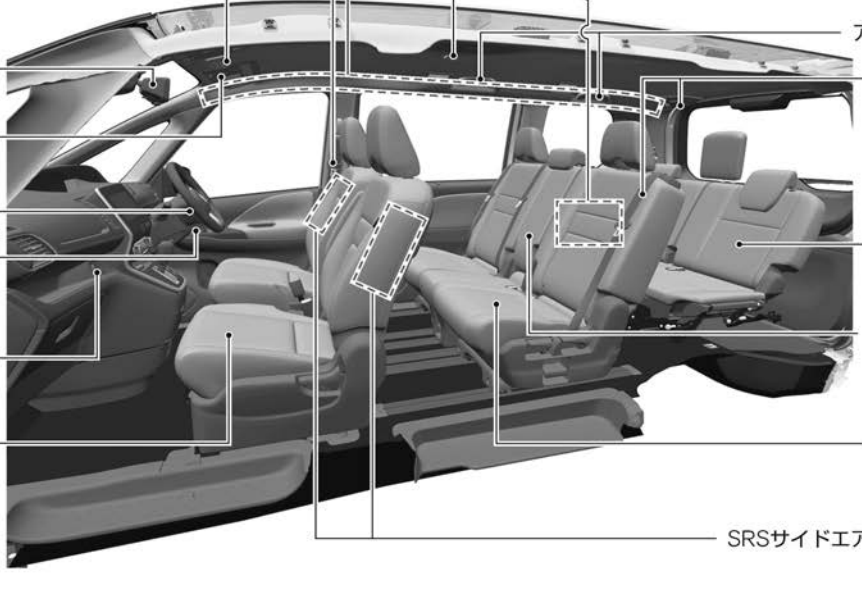
マルチセンシングフロントカメラ→P.441
ワイパー→P.225
方向指示器　兼　非常点滅表示灯
→P.220 (交換 P.424)
ボンネット→P.403
車幅灯→P.217 (交換 P.424)
フロントカメラ→P.442
ソナー→P.444
ヘッドライト (前照灯)→P.217 (交換 P.424)
フォグランプ★→P.224 (交換 P.424)
パワーウインドー→P.168
ドアミラー→P.166
方向指示器　兼
非常点滅表示灯
→P.220 (交換 P.424)
チャイルドプルーフ
→P.122
スライドドア→P.119
パワースライドドア
(オートスライドドア)
→P.126
サイドカメラ→P.442
フロントドア→P.112
タイヤ→P.411

外観リヤ



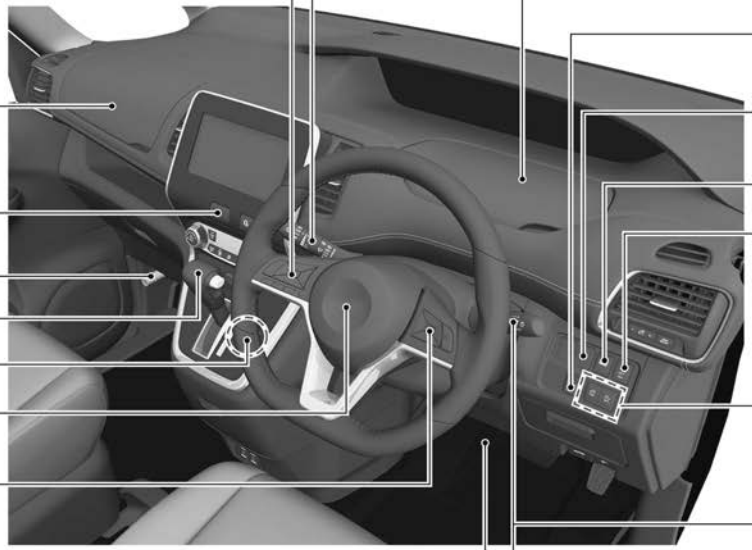
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車室内



シートベルト→P.19
マップランプ→P.322
ルームミラー→P.165
サンバイザー→P.344
ロックノブ→P.118
パワーウインドー
スイッチ→P.168
アクセサリーソケット
→P.334
フロントシート→P.145
SRSカーテンエアバッグシステム★→P.38
ドリンクホルダー→P.330
ルームランプ→P.322
アシストグリップ→P.349
シートベルト→P.19
サードシート→P.157
スマートマルチ
センターシート→P.155
セカンドシート→P.149
SRSサイドエアバッグシステム★→P.36

運転席まわり



ワイパー・ウォッシャースイッチ→P.225

ステアリングスイッチ（左）
－マルチインフォメーション
ディスプレイ→P.71
－オーディオ★→P.197

助手席アッパーボックス
→P.328

非常点滅表示灯スイッチ

発炎筒→P.355

セレクトレバー→P.206

エンジンスイッチ→P.200

運転席SRSエアバッグシステム
→P.31

ステアリングスイッチ（右）
－クルーズコントロール→P.240

パーキングブレーキ→P.211

運転席アッパーボックス→P.328
－USB電源ソケット→P.336

パワードア
メインスイッチ→P.128

ヘッドライトレベリング
スイッチ★→P.222

ECOモードスイッチ→P.229

アイドリングストップ
OFFスイッチ★→P.232

パワースライドドア
運転席スイッチ→P.132

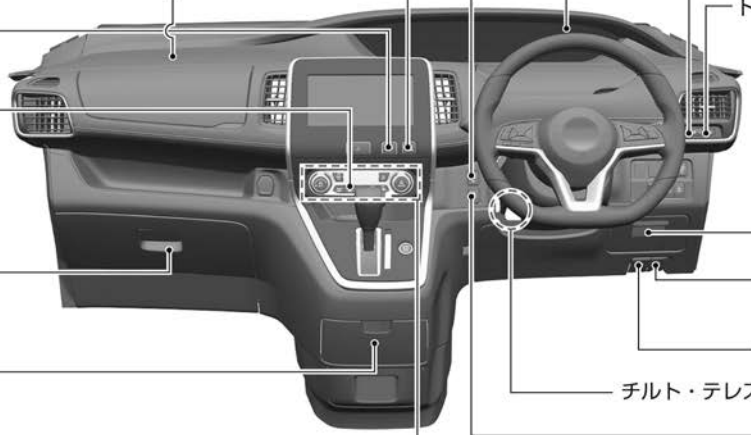
ライトスイッチ→P.217

方向指示器スイッチ→P.220

フォグランプスイッチ★→P.224

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル



エマージェンシーブレーキ／
踏み間違い衝突防止アシストスイッチ→P.258、P.274

助手席SRSエアバッグシステム→P.31

カメラスイッチ→P.291

パーキングアシストスイッチ★
→P.312

リヤウインドーデフォッガー
スイッチ→P.388

グローブボックス→P.327

ドリンクホルダー→P.329

メーター→P.56

照明調整スイッチ→P.101

トリップ切り替えスイッチ→P.58

運転席ロアボックス→P.326

フューエルフィラーリッド
オープナー→P.171

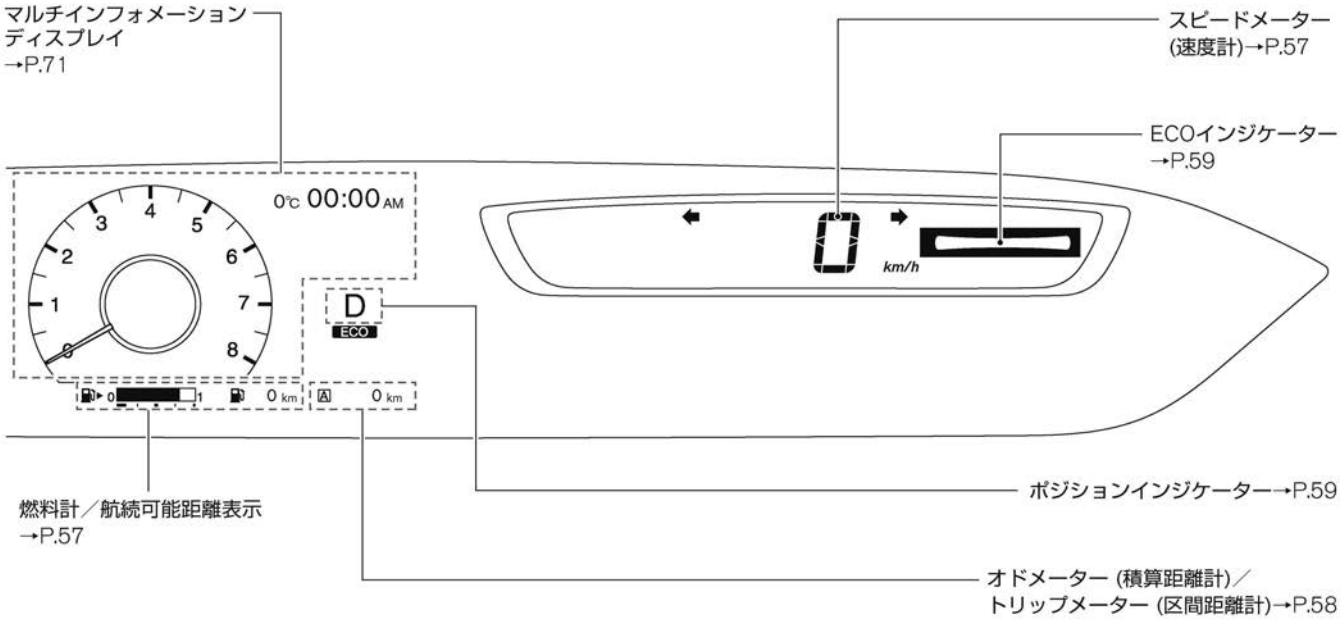
ボンネットオープナー→P.403

チルト・テレスコピックステアリング→P.164

VDC OFFスイッチ→P.249

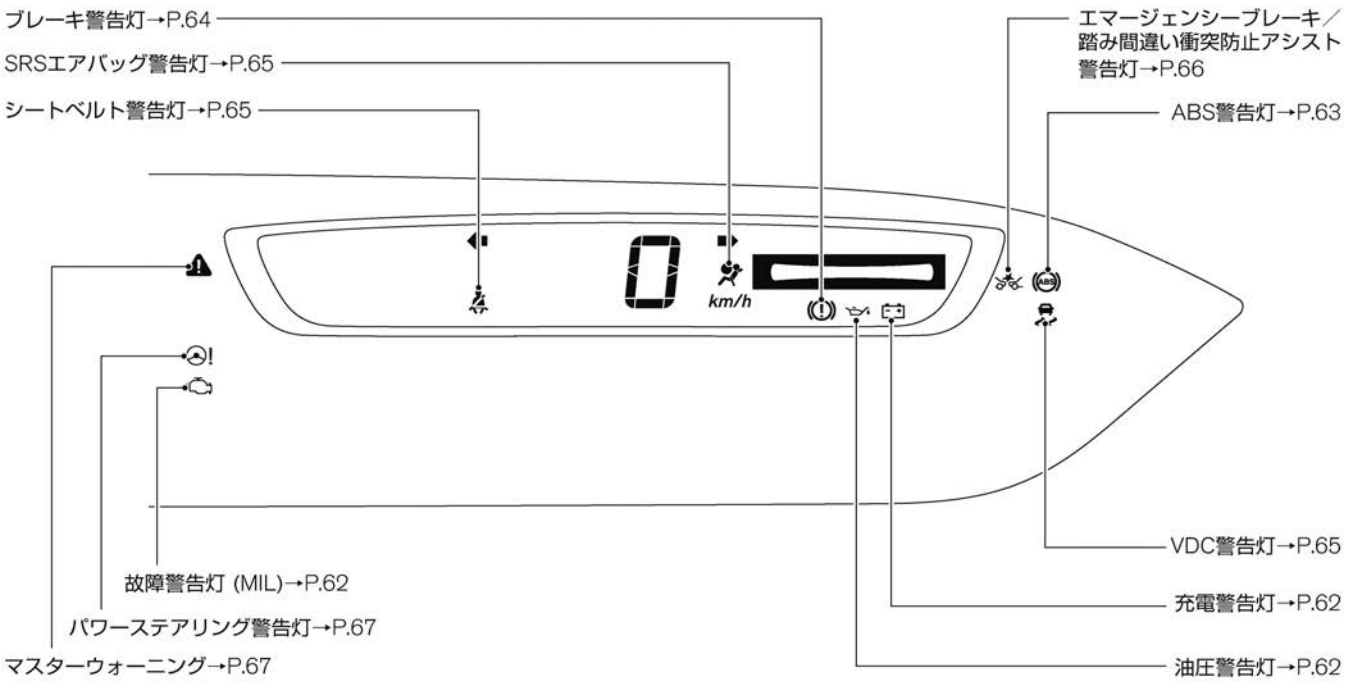
エアコン
－フルオートデュアルエアコン★→P.174
－フルオートエアコン★→P.181

メーター

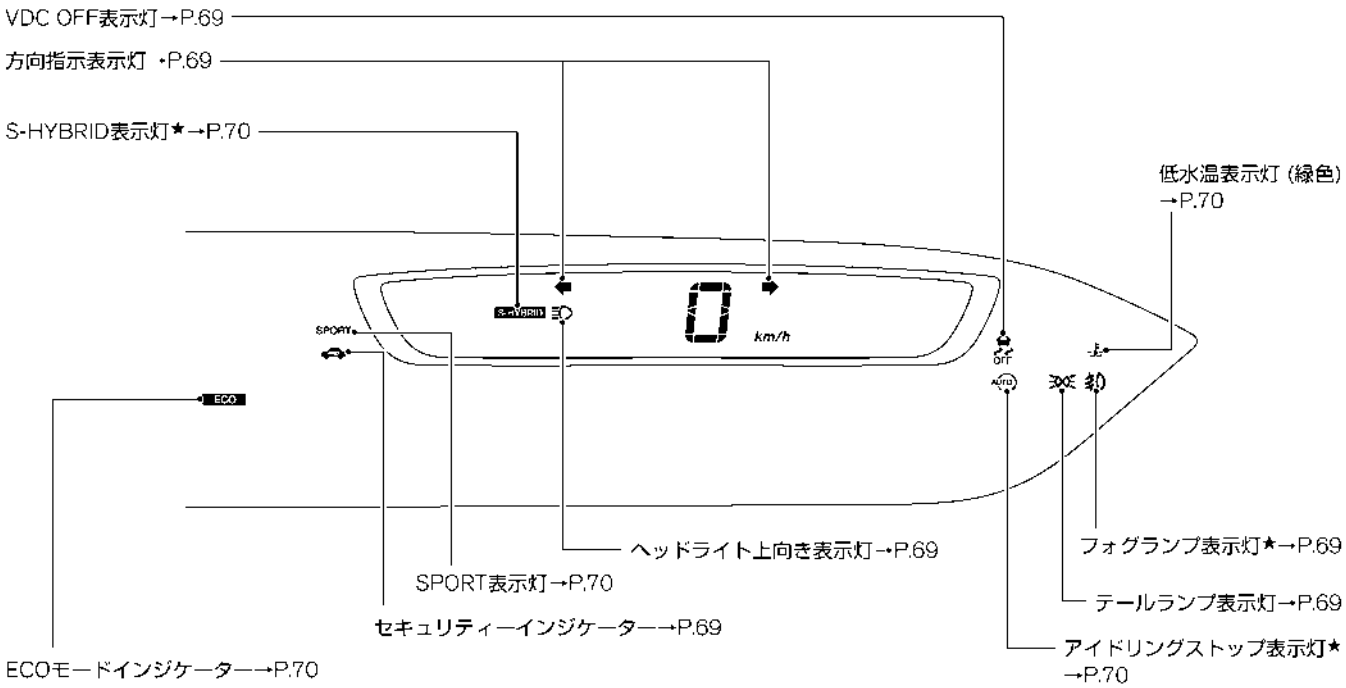


★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯一覧


ブレーキ警告灯→P.64
SRSエアバッグ警告灯→P.65
シートベルト警告灯→P.65
エマージェンシーブレーキ／
踏み間違い衝突防止アシスト
警告灯→P.66
ABS警告灯→P.63
km/h
VDC警告灯→P.65
充電警告灯→P.62
油圧警告灯→P.62
故障警告灯 (MIL)→P.62
パワーステアリング警告灯→P.67
マスターウォーニング→P.67

表示灯一覧



★：車両型式、オプションなどで異なる装備

MEMO

運転する前に

運転前の準備 P.12
運転するときに注意すること P.14
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.18

シートベルト

シートベルトについて P.19
3点式シートベルト（フロントシート/セカンドシート/サードシート左右） P.21
3点式シートベルト（サードシート中央） P.23
シートベルトの注意事項 P.25

エアバッグ

SRSエアバッグ P.27
運転席·助手席SRS エアバッグシステム P.31
運転席·助手席SRSサイドエアバッグシステム★ P.36
SRSカーテンエアバッグシステム★ P.38

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.40
チャイルドシート P.43

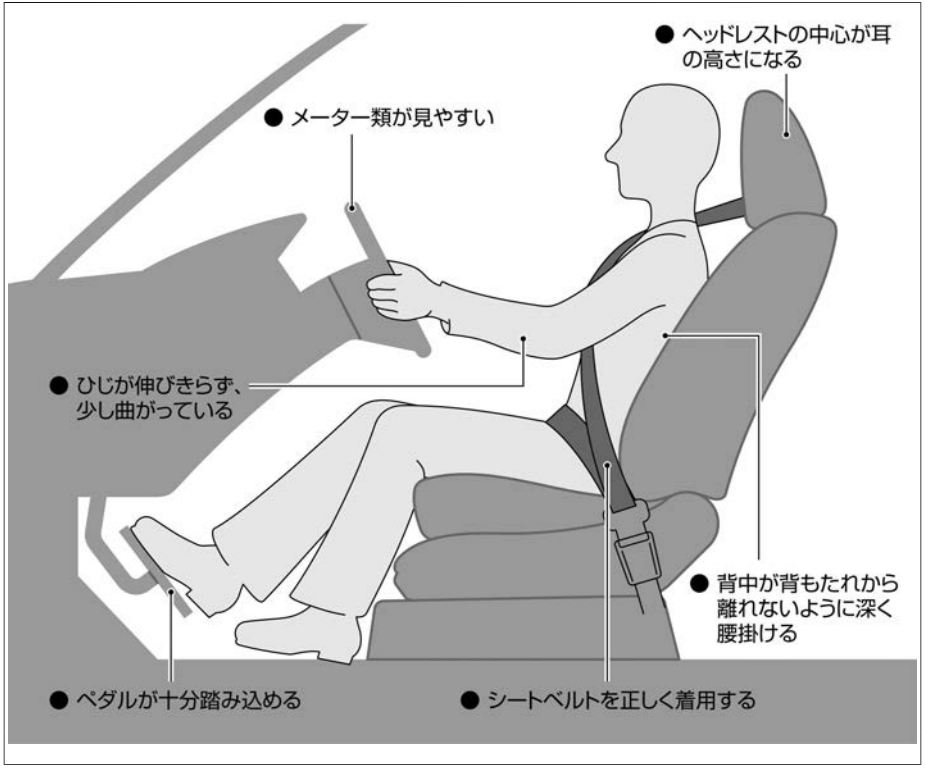
盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置） P.54

運転前の準備

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル（P.164）、シート（P.145）、ミラー（P.165）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**
  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

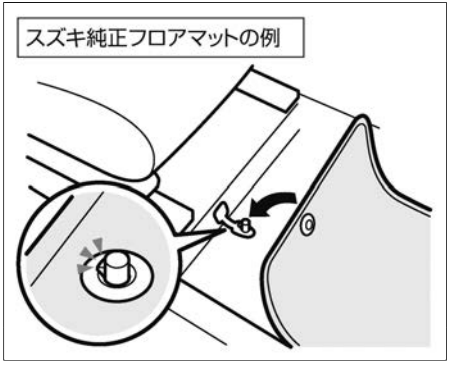
- 必ず走行前にシートベルトを正しく着用してください。
  シートベルト (P.19)
- 小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご使用ください。
  チャイルドシート (P.43)

ミラーの調節

- シートおよびハンドルの調節が完了したら、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ドアミラーおよびルームミラーを調節してください。
  ドアミラー (P.166)
  ルームミラー (P.165)

車に合ったフロアマットを適切に使用する

- ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。
  - 足元の形に合わないフロアマットを使わない
  - フロアマットを重ねて敷かない
  - フロアマットは固定具などで確実に固定する
  - 運転席および助手席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。
- この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。



★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転するときに注意すること

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- **排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。**
- **以下の状況では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。
  - 雪が積もった場所に駐停車するとき
  - 降雪時に駐停車するとき
  - 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき
  - 仮眠や長時間の駐車をするとき
  - 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
  - 他車の排気口が近くにあるとき
- **走行する前に、バックドアが確実に閉まっていることを確認する。**
  走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- **車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。**
- **排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、スズキサービス工場で点検を受ける。**
  排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**
  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

⚠ 警告

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。バッテリーがあがったり、警告灯が点灯するなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

⚠ 注意

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**
  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしない。**
  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。
- **灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、必ずふたを閉める。**
  紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

アクセサリーをウインドーに取り付けない

- **ウインドーにアクセサリーを取り付けない。**
  視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **排気音が大きくなったときは、スズキサービス工場で点検を受ける。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

排気管が腐食したり路面干渉などで損傷しているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入したり、火災につながるおそれがあります。

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**
  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

空ぶかしをしたり、エンジンをかけたまま仮眠をしない

- **無用な空ぶかしや、エンジンをかけたまま仮眠をしない。**
  万一、セレクトレバーが**P**以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。 また、無意識にセレクトレバーを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

改造しない

- **市販の不適合品のマフラー取り付けや、スズキ純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**
  正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **電装品などを取り付けるときは、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

- バッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- スズキが国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域･電力レベル･アンテナ位置･取り付け条件）をスズキ販売店またはスズキ代理店にてご提供します。

性能を十分に引き出すため、ならし運転を行う

- エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、ならし運転が必要です。
  走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。

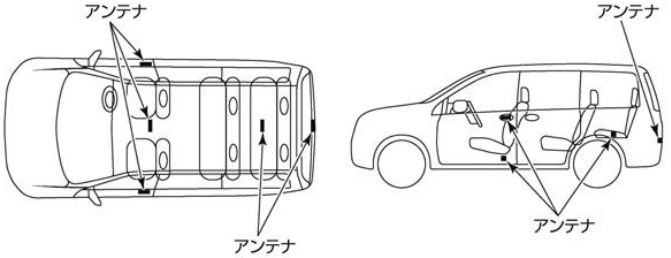
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

携帯リモコンについて

- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**
  ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などにキーレスプッシュスタートシステムの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。



- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**
  キーレスプッシュスタートシステムの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。
走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

- 身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックし身体を固定します。

⚠ 警告

- **シートベルトプリテンショナーの部品や配線を修理しない。電気テスターを使用してプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**
  誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

シートベルトプリテンショナーについて

- 正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。
- 衝撃の強さなどによっては、運転席·助手席SRSエアバッグシステムと同時に作動する場合と、プリテンショナーのみ作動する場合があります。
  SRSエアバッグ (P.27)
- 運転席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。



⚠ 注意

- **SRSエアバッグ警告灯が点灯しているときは走行しない。**
  電源ポジションをONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。
- **廃車にするときやシートベルトプリテンショナーを廃棄するときは、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店に相談する。**

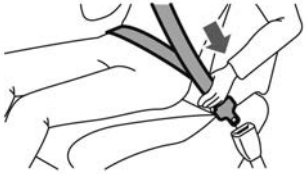
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ずスズキサービス工場で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

シートベルトの着用のしかた

1	正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。	
2	ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	
3	アンカー位置の高さを調節します。（フロントシートのみ） ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。	
4	外すときは、バックルのボタン（赤色部）を押し、タングを持ってゆっくり戻します。	

⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実に掛かる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**
  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **セカンドシートとしてスマートマルチセンターシートに座るときは、単独で使用せず、必ず運転席側セカンドシートと前後位置と背もたれの角度を合わせる。**
  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。
- **セカンドシート中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。**
  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

3点式シートベルト（フロントシート/セカンドシート/サードシート左右）

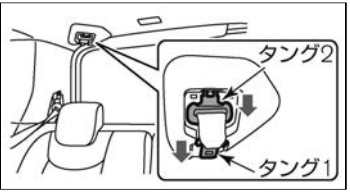
アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

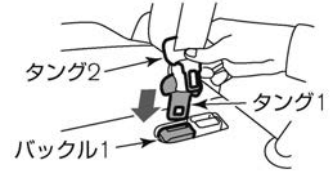
3点式シートベルト（サードシート中央）

シートベルトの着用のしかた

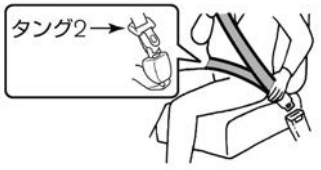
1 タング1を車両後方側の格納部から抜き出したあと、タング2を車両前方側の格納部から抜き出します。



2 タング1をバックル1に“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。



3 正しい姿勢でシートに座り、タング2を持ってベルトをゆっくり引き出します。
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。



4 ベルトがねじれないようにして、タング2をバックル2に“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。



⚠ 警告

- **サードシート中央席に座るときは、左右シートの前後位置★と背もたれの角度を合わせる。**
  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。
- **サードシート中央用のタングとバックルは正しく差し込んで使用する。**
  サードシート中央用のタングとバックルは2個ずつあります。着用するときは必ずタング1と2、バックル1と2を正しく差し込んでお使いください。正しく固定されていないと、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

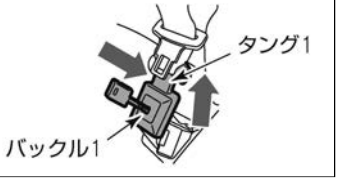
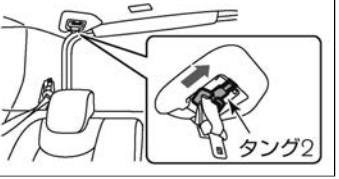
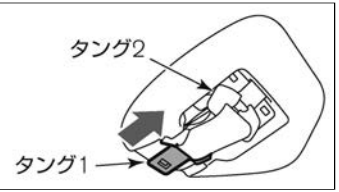
知識

- バックル1とバックル2に、「CENTER」と表示されているものをご使用ください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

3点式シートベルト（サードシート中央）

5	外すときは、バックル2のボタン（赤色部）を押し、タング2を持ってゆっくり戻します。	
6	タング1を持って、バックル1のボタンをキーなどで押し込んでロックを解除します。	
7	タング2を車両前方側の格納部に差し込みます。	
8	タング2を手で押さえながらタング1のベルトを少し引き出し、タング1を車両後方側の格納部に差し込みます。	

アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。
- ベルトを外すとき、タングが急に戻ることがありますので、タングから手を離さないでください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**
  シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  - 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
  - ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  - 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
  - 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
  - クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
- **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**
  シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**
  ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**
  ➔ チャイルドシート (P.43)
- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたシートベルトは、スズキサービス工場に点検を依頼する。**
  一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。
- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**
  ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮しないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに膨らみ、乗員への衝撃を緩和します。
シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの種類

① 運転席・助手席SRSエアバッグ
② 運転席・助手席SRSサイドエアバッグ★
③ SRSカーテンエアバッグ★



アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度膨らむと再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

知識

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、電源ポジションがONのときに作動可能です。
電源ポジションをONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。



⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**
  - 電源ポジションをONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
  - SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき
  - SRSエアバッグ警告灯が点滅し続けるとき

  SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

知識

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグ★およびSRSカーテンエアバッグ★は、乗員がいなくても作動します。

SRSエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**
  SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
  ➔ チャイルドシート (P.43)



- **必ず次のことを守る。**
  SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - SRSエアバッグ格納部を修理するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せずスズキサービス工場で交換してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

SRSエアバッグ

⚠ 警告

運転席･助手席SRSエアバッグの格納場所は（➔P.31）をお読みください。
運転席･助手席SRSサイドエアバッグ★の格納場所は（➔P.36）をお読みください。
SRSカーテンエアバッグ★の格納場所は（➔P.38）をお読みください。

- SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
- 電気テスターを使用してSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
- エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

⚠ 注意

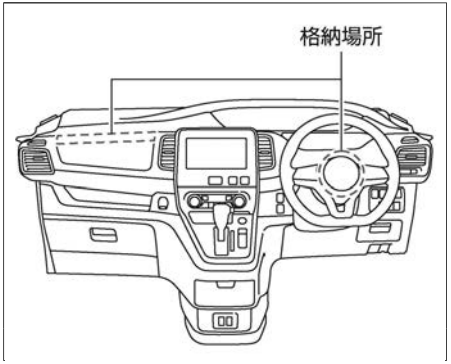
- **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグにさわらない。**
  高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**
  皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

運転席・助手席SRS エアバッグシステム

車両前方から強い衝撃を受けたときに、SRSエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。



SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

アドバイス

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。

知識

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h 以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

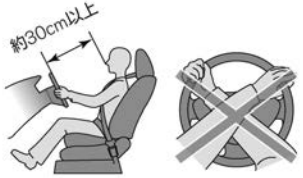
一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

運転席・助手席SRSエアバッグシステムの注意事項

⚠ 警告

- **運転席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**
  ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

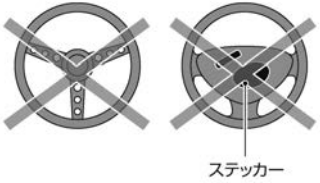


- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼らない。**
  SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページに続く

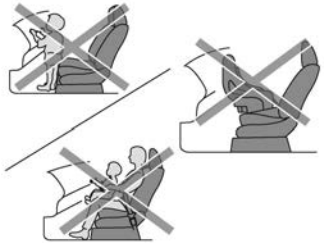
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

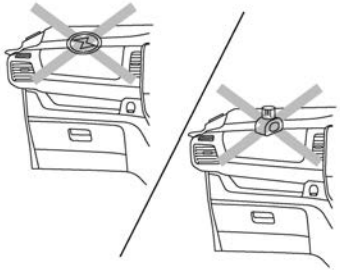


- **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- **助手席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**
  SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
  SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席に乗せてください。
- **チャイルドシートは後席に取り付ける。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。ベビーシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席に取り付けてください。
- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**
  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告



- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かない。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム★

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれの裏側（外側）に格納されています。



⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**
  ドアにもたれるなど、フロントシートの背もたれの裏側（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、フロントシートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
  SRSサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- **フロントシートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、フロントシート背もたれを覆わないものを使用する。**
  SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

SRSカーテンエアバッグシステム★

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。



⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**
  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**
  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  ➔ シートベルトの着用のしかた (P.21)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**
  ➔ チャイルドシート (P.43)

チャイルドシートは後席に取り付ける

- **チャイルドシートは後席に取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**
  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告



● **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する**
車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席に乗せる

● **お子さまを助手席に乗せるのは避ける**
お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。
また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

● **ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない**
開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

● **チャイルドプルーフ（➔P.122）やパワーウインドーロックスイッチ（➔P.168）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する**
  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**
  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

チャイルドシート

お子さまの年齢や体格にあわせたチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

チャイルドシートについて

- チャイルドシートには、ベビーシート、幼児用チャイルドシート、ジュニアシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格にあわせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44の基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用金具を標準装備しています。

知識

- ベビーシート、幼児用チャイルドシート、ジュニアシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

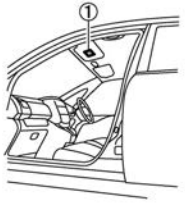
チャイルドシートの種類

UN R44の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により次のように分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0^+	13kgまで
グループⅠ	9～18kgまで
グループⅡ	15～25kgまで
グループⅢ	22～36kgまで

⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。 やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

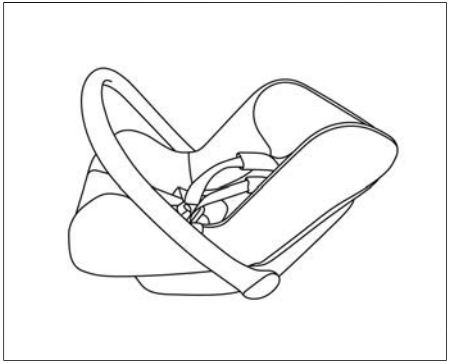


①エアバッグ警告ラベル



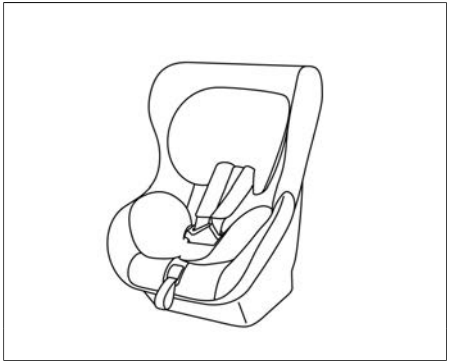
ベビーシート

UN R44 基準のグループ0、0+に相当します。



幼児用チャイルドシート

UN R44 基準のグループ0+、Ⅰに相当します。

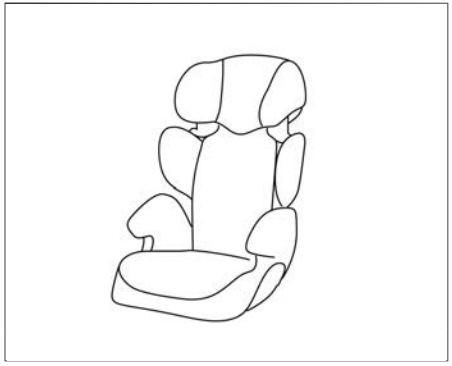


次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ジュニアシート

UN R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。



チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。ISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けできます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使用してチャイルドシートを固定します。

使用できるシートベルト固定タイプのチャイルドシート (P.47)

■ ISO FIX対応チャイルドシート

セカンドシートに付属しているISO FIX対応チャイルドシート固定専用金具で固定します。

ISO FIX対応チャイルドシートについて (P.50)

使用できるシートベルト固定タイプのチャイルドシート

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。
選択の目安から使用できるチャイルドシートを確認してください。

■ 選択の目安

質量グループ	チャイルドシート取り付け位置						
	フロントシート（助手席）	セカンドシート		サードシート			
				スライド機能付き		スライド機能なし	
		左右	中央	左右	中央	左右	中央
0（10kgまで）	X	U※2	X	U※2,3,4	X	U※2,5	X
0^+（13kgまで）	X	U※2	X	U※2,3,4	X	U※2,5	X
Ⅰ（9～18kg）	UF※1	U※2	X	U※2,3,4	X	U※2,5	X
Ⅱ（15～25kg）	UF※1	UF※2	X	UF ※2,3,4	X	UF※2,5	X
Ⅲ（22～36kg）	UF※1	UF※2	X	UF ※2,3,4	X	UF※2,5	X

U： この質量グループでの使用を認可された、汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適合しています。
UF： この質量グループでの使用を認可された、汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。
X： チャイルドシートを取り付けることはできません。
※1： 背もたれを前に倒し、元に戻すときに一番最初にロックする位置に調節してください。
※2： 背もたれが直立する位置に調節してください。
※3： スライド位置を最前端にしてください。
※4： セカンドシートに3人着座できる最後端の位置から、260㎜（13ノッチ）車両前方

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

へセカンドシートをスライドさせてください。
※5： セカンドシートに3人着座できる最後端の位置から、220㎜（11ノッチ）車両前方へセカンドシートをスライドさせてください。

- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

1 チャイルドシートを座席に置きます。
シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。



2 チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ISO FIX対応チャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。
「選択の目安」から使用できるチャイルドシートを確認してください。

■ 選択の目安

質量グループ	サイズ等級	固定具	チャイルドシート取り付け位置	
			セカンドシート	
			右	左
キャリコット	F	ISO/L1	X	X
	G	ISO/L2	X	X
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	X	X
0^+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL	IL
	D	ISO/R2	X	X
	C	ISO/R3	X	X
Ⅰ (9～18kg)	D	ISO/R2	X	X
	C	ISO/R3	X	X
	B	ISO/F2	IUF	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF	IUF
	A	ISO/F3	IUF	IUF
Ⅱ (15～25kg)	-	-	X	X
Ⅲ (22～36kg)	-	-	X	X

IUF： この質量グループでの使用を認可された、汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応前向きチャイルドシートに適合しています。

IL： この質量グループでの使用を認可された、スズキ純正ISO FIXチャイルドシートに適合しています。

X：　チャイルドシートを取り付けることはできません。

- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ スズキ純正ISO FIX対応チャイルドシートについて

「選択の目安」で、チャイルドシート取り付け位置にILと記載されている場合は、スズキ純正ISO FIX対応チャイルドシートをご使用ください。

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	スズキ純正ISO FIX対応ベビーシート	後向き	準汎用

知識

- スズキ純正ISO FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

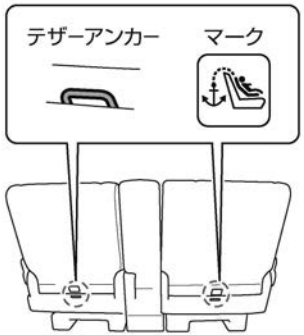
1

ISO FIX対応チャイルドシート固定用ロアアンカーは、セカンドシート左右背もたれのマーク下側にあります。
ヘッドレストを取り外します。
ヘッドレストの調節のしかた (P.147)
チャイルドシートを座席に置いて、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカーに固定します。



2

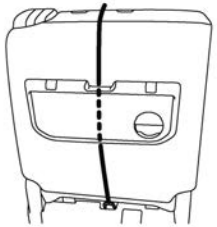
テザーアンカーは、セカンドシート左右背もたれの裏側にあります。
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



⚠ 警告

- **ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートのヘッドレストを取り外す。**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、固定専用金具部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**
  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **パーソナルテーブル付車にテザーストラップを取り付けるときは、パーソナルテーブルを引き上げて、テーブル中央部の隙間に通す。**

⚠ 警告



パーソナルテーブル★ (P.339)

- **走行するときはテーブルを格納する。**

知識

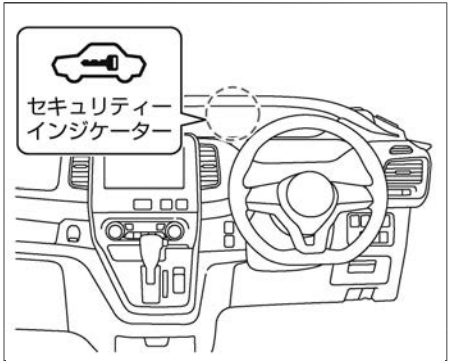
- ISO FIX対応チャイルドシート固定専用金具は、ロアアンカーとテザーアンカーの2種類があります。
  ロアアンカーは背もたれと座面のすき間にあり、テザーアンカーは背もたれの裏側にあります。
- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されている携帯リモコン以外での始動を禁止するシステムです。

- イモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーター（➔P.69）が点滅します。



アドバイス

- 電源ポジションをONにしたときにセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

知識

- 携帯リモコンに登録された信号は、携帯リモコンごとに異なります。

メーターの見かた

計器類

各部名称	P.56
メーター	P.57

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置	P.61
警告灯	P.62
表示灯の表示位置	P.68
表示灯	P.69

マルチインフォメーションディスプレイ

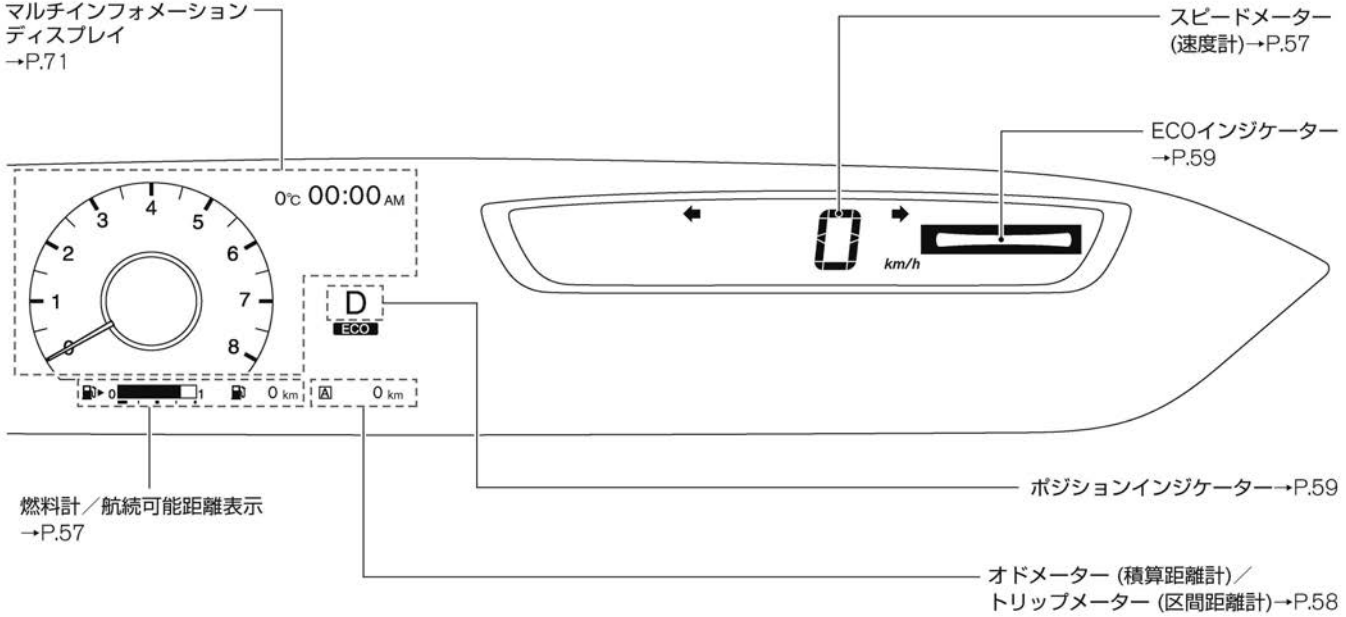
マルチインフォメーションディスプレイとは	P.71
タコメーター（エンジン回転計）	P.72
車両情報画面	P.73
各種設定画面	P.84
時計	P.94
外気温度計	P.95
走行支援機能画面	P.96
その他の表示機能	P.99

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール	P.101

各部名称

電源ポジションをONにすると、計器類が表示されます。
それぞれの計器の説明は、参照先のページをお読みください。



メーター

メーターには、スピードメーター（速度計）、燃料計、ポジションインジケーターなどがあります。
電源ポジションをON にすると表示します。

スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

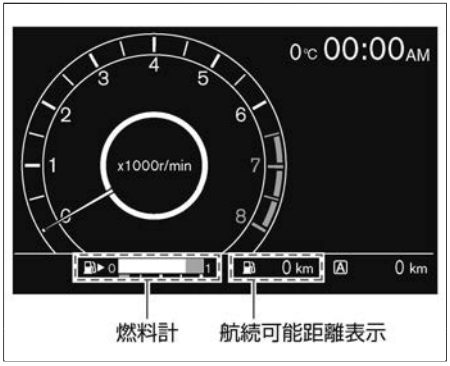
燃料計／航続可能距離表示

燃料計

- 燃料の残量を表示します。
- 燃料タンクの容量は約55 ℓ です。

航続可能距離表示

- 残っている燃料で航続可能な距離を表示しています。
- 燃料残量警告が表示された後も燃料を補給しないと「----」と表示します。



知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。
- 航続可能距離表示の数値は約30秒ごとに算出しています。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

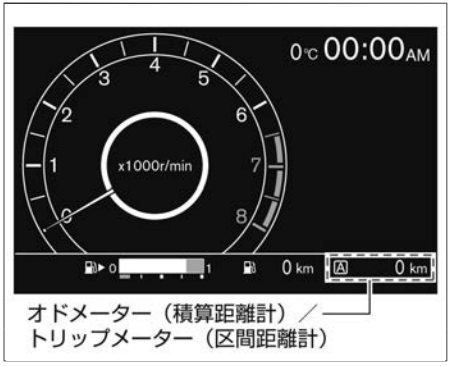
- トリップ切り替えスイッチ①を押すごとに、オドメーター⇒トリップメーター A ⇒トリップメーター B ⇒オドメーターの順に切り替わります。

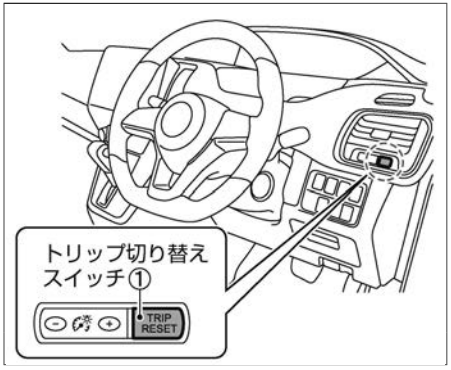
オドメーター（積算距離計）

- 総走行距離をkmで表示します。

トリップメーター（区間距離計）

- リセットしてからの走行距離をkmで表示します。 A と B でそれぞれ使い分けることができます。
- リセットするときは0にしたいほうを表示させ、トリップ切り替えスイッチ①を1秒以上押します。



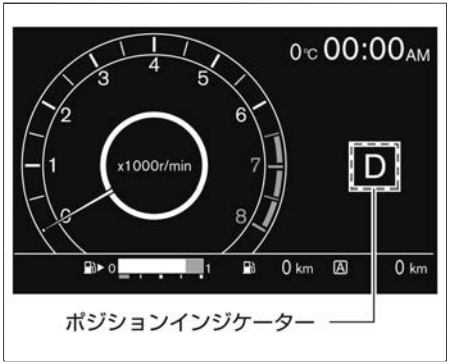


知識

- バッテリーを外したときは、トリップメーターの A と B の記憶が消去され0に戻ります。

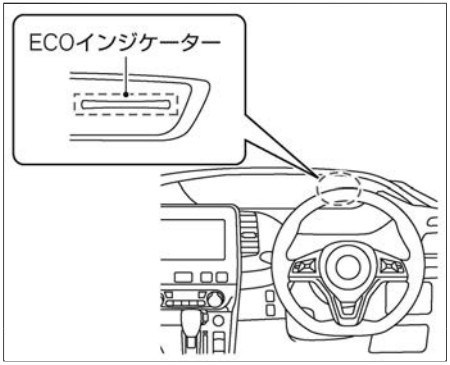
ポジションインジケーター

- セレクトレバーの位置を表示します。



ECOインジケーター

- 走行中、アクセルペダル操作に応じてECOインジケーターが3段階で点灯します。（セレクトレバーがRのときは点灯しません。）
- エコドライブをするほど、インジケーターが広範囲に点灯します。



知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「エコ情報設定」⇒「エコインジケータ」を選択すると、ECOインジケーター表示のON·OFFを設定できます。

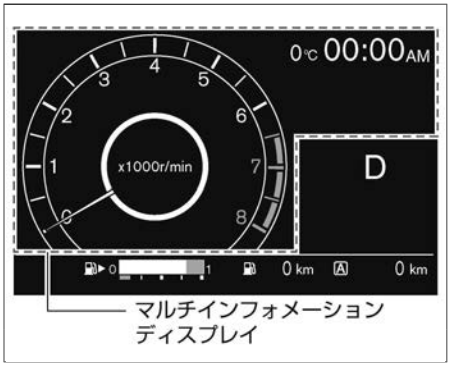
画面の切り替えかた (P.71)
設定（P.87 ）

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

マルチインフォメーションディスプレイ

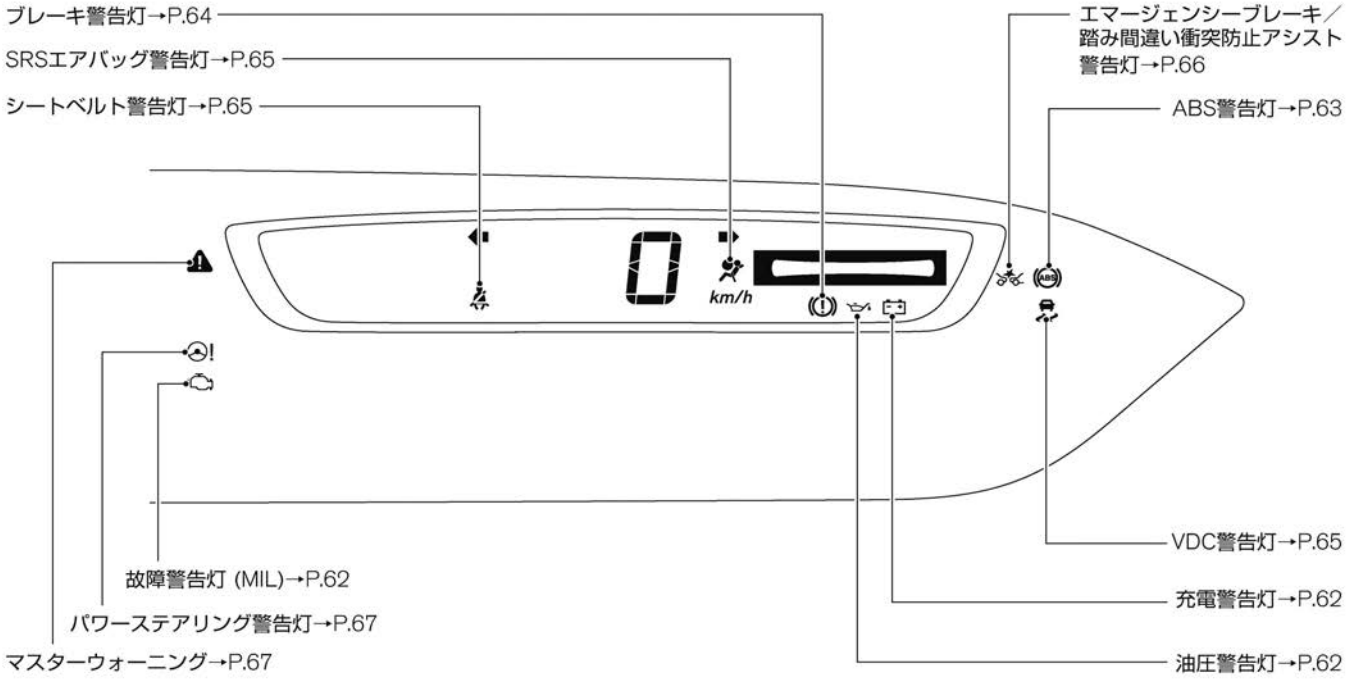
- マルチインフォメーションディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定することができます。
  - タコメーター
  - エコグループ
  - インフォメーショングループ
  - 警告
  - 設定
  - 時計
  - 外気温度計



マルチインフォメーションディスプレイについては、（P.71）をお読みください。

警告灯の表示位置

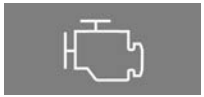
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。
通常は警告すべき事象がおこったときに、該当の警告灯のみ点灯または点滅します。



★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。
警告灯が点灯したときは、次の「説明·対処方法」に従ってください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯·点滅する条件	説明·対処方法
	油圧警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。	● 点灯したときは、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。
	故障警告灯（MIL）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。
	充電警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン回転中、バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 **⚠ 注意** ● **充電警告灯が点灯したまま走行しない。** バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告灯

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ABS警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。	● 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。 アドバイス ● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ブレーキ警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。（パーキングブレーキをかけているときは消灯しません） ● 電源ポジションがONのとき、次の場合は点灯し続けます。 – パーキングブレーキをかけているとき – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。 ⚠ 警告 ● **パーキングブレーキを解除してもブレーキ警告灯が点灯し続けるときは、点灯したまま走行しない。** ブレーキの効きが極度に悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。 アドバイス ● パーキングブレーキを戻し忘れたまま走行（約7ｋｍ/ｈ以上）すると、ブザーが鳴ります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	SRSエアバッグ警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	⚠ 警告 ● **電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯や点滅を続けるときは、放置したまま走行しない。** 万一のときSRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
	シートベルト警告灯	● 電源ポジションがONのとき、運転席および助手席の乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。 **シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）** ● 運転者がシートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約95秒間ブザーが鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● **走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 🕮 知識 ● 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。
	VDC警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、VDCが作動すると点滅します。 ● エンジン回転中、VDC、ヒルホールドコントロールの電子制御システムに異常があると点灯します。	● 点灯したときはVDC、ヒルホールドコントロールの作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

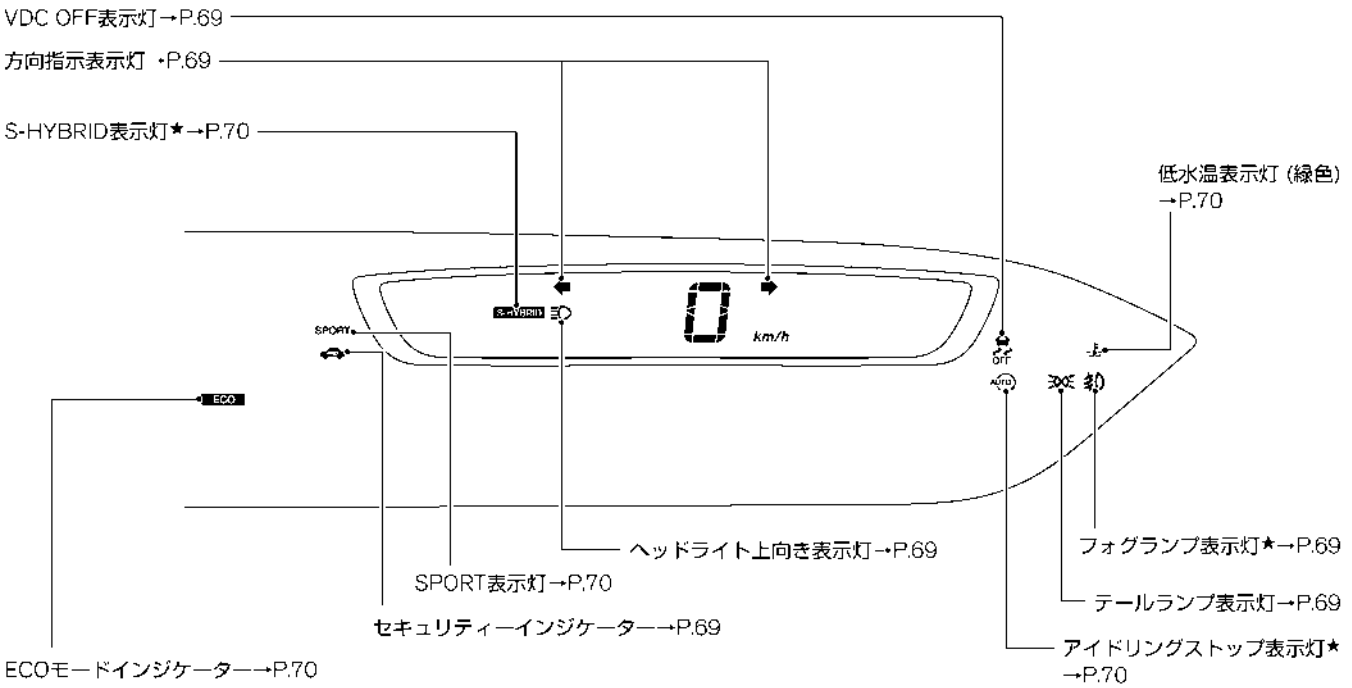
警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 – エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしているとき – VDCをOFFにしているとき – エマージェンシーブレーキまたは踏み間違い衝突防止アシストのシステムに異常が発生しているとき ●次の場合は点滅します。 – 踏み間違い衝突防止アシストが作動したとき ●次の場合はゆっくり点滅します。 – フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき – 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき – 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき – フロントガラスの結露や曇りなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき	● エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ➔ VDCの停止のしかた (P.249) ● エンジン再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。 ● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● フロントガラスに結露や曇りなどがある場合は結露や曇りを除去し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● 室内の温度が高いときなどは、温度が下がると自動的に作動を復帰します。 各システムについては、エマージェンシーブレーキ(➔P.255)および踏み間違い衝突防止アシスト(➔P.264)をお読みください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	パワーステアリング警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。 アドバイス ● ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 ● システムが過熱するような操作を繰り返すと故障の原因になります。 知識 ● すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。
	マスターウォーニング	● マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 警告 (P.76)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯の表示位置

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。
通常は事象がおこったときに、該当の表示灯のみ点灯または点滅します。



表示灯

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。
点灯している理由は、次の説明をお読みください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● 非常点滅表示灯を作動させると点滅します。 ● 電源ポジションがON のとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 方向指示器の電球（バルブ）が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。 ➔ 方向指示器の使いかた (P.220) ➔ 電球（バルブ）交換 (P.424)
	ヘッドライト上向き表示灯	● ヘッドライトのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.219)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ ライトスイッチの使いかた (P.217)
	フォグランプ表示灯★	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔ フォグランプの使いかた (P.224)
	VDC OFF表示灯	● 電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、VDC OFFスイッチを押すと点灯します。	➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.248)
	セキュリティーインジケーター	● 電源ポジションがON以外のときに点滅します。 ➔ イモビライザー（盗難防止装置） (P.54)	● 電源ポジションをONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

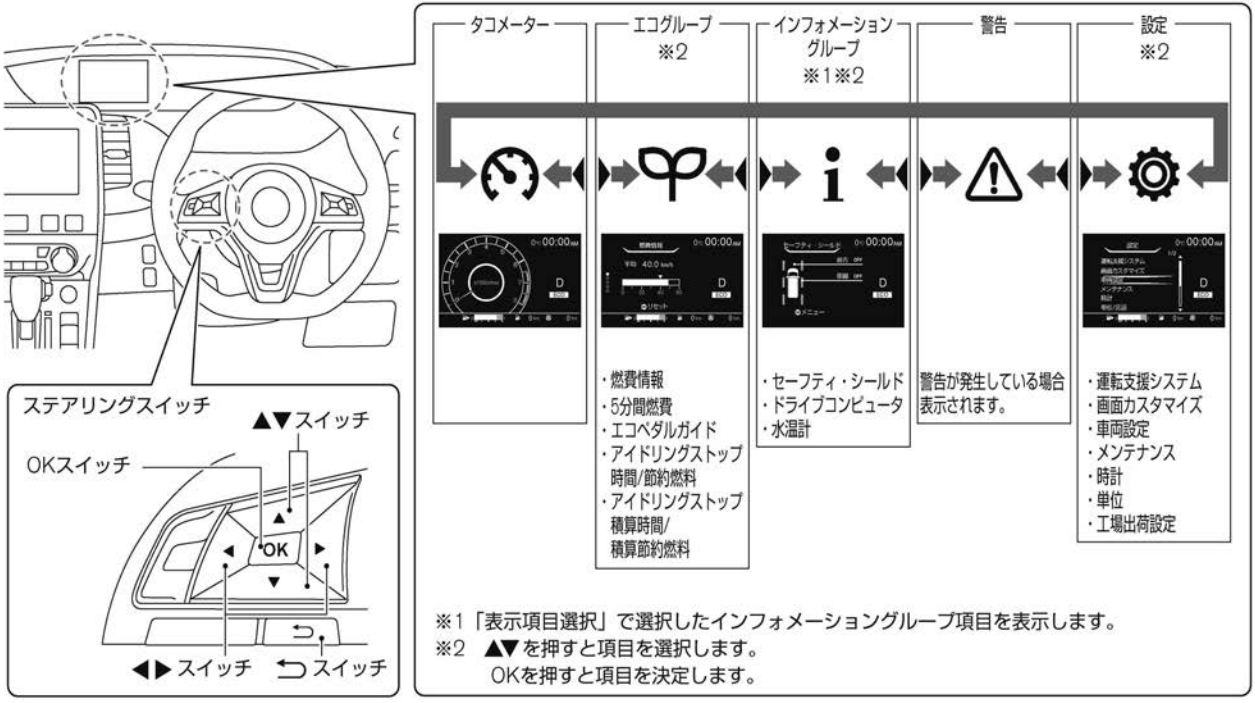
表示灯

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ECOモードインジケーター	● ECOモードスイッチをONにすると点灯します。	ECOモードの使いかた (P.229)
	低水温表示灯（緑色）	● 電源ポジションをONにすると点灯します。 ● エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。	● しばらく走行したあとも点灯し続けるときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。
	SPORT表示灯	● 電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONでセレクトレバーが D のとき、スポーツモードスイッチをONにすると点灯します。	スポーツモードスイッチの使いかた (P.210)
	アイドリングストップ表示灯★	● アイドリングストップ中に点灯します。 ● アイドリングストップ中に、ボンネットが開いたときに、早く点滅します。 ● アイドリングストップの異常のときに、遅く点滅します。 ● アイドリングストップOFFスイッチをONにすると消灯します。	**速い点滅をしたとき（約1秒間に2回）** ● ボンネットが開いていないか確認してください。ボンネットが開いていると、通常のエンジン停止状態となります。その場合はエンジンをかけ直してください。 **遅い点滅をしたとき（約2秒間に1回）** ● すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。
	S-HYBRID表示灯★	● アイドリングストップ中に点灯します。 ● エンジンアシスト機能が機能しているときに点灯します。 ● エネルギー回生機能でバッテリーを充電しているときに点灯します。	S-HYBRID★ (P.237)

マルチインフォメーションディスプレイとは

マルチインフォメーションディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定することができます。電源ポジションがONのとき、ハンドル左側にある ◀▶ スイッチを押すと、タコメーター （➔P.72）、エコグループ （➔P.73）、インフォメーショングループ （➔P.75）、警告 （➔P.76）、設定 （➔P.84）の順で表示項目が切り替わります。

画面の切り替えかた



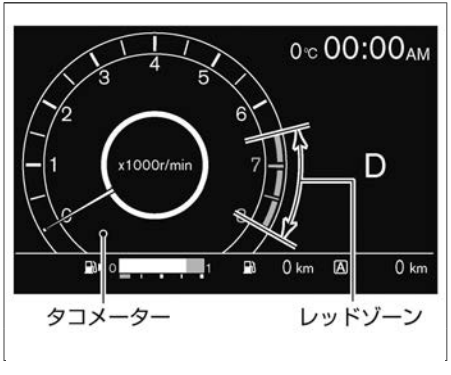
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

タコメーター（エンジン回転計）

タコメーターは1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

タコメーター（エンジン回転計）

- 電源ポジションがONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで、 タコメーター を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.71）をお読みください。



⚠ 注意

- **エンジン回転数を示す針がレッドゾーン（赤色表示部）に入らないように運転する。**
  レッドゾーンではエンジンが過回転となり故障の原因になります。

車両情報画面

様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

エコグループ（表示項目）

電源ポジションがONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで、エコグループ ♈ を選択し、 ▲▼ スイッチを押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（P.71）、設定例は（P.91）、（P.92）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	燃費情報	● リセットしてからの平均燃費や、車速に応じたアクセルペダルの踏み加減などを表示します。 平均燃費をリセットするときは、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択するとリセットされます。画面の切り替えかたについては（P.71）をお読みください。	● 平均燃費は、バッテリー交換後やリセット後は「---」と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新します。
	5分間燃費	● 過去5分単位の燃費を棒グラフで表示します。 ● 過去1時間分表示します。	知識 ● グラフは30分停車するとリセットされます。
	エコペダルガイド	● 走行中、アクセルペダルの踏み加減を表示します。 平均燃費をリセットするときは、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択するとリセットされます。画面の切り替えかたについては（P.71）をお読みください。	知識 ● アクセルペダルの踏み加減をエコ運転領域（水色ライン）に入るように調整すると、燃費向上につながります。

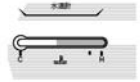
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	項目	概要	詳細説明
	アイドリングストップ（時間・節約燃料）★	● エンジン始動時からの、アイドリングストップが作動した時間と、節約された燃料を表示します。 リセットするときは、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択するとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.71）をお読みください。	知識 ● アイドリングストップについては、（➔P.230）をお読みください。
	アイドリングストップ（積算時間･積算節約燃料）★	● 前回リセット時からの、アイドリングストップが作動した合計時間と、節約された合計燃料を表示します。 リセットするときは、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択するとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.71）をお読みください。	知識 ● アイドリングストップについては、（➔P.230）をお読みください。

車両情報（表示項目）

電源ポジションがONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ で、インフォメーショングループ i を選択し、 ▲▼ を押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.71）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	セーフティ·シールド	● 走行支援システムのON·OFF状態を表示します。 ステアリングスイッチの OK スイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面が表示されるので、各システムのON·OFFを設定できます。（➔P.84）をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 – ➔ LDW（車線逸脱警報）（P.280） – ➔ エマージェンシーブレーキ（P.255）
	ドライブコンピュータ	● ドライブコンピュータを表示します。 リセットするときは、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。リセットメニュー画面が表示されるので、リセットする項目を選択し、リセットすることができます。（➔P.71）をお読みください。	知識 ● ドライブコンピュータの項目 – 平均燃費 – 平均車速 – 走行距離 – 走行時間
	水温計	● エンジン冷却水の温度を表示します。	⚠ 注意 ● **オーバーヒートを示したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。** そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。 詳しくは、オーバーヒートしたとき（➔P.389）をお読みください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告

警告について

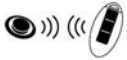
- 異常を検知するとマスターウォーニングが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告を表示します。
- 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

電源ポジションがONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで、警告 ⚠ を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。
警告を一時的に消すときは、 OK スイッチを押します。
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.71）をお読みください。

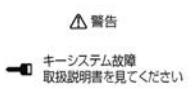
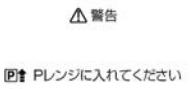
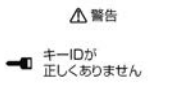
■ 警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。 表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	エンジン始動操作表示	● 携帯リモコンを持って車室内に入ると表示します。	● ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押してください。エンジンが始動します。 知識 ● 次の場合、表示が消えます。 – エンジンを始動したとき – 約15秒経過したとき – リモコン機能、またはドアハンドルのスイッチでドアを施錠したとき – セレクトレバーをP以外に入れたとき
	携帯リモコン非作動時エンジン始動表示	● 携帯リモコンの電池が切れたときや、使用環境により、携帯リモコンと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、携帯リモコンの裏面をエンジンスイッチに接触させてください。 キーレスプッシュスタートシステムで始動できないときは (P.371)
	携帯リモコン電池切れ表示	● 携帯リモコンの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 キー（携帯リモコン）の電池交換 (P.433) 知識 ● 次の場合、携帯リモコン電池切れ表示が消えます。 – 表示から約30秒経過したとき – 電源ポジションをON以外にしたとき

次ページに続く

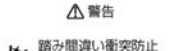
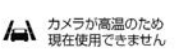
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

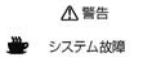
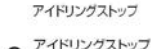
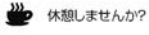
画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	携帯リモコン車外持ち出し警告	● 電源ポジションがONのとき、携帯リモコンが車外に持ち出されると表示します。	● 携帯リモコンが車外に持ち出されていないか確認してください。
	ドア開き警告	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 知識 ● 走行前に表示が消えていることを確認してください。ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
	キーシステム警告	● ステアリングロックや携帯リモコンのシステムに異常があると表示します。	● スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。エンジンが始動できないことや電源ポジションが切り替わらないことがあります。
	P戻し忘れ警告	● セレクトレバーがP以外のとき、電源ポジションをONからOFFにすると表示します。	● セレクトレバーをPに入れてください。 ● 電源ポジションをONにしたときも表示が消えます。
	キーID警告	● 次のときに電源ポジションを切り替えようとすると表示します。 – 携帯リモコンを携帯していないとき – 携帯している携帯リモコンの電池が切れているとき – 登録されていない携帯リモコンを携帯しているとき	● 携帯リモコンを携帯してください。 ● 新しい電池に交換してください。 ➔ キー（携帯リモコン）の電池交換 (P.433) ● 自車の携帯リモコンであることを確認してください。

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると（約7km/h以上）表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにパーキングブレーキを解除してください。 ➔パーキングブレーキ (P.211) **アドバイス** ● 走行するときは、必ずパーキングブレーキを解除してください。
	ステアリングロック未解除表示	● ステアリングロックを解除できないときに表示します。	● ハンドルを軽く左右に回しながらエンジンスイッチを押してください。ステアリングロックを解除すると表示が消えます。
	燃料残量警告	● 燃料が少なくなると表示します。 残っている燃料で航続可能な距離を表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 **知識** ● 燃料の残量が約7ℓ以下で表示します。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。
	オーバーヒート警告	● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。	● 点灯したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。 ➔オーバーヒートしたときは (P.389) **⚠ 注意** ● **表示したまま走行をしない。** そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

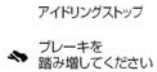
画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示	● 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。	● 車速約15km/h未満で進行方向に壁などの障害物を検知している場合に、アクセルペダルが素早く深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.264)
	ヘッドライト警告	● LEDヘッドライトに異常があると表示します。	● すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。
	システム故障警告	● LDW（車線逸脱警報）、エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシストが故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。 ➔ エマージェンシーブレーキ (P.255) ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.264) ➔ LDW（車線逸脱警報） (P.280)
	カメラ高温警告	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとLDW（車線逸脱警報）を使用することができます。 ➔ LDW（車線逸脱警報） (P.280)

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	ふらつき警報システム異常警告	● ふらつき警報に異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。 ふらつき警報 (P.285)
	ソナーシステム異常警告	● ソナーが故障したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。 通常走行に支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。 ソナー機能 (P.99)
	アイドリングストップシステム異常警告	● アイドリングストップシステムに異常があると表示します。	● システムの異常が考えられます。 通常走行に支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。 アイドリングストップ★ (P.230)
	ふらつき警報表示	● 運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。	● 表示･非表示の設定ができます。 ふらつき警報 (P.285)
	進入禁止標識検知表示	● 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合に表示します。	● 表示･非表示の設定ができます。 進入禁止標識検知 (P.288)

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
バッテリーあがりを防ぐため電源をOFFします	自動電源OFF表示A	● 電源ポジションがONのとき、セレクトレバーをPに入れたまましばらくすると表示します。	● そのまま電源ポジションを切り替えたり、セレクトレバーを操作したりしないと、省エネのため自動的に電源ポジションがOFFになります。
バッテリーあがりを防ぐため電源をOFFしました	自動電源OFF表示B	● 電源ポジションがONのとき、セレクトレバーがPのまま時間が経過し、自動的に電源ポジションがOFFになると表示します。	
ライト消灯してください	ライト消し忘れ警告	● 電源ポジションがON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、ライトスイッチがOFFまたはAUTO以外の位置にあると表示し、ブザーが鳴ります。	● ライトスイッチをOFFにしてください。
メンテナンス オイル/オイルフィルター交換してください	オイル/オイルフィルター交換表示	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（P.89）
メンテナンス タイヤ	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（P.89）
メンテナンス ユーザー	メンテナンス距離表示	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、たとえばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 設定（P.89）
0℃	凍結注意アラーム表示	● 外気温が3˚C以下になったことを知らせます。	● 表示･非表示の設定ができます。 設定（P.86）

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	走行時間アラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 表示･非表示の設定ができます。 設定（➔P.86）
	アイドリングストップメッセージ	● 車両停止時に、ブレーキペダルの踏み込みが少ないことにより、アイドリングストップしないときに表示します。	● アイドリングストップを作動させたいときはブレーキを踏み増してください。 ➔ アイドリングストップの使いかた (P.230) 知識 ● 次の場合、表示が消えます。 – アイドリングストップが作動したとき – 走行を開始したとき

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

各種設定画面

運転支援システムのON·OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。
ステアリングスイッチの使いかたは（P.71）をお読みください。

設定(各種設定画面)

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。
ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、 ▲▼ スイッチを押して決定します。走行中は操作できません。

設定例1（画面カスタマイズ） (P.91)
設定例2（オイル/オイルフィルター） (P.92)

■ 運転支援システム

項目1	項目2	項目3	機能
側方支援	LDW（車線逸脱警報）		● LDW（車線逸脱警報）のON·OFFを設定します。 LDW（車線逸脱警報） (P.280)
エマージェンシーブレーキ	システム		● エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストのON·OFFを設定します。 エマージェンシーブレーキ (P.255) 踏み間違い衝突防止アシスト (P.264)
標識検知			● 標識検知のON·OFFを設定します。 進入禁止標識検知 (P.288)

項目1	項目2	項目3	機能
駐車支援	ソナー	フロントソナー	● フロントソナーのON·OFFを設定します。 ➔ ソナー機能 (P.99)
		リアソナー	● リアソナーのON·OFFを設定します。 ➔ ソナー機能 (P.99)
		ソナー画面切替	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示ON·OFFを設定します。 ➔ ソナー機能 (P.99)
		ボリューム	● ボリュームの大きさを、大、中、小から選択します。 ➔ ソナー機能 (P.99)
		センサー感度	● センサー感度を、遠距離、中距離、近距離から選択します。障害物をより遠い状態から検知させたいときは、センサー感度を「遠距離」に設定します。 ➔ ソナー機能 (P.99)
	移動物検知		● MOD（移動物検知）のON·OFFを設定します。 ➔ MOD（移動物検知）機能について (P.297)
ふらつき警報			● ふらつき警報のON·OFFを設定します。 ➔ ふらつき警報 (P.285)

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目1	項目2	項目3	機能
走行時間	---分／---分		● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。▲▼スイッチで分が切り替わり、 OK スイッチを押すと決定します。 – 最大360分まで設定できます。 – 設定時間は30分単位で切り替わります。 （ ⮌ スイッチを押すと設定前の画面に戻ります。）
	リセット		「はい」を選択すると、走行した時間をリセットできます。
凍結注意			● 外気温が3°C以下になったときに表示する凍結注意表示のON·OFFを設定します。

■ 画面カスタマイズ

項目1	項目2	機能
表示項目選択		● 車両情報（表示項目）で表示させたい項目を選択することができます。ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を切り替えて、表示させたい項目で OK スイッチを押します。 車両情報（表示項目） (P.75)

項目1	項目2	機能
エコ情報設定	エコインジケータ	● エコインジケータのON·OFFを設定します。OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。 ➔ ECOインジケーター (P.59)
	エコドライブレポート	● エコドライブレポートのON·OFFを設定します。OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 ➔ エコグループ（表示項目） (P.73)
	燃費履歴リセット	● 燃費履歴画面を表示します。（リセットを選択すると履歴を消去します。）
メータ演出	エコインジケータ演出	● エコインジケータ演出のON·OFFを設定します。OFFにすると、エコインジケータ演出が表示されなくなります。 ➔ ECOインジケーター (P.59)
	ディスプレイ演出	● ディスプレイ演出のON·OFFを設定します。OFFにすると、エンジン始動時のアニメーションが表示されなくなります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 車両設定

項目1	項目2	機能
ライト/照明	ウェルカムヘッドライト★	● ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）のON·OFFを設定します。 ウェルカムライト機能(➔P.221)
	自動室内灯	● キー連動室内照明のON·OFFを設定します。 ➔ マップランプ/ルームランプの使いかた (P.322)
	オートライト感度調整	● オートライトの点灯タイミングを、より早い、早い、標準、遅いから選択します。 ➔ AUTO（自動点灯·消灯）の使いかた (P.218)
方向指示器	コンフォートフラッシャー	● コンフォートフラッシャー機能のON·OFFを設定します。 ➔ 方向指示器の使いかた (P.220)
ロック	I-keyエントリー	● ドアハンドルのスイッチでの施錠·解錠機能のON·OFFを設定します。 ➔ ドアスイッチでの施錠·解錠のしかた (P.112)
ワイパー	車速連動	● 車速連動のON·OFFを設定します。 ➔ フロントワイパーの使いかた (P.225)
	リバース連動	● リバース連動のON·OFFを設定します。 ➔ リヤワイパーの使いかた (P.226)

■ メンテナンス

項目	機能
オイル/オイルフィルター タイヤ ユーザー	● 設定したメンテナンス距離を超えると表示で知らせます。 ▲▼スイッチで距離が切り替わり、OKスイッチを押すと決定します。（ ⮌ スイッチを押すと設定前の画面に戻ります。） – メンテナンス距離は0km～30,000kmまでの範囲内で変更できます。 （定期交換部品等の交換距離については別冊のメンテナンスノートをご覧ください。） – 設定距離は500km単位で切り替わります。（長押しすると1,000km単位で切り替わります。） – メンテナンスのお知らせを表示したくないときは、500km表示時に▲▼スイッチを下に押して“– – –”表示にしてください。 – リセットを選択すると走行した距離をリセットできます。 （ ⮌ スイッチを押すと設定前の画面に戻ります。）

■ 時計

項目	機能
時計調整	時計を調整します。 ① OKスイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ② ▲▼ スイッチを押して「時」を調整します。 ③ OKスイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④ ▲▼ スイッチを押して「分」を調整します。 ⑤ OKスイッチを押すと時刻が設定されます。 （ ⮌ スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）
12H/24H	● OKスイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

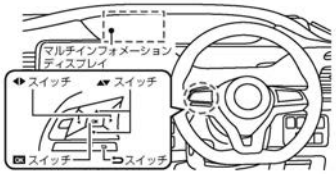
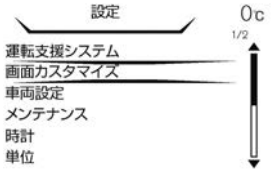
■ 単位

項目	機能
距離／燃費	● 距離と燃費の表示単位を km, km/ l または km, l/100km に切り替えます。
温度	● 温度の単位を ˚C または ˚F に切り替えます。

■ 工場出荷設定

機能
工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ● 「はい」を選択すると、各種設定が初期化されます。

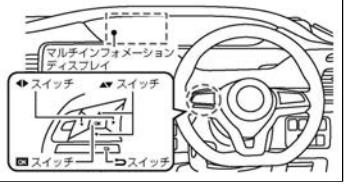
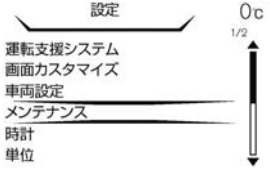
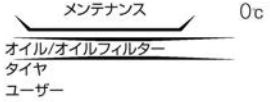
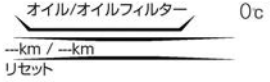
設定例1（画面カスタマイズ）

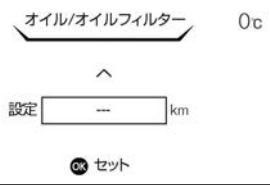
1	ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチを数回押し、[設定 ⚙]画面を表示します。	
2	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［画面カスタマイズ］を選択し、 OK スイッチを押して決定します。	
3	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［表示項目選択］を選択し、 OK スイッチを押して決定します。	
4	表示させたい項目を、ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで選択し、 OK スイッチを押して選択すると表示できるようになります。	

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

設定例2（オイル/オイルフィルター）

1	ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチを数回押し、[設定 ⚙]画面を表示します。	
2	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［メンテナンス］を選択し、OK スイッチを押して決定します。	
3	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［オイル/オイルフィルター］を選択し、OK スイッチを押して決定します。	
4	ステアリングスイッチの OK スイッチを押して変更画面に進みます。	

5	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、距離を切り替え、 OK スイッチを押して決定します。 設定距離は500km単位で切り替わります。（長押しすると1,000km単位で切り替わります。）	

時計表示

- 時刻を表示します。
- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「時計」⇒「時計調整」を選択すると、時計の調整が行えます。

設定の詳細については、画面の切り替えかた（➔P.71）、（➔P.89）をお読みください。

知識

- 時計は、バッテリーを外すと記憶が消去されます。バッテリーを接続後、正しい時刻に調整してください。
- 時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

外気温度計

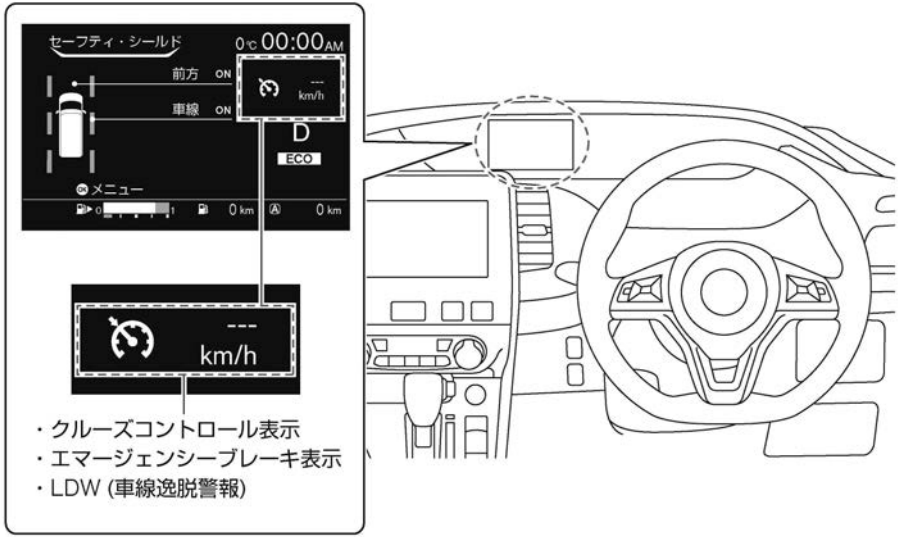
外気温度表示

- 外気温を表示します。

知識

- 外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

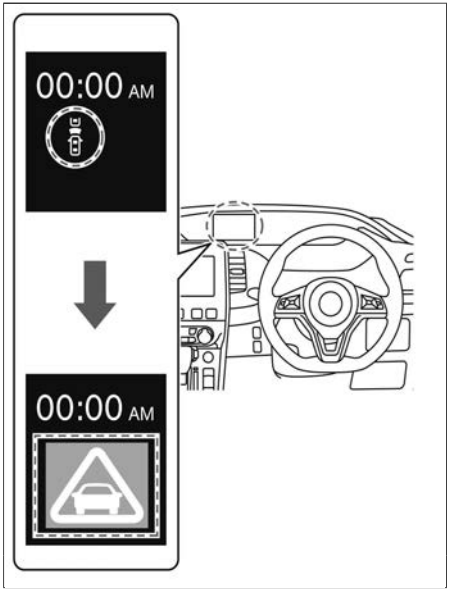
走行支援機能画面


セーフティ・シールド
0℃ 00:00AM
前方 ON
車線 ON
---
km/h
D
ECO
メニュー
0 km
0 km
---
km/h
・クルーズコントロール表示
・エマージェンシーブレーキ表示
・LDW (車線逸脱警報)

エマージェンシーブレーキ表示

- システムが衝突するおそれがあると判断すると、 メーター内の接近警報表示が点滅し、ブ ザー音とともに軽いブレーキをかけて警報します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、メーター内の接近警報表示が緊急警報表示になり、ブザー音とともに衝突の直前に自動的にブレーキが作動します。

エマージェンシーブレーキについては、（P.255）をお読みください。



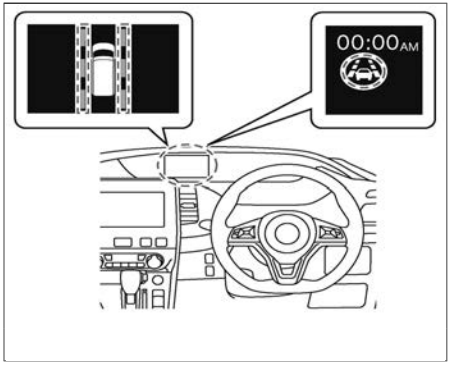
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

LDW（車線逸脱警報）表示

- 車両が右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。

LDW（車線逸脱警報）については、（P.280）をお読みください。



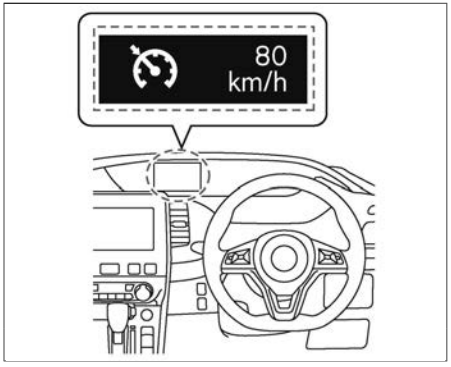
アドバイス

- 表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。エンジン再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。

クルーズコントロール表示

- クルーズコントロールをONにすると表示します。
- クルーズコントロールシステムに異常があると、表示が点滅します。

クルーズコントロールについては、（P.240）をお読みください。



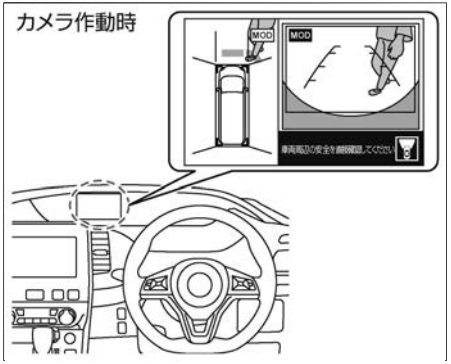
その他の表示機能

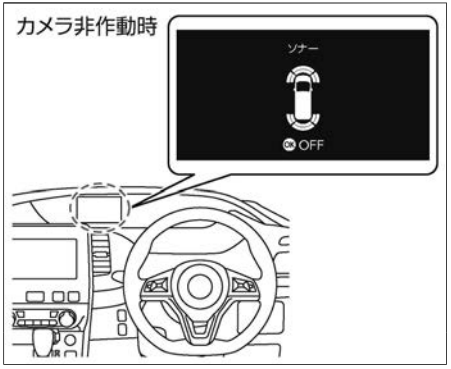
車両と障害物との距離感を、マルチインフォメーションディスプレイに表示することができます。

ソナー機能

- 車両が障害物に近づくと、メーター内ディスプレイのソナー表示色が緑→黄→赤の順に切り替わり、警報音が鳴ります。
- 次の場合にソナー機能が作動します。
  - セレクトレバーを R にしたとき（全方位モニターに表示）
  - セレクトレバーが D で障害物を検知したとき（10km/h 以下）
  - ソナー表示中にステアリングスイッチの OK スイッチを押すと、一時的にソナー機能を停止できます。
- ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
  - セレクトレバーを R 以外にしてから再度 R にしたとき
  - 車両を12km/h以上で走行させたとき
- ソナーについては、（P.444）をお読みください。

表示色	警報音
緑	ピッ、ピッ、ピッ･･･
黄	ピピピピピ･･･
赤	ピー





知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援システム」⇒「駐車支援」⇒「ソナー」を選択すると、ソナー機能の各種設定が行えます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  画面の切り替えかた (P.71)
  運転支援システム（P.85）
- カメラ作動時、非作動時でマルチインフォメーションディスプレイの表示が異なります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エコドライブレポートについて

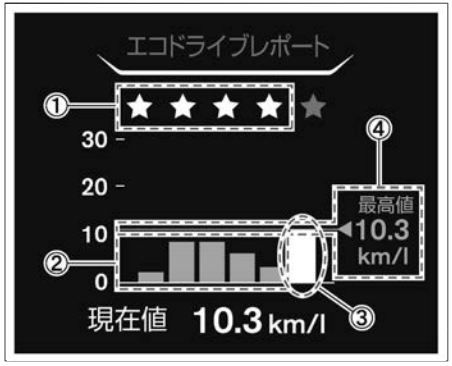
電源ポジションをOFFにするとエコドライブレポート画面を表示します。
エコ運転評価の結果表示（★）は、約10分以上走行したときに表示します。

① **今回の評価**
エコ運転するほど★が増えます。
★は1～5段階で表示されます。

② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。

③ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。

④ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。



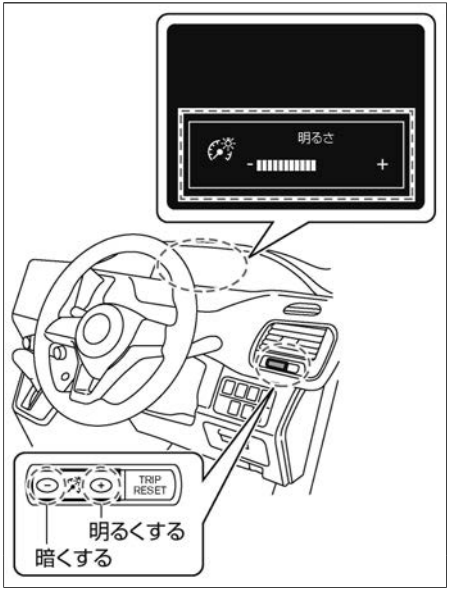
知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「エコ情報設定」⇒「エコドライブレポート」を選択すると、「エコドライブレポート」の表示･非表示を切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズをお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.71)
➔ 画面カスタマイズ (P.86)

メーターの明るさの調節のしかた

電源ポジションがONのとき、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



知識

- バッテリーを外すと調節した記憶は消去されます。

MEMO

キー

キーレスプッシュスタートシステム（キー） P.104
キーレスプッシュスタートシステム（キー）に関する注意事項 P.108

ドアの施錠と解錠

ドア P.112
フロントドア P.118
スライドドア P.119
パワースライドドア（オートスライドドア） P.126
デュアルバックドア P.138

シートの調節

フロントシート P.145
セカンドシート P.149
サードシート P.157

ハンドルの調節

ハンドル P.164

ミラーの調節

ルームミラー P.165
ドアミラー P.166

窓ガラスの開閉

パワーウインドー P.168

燃料補給口の開閉

燃料補給口 P.170

エアコンの操作

フルオートデュアルエアコン★ P.174
フルオートエアコン★ P.181
吹き出し口 P.187
フルオートエアコンシステムについて P.189
エアコンを使うときに注意すること P.190

オーディオ

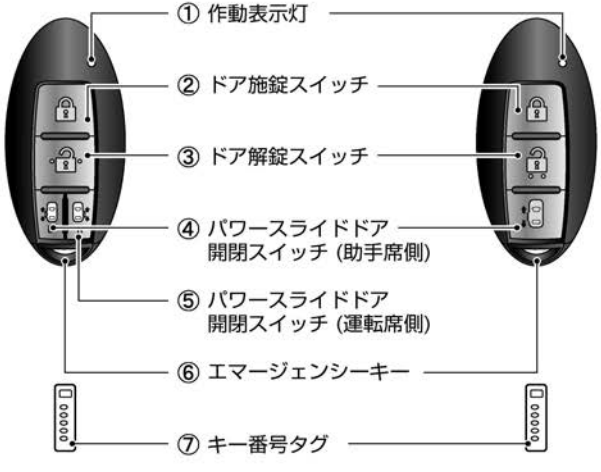
オーディオの使いかた★ P.195
ステアリングオーディオスイッチ★ P.197

キーレスプッシュスタートシステム（キー）

キー（携帯リモコン）を携帯するだけでドアの施錠･解錠、スライドドアの開閉およびエンジン始動操作ができます。
ドアの施錠･解錠のしかたは（P.112）、スライドドアの開閉のしかたは（P.126）、始動操作は（P.200）をお読みください。

各部名称と機能

携帯リモコン (エマージェンシーキー内蔵)：2個



キーレスプッシュスタートシステム（キー）

① **作動表示灯**
②～⑤のいずれかのスイッチを押すと、赤く点滅します。

② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが施錠します。

③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

④ **パワースライドドア開閉スイッチ（助手席側）★**
解錠後、スイッチを約1秒以上押すと、スライドドアが自動で開閉します。

⑤ **パワースライドドア開閉スイッチ（運転席側）★**
解錠後、スイッチを約1秒以上押すと、スライドドアが自動で開閉します。

⑥ **エマージェンシーキー**
キーの電池が切れたときや、バッテリーがあがったときなどにドアの施錠･解錠ができます。
エマージェンシーキーでのドアの開けかた (P.369)

⑦ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号からスズキ販売店またはスズキ代理店でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

アドバイス

- パワースライドドア（オートスライドドア）がオート作動中にパワースライドドア開閉スイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、パワースライドドア開閉スイッチを約1秒以上押すと、停止前の作動方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

知識

- 携帯リモコンは2個ついています。
- 携帯リモコンは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンにより、作動表示灯①の点滅回数が異なります。
- 作動表示灯が点滅しない場合は、電池の消耗が考えられます。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。
キー（携帯リモコン）の電池交換 (P.433)
- 携帯リモコンの電池が切れても、ドアの施錠･解錠やエンジンの始動を行うことができます。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

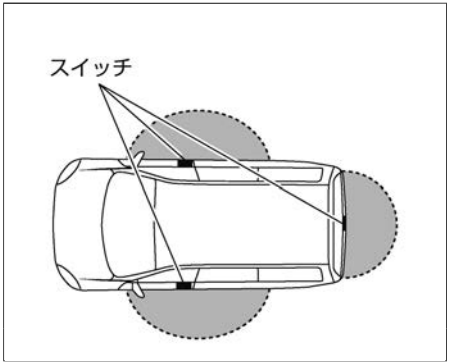
キーレスプッシュスタートシステム（キー）

知識
ドアが開かないときは (P.369) キーレスプッシュスタートシステムで始動できないときは (P.371)

ドアの施錠・解錠の作動範囲

作動範囲は各ドアハンドルのスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各ドアハンドルのスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
携帯リモコンが作動範囲内にある場合は、携帯リモコンを携帯している人以外でもドアハンドルのスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアハンドルのスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアハンドルのスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ず電源ポジションをOFFにして施錠してください。

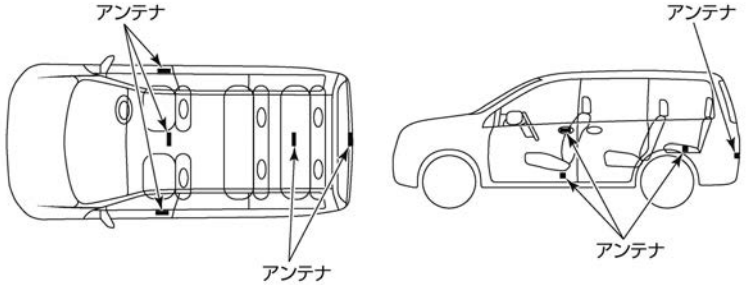


★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キーレスプッシュスタートシステム（キー）に関する注意事項

⚠ 警告

- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**
  ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などにキーレスプッシュスタートシステムの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。



- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**
  キーレスプッシュスタートシステムの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- **航空機内では携帯リモコンのスイッチを押さない。**
  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

キーレスプッシュスタートシステム（キー）に関する注意事項

アドバイス

- 携帯リモコンは運転者が必ず携帯してください。
- 携帯リモコンは、必ずエマージェンシーキーを内蔵した状態で携帯してください。
- 携帯リモコンはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのスイッチや携帯リモコンのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - 携帯リモコンが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - 携帯リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- 携帯リモコンは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 日本国内のみで使用する

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キーレスプッシュスタートシステム（キー）に関する注意事項

アドバイス

- 携帯リモコンは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年程度です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。
  キー（携帯リモコン）の電池交換 (P.433)
- 携帯リモコンの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- 携帯リモコンは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない
  - 分解しない
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 水にぬらさない
  - 超音波洗浄器などにかけない
  - 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
  - テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

知識

アンサーバック機能

- ドアの施錠･解錠時に、作動確認のための非常点滅表示灯が作動します。(施錠時1回、解錠時2回)
  アンサーバック機能のブザーを停止することができます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）★

- ドアの施錠･解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。(施錠時約10秒、解錠時約30秒)

キーレスプッシュスタートシステム（キー）に関する注意事項

知識

● マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「ウェルカムヘッドライト」を選択すると、ウェルカムライト機能(フェアウェル機能付)のON･OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定をお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.71)
➔ 車両設定 (P.88)

キー連動室内照明システム

● ドアを解錠すると、室内照明（ラゲッジルームランプを除く）が約15秒間点灯します。
詳しくは、室内照明(➔P.322)をお読みください。

タイマーロック

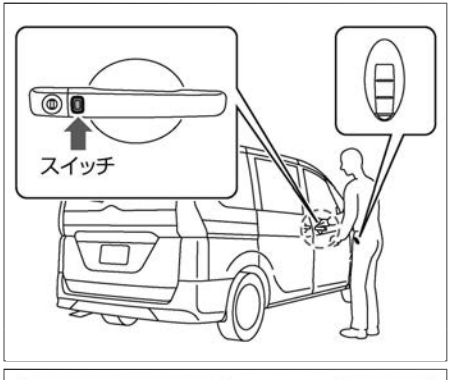
● 解錠スイッチを押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

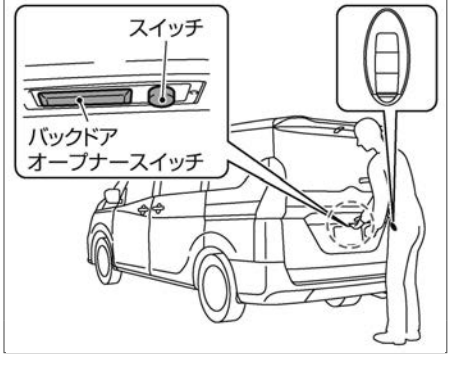
ドアハンドルのスイッチやキー（携帯リモコン）のスイッチで施錠･解錠します。
施錠したあとは、必ず施錠されていることを確認してください。

ドアスイッチでの施錠･解錠のしかた

- 携帯リモコンを携帯し、運転席、助手席ドアまたはバックドアにあるスイッチを押すと全てのドアが施錠･解錠します。
- 携帯リモコンが各スイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠･解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅





アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれるため、施錠できないことがあります。

知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ロック」⇒「I-keyエントリー」を選択すると、ドアハンドルスイッチでの施錠･解錠機能のON･OFFを切り替えることができます。
  パワースライドドアは、I-keyエントリー機能をOFFにすると、スライドドアのワンアクションスイッチによる解錠機能もOFFになります。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  画面の切り替えかた (P.71)
  車両設定 (P.88)
- 次のような場合は、作動しません。
  － 電源ポジションがONのとき
  （パワースライドドアのワンアクションスイッチを除く）

知識

- ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  （解錠のみできます）
- 携帯リモコンが施錠･解錠の作動範囲内にないとき
- 携帯している携帯リモコン以外に自車の携帯リモコンが車室内にあるとき
  （解錠のみできます）
- 携帯リモコンの電池が切れているとき

タイマーロック

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドアハンドルのスイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

携帯リモコンのスイッチでの施錠･解錠のしかた

- 全ドアを施錠するときは、ドア施錠スイッチ を押します。
- 全ドアを解錠するときは、ドア解錠スイッチ を押します。
- 作動範囲は、車両から約1mです。
- 施錠･解錠をしたときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅



知識

- 携帯リモコンのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  キー（携帯リモコン）の電池交換 (P.433)
- 携帯リモコンの電池が切れ、施錠･解錠ができないときは、エマージェンシーキーで施錠･解錠ができます。
  エマージェンシーキーでのドアの開けかた (P.369)
- 次のような場合は、携帯リモコンのスイッチを押しても作動しません。
  - 電源ポジションがONのとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
    （解錠のみできます）
  - 車から離れすぎているとき
  - 携帯リモコンの電池が切れているとき

タイマーロック機能

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機

知識

能です。ドア解錠スイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キーを使用しない施錠のしかた

前席ドア

- ロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。
  フロントドア (P.118)

スライドドア

- ロックノブを車両前方へ動かし、そのままドアを閉めます。
  スライドドア (P.119)

知識

- 次の場合は、運転席ロックノブまたはドアロックスイッチで施錠できません。
  – キーが車室内にあるとき

携帯リモコン封じ込み防止機能

- 携帯リモコンを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。ドアを閉めたときや施錠しようとしたときに、携帯リモコンが車室内に残っているとブザーでお知らせしたり、全てのドアを自動的に解錠したりします。

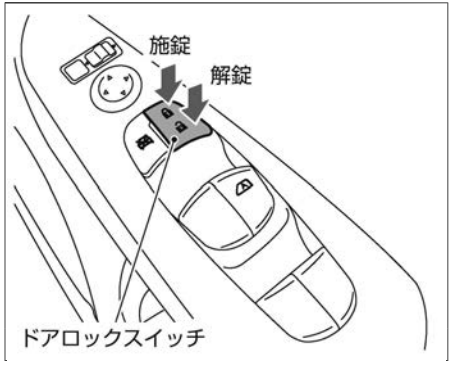
ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にドアを確実に閉める。**
  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

- 施錠するときは、ドアロックスイッチを施錠側 に押します。
- 解錠するときは、ドアロックスイッチを解錠側 に押します。

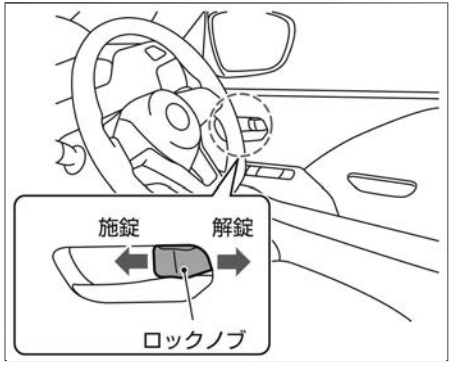


知識

- ドアロックスイッチを押すと、全ドアが施錠または解錠します。

ロックノブでの施錠・解錠のしかた

- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを車両前方に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを車両後方に引きます。



知識

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠した状態でもドアハンドルを引くことで開くことができます。このとき、全てのドアが同時に解錠されます。

ドアスイッチでの解錠のしかた

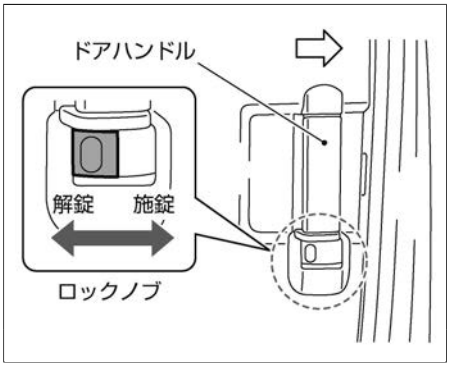
- 施錠時に携帯リモコンを携帯し、前席ドアハンドルにあるスイッチを押すと全ドアが解錠します。
- ドアスイッチでの解錠の詳細についてはドアスイッチでの施錠･解錠のしかた (P.112)をお読みください。

携帯リモコンのスイッチでの施錠･解錠のしかた

- 全ドアを施錠するときは、ドア施錠スイッチ を押します。
- 全ドアを解錠するときは、ドア解錠スイッチ を押します。
- 携帯リモコンのスイッチでの施錠･解錠の詳細については携帯リモコンのスイッチでの施錠･解錠のしかた (P.114)をお読みください。

ロックノブでの施錠･解錠のしかた

- 施錠するときは、ロックノブを車両前方に動かします。
- 解錠するときは、ロックノブを車両後方に動かします。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キーを使用しない施錠のしかた

- スライドドアのロックノブを車両前方に動かし、そのままスライドドアを閉めます。

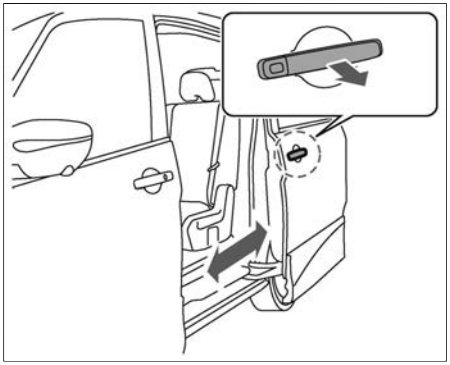
アドバイス

- 携帯リモコン封じ込み防止のため、携帯リモコンを携帯していることを確認してから施錠してください。

スライドドアの開閉のしかた

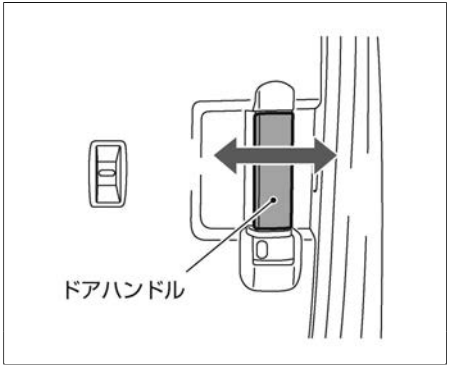
車外から開閉するには

- ドアハンドルを引きながら、スライドドアを開閉します。



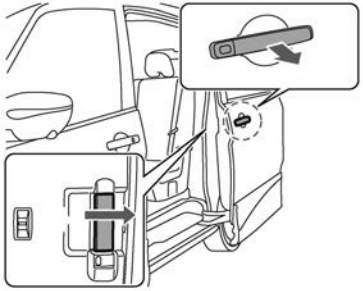
車室内から開閉するには

- 動かしたい方向にドアハンドルを操作して、スライドドアを開閉します。



知識

- スライドドアを全開すると全開位置でロックします。ロックしているときに、外側のドアハンドルを斜めに引いてもロックが外れず閉められません。ドアハンドルはスライドドアに対して垂直に引いてください。また、ロックは内側のドアハンドルを引いても外れます。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

チャイルドプルーフ

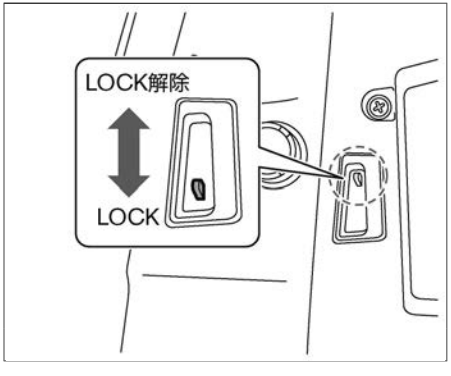
後席に乗せたお子さまなどが、誤って車室内からスライドドアを開けないようにロックできます。

ロックするには

- 左右のスライドドアにあるロックレバーをLOCK側にしてスライドドアを閉めます。

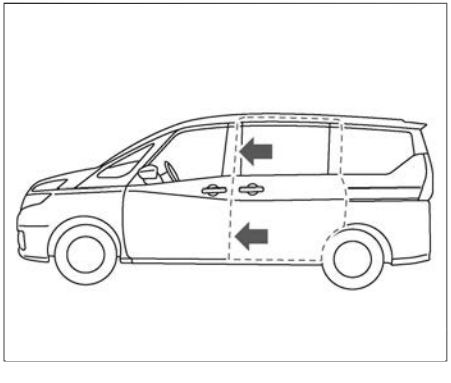
ドアを開けるには

- チャイルドプルーフがかかっているときは、車外のドアハンドルを引いて開けます。



スライドドアクローザーについて

スライドドアクローザーは、自動的にスライドドアを全閉させる機能です。
閉めるとき、半ドア状態まで閉めると自動的に全閉します。



⚠ 注意

- **スライドドアを閉めるときは、スライドドアや車体側に手を触れていたり、ドアグリップを握らない。また、スライドドアのふちやその周辺に手をかけない。**
  手を挟まれてケガをするおそれがあります。スライドドアを閉めるときは、必ず外から閉めてください。

アドバイス

- ドアハンドルを開方向に引いたままスライドドアを閉めると、スライドドアクローザーは作動しません。
- バッテリーが弱っているとスライドドアクローザーが作動しないことがあります。その場合は、手で強く閉めるかエンジンをかけてから閉め直してください。
- スライドドアクローザーの故障によりスライドドアが閉まりきらないときは、スライドドアを一旦開け、再度手で閉めてください。
- スライドドアクローザーの故障によりスライドドアが開かなくなった場合は、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

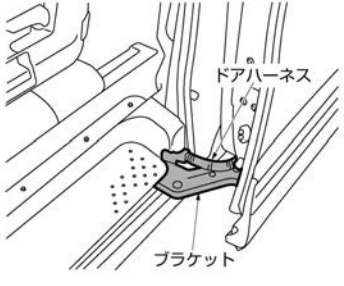
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

スライドドアに関する注意事項

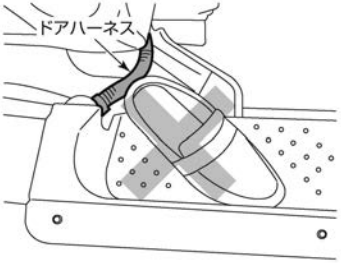
⚠ 注意

● **スライドドアを開閉するときは、次のことを必ず守る。**
- 必ずドアハンドルを持って開閉してください。
- 傾斜地でスライドドアを開けるときは、ロックするまで確実に開けてください。
- スライドドアを強く開けないでください。
- ドアハーネスやブラケットに手や足などをかけないでください。



- スライドドアを閉めるときは、ステップの上に物が無いことを確認してください。

⚠ 注意



知識

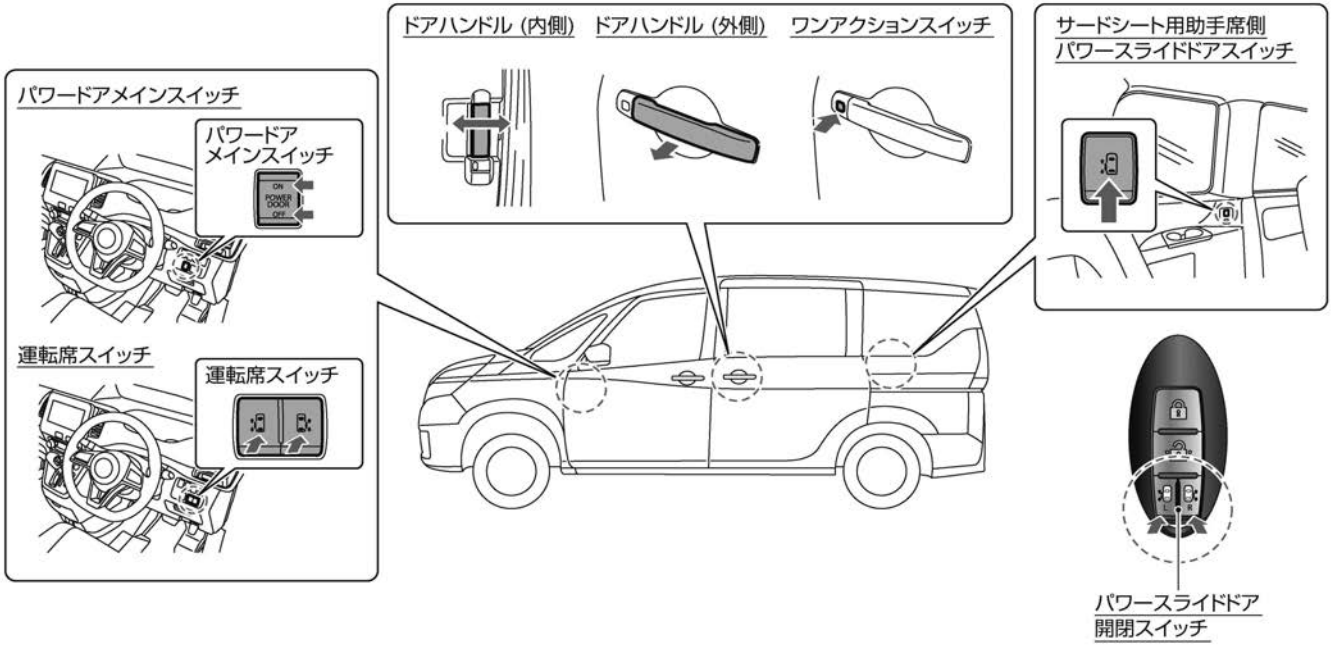
- 燃料補給口を開けているときに運転席側のスライドドアを開けると、リッドと干渉を防ぐために約半分開いたところで止まります。
- 運転席側のスライドドアが全開しているとき、燃料補給口を開けるとスライドドアと干渉します。

パワースライドドア（オートスライドドア）

パワースライドドア（オートスライドドア）は、スライドドアを自動的に開閉することができます。

パワースライドドア（オートスライドドア）の機能について

パワースライドドア（オートスライドドア）は、次の方法でスライドドアを自動的に開閉できます。



パワースライドドア（オートスライドドア）

ドアハンドルによる開閉：
ドアハンドルでスライドドアの開閉ができます。（P.130）
運転席スイッチ：
運転席スイッチでスライドドアの開閉ができます。（P.132）
ワンアクションスイッチ：
車外ドアハンドルのワンアクションスイッチでスライドドアの開閉ができます。（P.133）
パワースライドドア開閉スイッチ：
キー（携帯リモコン）のスイッチでスライドドアの開閉ができます。（P.132）
サードシート用助手席側パワースライドドアスイッチ：
車室内スライドドア開口部近くにあるサードシート用助手席側パワースライドドアスイッチでスライドドアの開閉ができます。（P.134）

また、パワースライドドア（オートスライドドア）には、次の機能があります。

挟み込み防止機構：
オート作動中に手を挟むなど、挟み込みや引っかかりを検知すると、安全のため反対方向に少し作動して停止します。（P.135）
スライドドアクローザー：
スライドドアを半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。（P.122）

知識

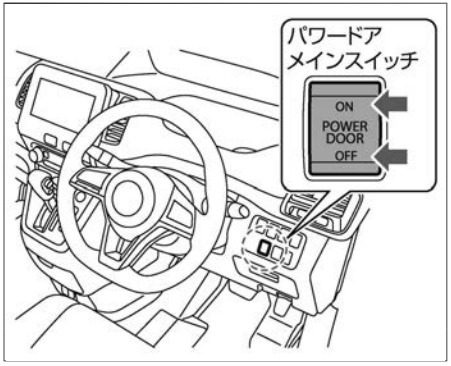
- 閉作動時、半ドア位置までドアがスライドすると、スライドドアクローザー機能で全閉します。（P.122）
- パワードアメインスイッチがONのとき、スライドドアを開けたまま車を動かすとブザーが鳴ります。（停車またはスライドドアを閉めるとブザーは止まります。）
- オート作動の開始時とオート閉作動中は、ブザーが鳴ります。
- 燃料補給口が開いているときは、リッドとの干渉を防ぐため運転席側スライドドアのパワースライド（自動開閉）機能が作動しません。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パワースライドドア（オートスライドドア）の作動について

- オート作動は、以下の条件が満たされたときに作動させることができます。
  - パワードアメインスイッチがONのとき
  - 車両が停止しているとき
- 電源ポジションがONのときは、いずれか1つ以上満たすと作動します。
  - セレクトレバーが P に入っている
  - フットブレーキを踏んでいる
  - パーキングブレーキをかけている
- 車両が停止しているときは、電源ポジションがどの位置にあっても作動させることができます。



アドバイス

- オート作動中に作動可能条件が満たされなくなると、作動が停止しオート作動しなくなることがあります。その場合、作動可能条件を再度満たすとオート作動させることができます。

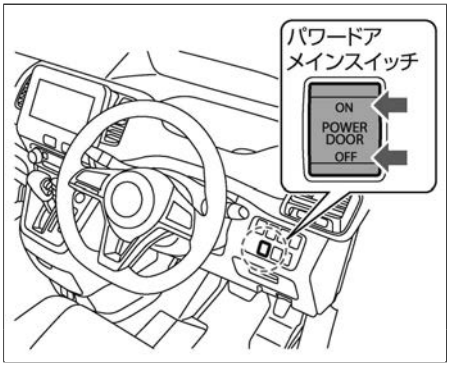
知識

- パワードアメインスイッチをOFFにしてもスライドドアクローザーは作動します。
- バッテリー電圧が極端に下がっている（11V以下）と作動しません。

パワースライドドア（オートスライドドア）の使いかた

パワードアメインスイッチで自動開閉機能のON･OFFを切り替えることができます。

- スイッチのON側を押すと、パワースライドドア（オートスライドドア）がONになります。
- スイッチのOFF側を押すと、パワースライドドア（オートスライドドア）がOFFになります。



知識

- パワードアメインスイッチをOFFにしてもスライドドアクローザーは作動します。
- オート作動中にパワードアメインスイッチをOFFにすると、スライドドアが途中で止まります。

■ パワードアメインスイッチの作動

スイッチ位置	ドアハンドルによる開閉操作	運転席スイッチによる開閉操作	パワースライドドア開閉スイッチによる開閉操作	ワンアクションスイッチによる開閉操作	サードシート用助手席側パワースライドドアスイッチによる開閉操作
ON	**作動**	**作動**	**作動※**	**作動**	**作動**
OFF	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動

※：電源ポジションがONのときは作動しません。

次ページに続く

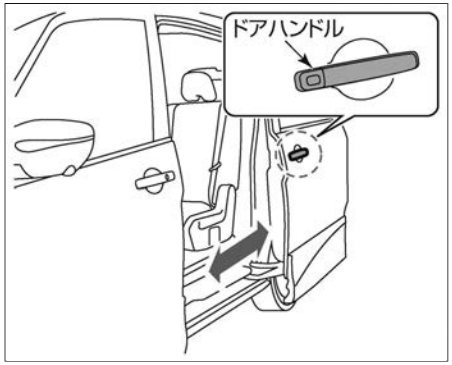
ドアハンドルによる開閉のしかた

パワースライドドア（オートスライドドア）は、通常のスライドドアと同様にドアハンドルを使用しても開閉できます。

■ 車外のドアハンドル

スライドドアを解錠してから操作します。

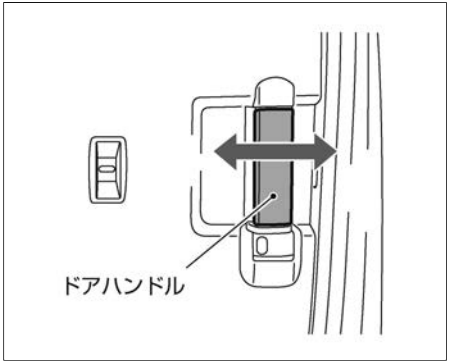
- スライドドア全閉時にドアハンドルを引くと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にドアハンドルを引くと、自動的に閉まります。
- オート作動中にドアハンドルを引くと、その位置でオート作動を停止します。
  再度、ドアハンドルを引くと反対の方向に動き、全閉または全開して停止します。



■ 車室内のドアハンドル

スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にドアハンドルを車両後方側へ操作すると、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にドアハンドルを車両前方側へ操作すると、自動的に閉まります。
- オート作動中にドアハンドルを開または閉方向に操作すると、その位置でオート作動を停止します。再度、ドアハンドルを任意に操作した方向に、全閉または全開して停止します。



知識

- チャイルドプルーフをLOCK側にしているときは、車室内のドアハンドルでは開けることができません。

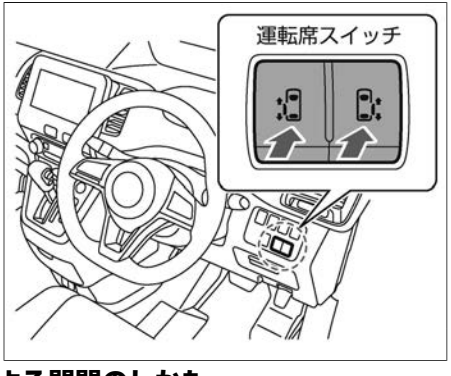
チャイルドプルーフ (P.122)

次ページに続く

運転席スイッチによる開閉のしかた

スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全閉または全開して停止します。



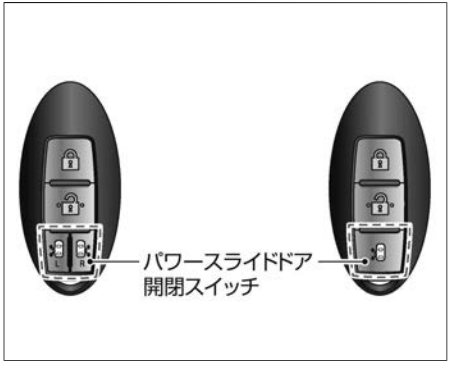
⚠ 注意

- **開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を確認してください。**
  挟まれたり、スライドドアに当たりケガをするおそれがあります。

パワースライドドア開閉スイッチによる開閉のしかた

スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

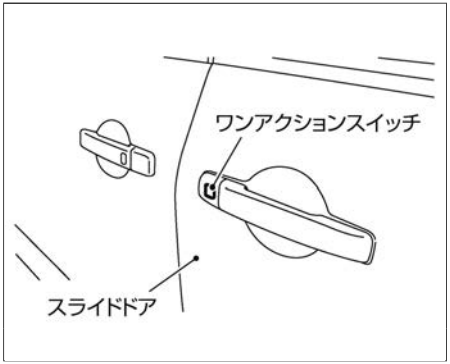


知識

- 電源ポジションがONのときは、パワースライドドア開閉スイッチでの開閉はできません。

ワンアクションスイッチによる開閉のしかた

- スイッチを押すだけで、スライドドアを開閉することができます。
- 施錠時でもキー（携帯リモコン）を携帯していれば、スイッチを押すだけでスライドドアを開けることができます。このとき全ドアが同時に解錠されます。
- 携帯リモコンがスイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- オート作動中にワンアクションスイッチを押すと、その状態で停止します。再度、ワンアクションスイッチを押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。



アドバイス

- ワンアクションスイッチでスライドドアを閉めただけでは、施錠状態になりません。
  車を離れるときは、必ず施錠してください。

知識

- I-keyエントリー機能をOFFにすると、スライドドアのワンアクションスイッチによる解錠機能もOFFになります。
  車両設定 (P.88)
  ドアスイッチでの施錠・解錠のしかた (P.112)

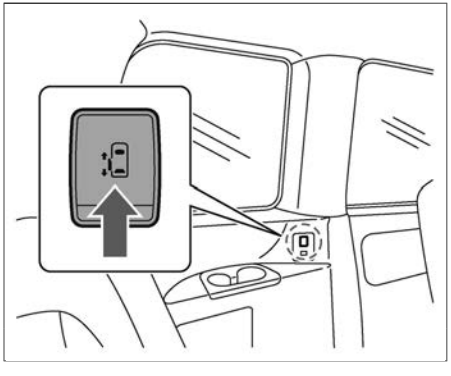
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

サードシート用助手席側パワースライドドアスイッチ

開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を確認してください。スライドドアを解錠してから操作します。

- スライドドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に開きます。
- スライドドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、停止します。



知識

- チャイルドプルーフがかかっているときは、サードシート用助手席側パワースライドドアスイッチで、オート開作動はしません。（オート閉作動は作動します。）
  チャイルドプルーフ (P.122)

全ドア連動ロック機能

- スライドドア全開状態で、スライドドアのロックノブを車両前方に動かしたあとにスライドドアを閉めると、スライドドアが閉まると同時に全ドアが施錠されます。

知識

- 電源ポジションがONのときは、施錠されません。（施錠操作後、すぐに全ドアが解錠されます）
- 操作するスライドドア以外のドアが全て閉まっていないと施錠されません。

正常に作動しないとき

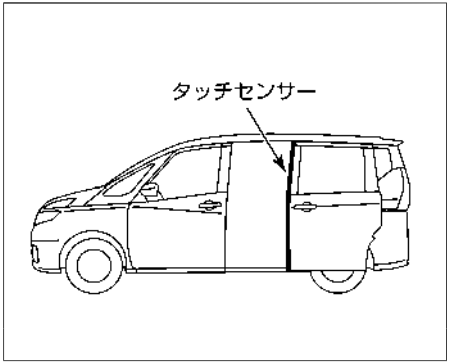
スライドドアがオートで動かないときは、次の内容で対処してください。

- 連続作動後に動かないときは、スライドドアを約5分間以上作動させずに放置したあと、作動させます。
- バッテリーが弱っていると、スライドドアがオート開閉できないことがあります。その場合は、エンジンをかけてから作動させます。
- ワンアクションスイッチを使うときは、キー（携帯リモコン）がワンアクションスイッチから80cm以内にあるか確認してください。
- スライドドアが全閉または全開になっていることを確認してください。
- パワードアメインスイッチがONになっていることを確認してください。
- I-keyエントリー機能をOFFにすると、スライドドアのワンアクションスイッチによる解錠機能もOFFになります。

ドアスイッチでの施錠･解錠のしかた (P.112)

挟み込み防止機構

- スライドドアのオート作動中に物や人が挟み込まれたり、引っかかるような動きを感知すると、ドアが作動方向と反対の方向に少し動いたあとに停止します。
- スライドドアがオート作動中にスライドドアのタッチセンサーに触れると、ドアが作動方向と反対の方向に少し動いたあとに停止します。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パワースライドドア（オートスライドドア）に関する注意事項

⚠ 注意

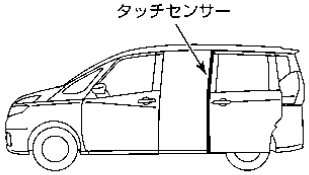
- **確実に停車している状態で開閉操作をする。**
- **開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を十分確認する。**
  周囲の人の身体がスライドドアや車体側に触れたままオート作動させると、手や腕などを挟まれたり、頭や腕を引きこまれて思わぬケガをするおそれがあります。
- **車が大きく傾いている状態ではオート作動をしない。**
- **オート作動中にスライドドアを押したり引いたりしない。**
  反転して挟まれたり、スライドドアに当たりケガをするおそれがあります。
- **スライドドアレール部には手をいれない。**
  レール部のケーブルに触れると、スライドドアがオート作動するおそれがあります。

アドバイス

- エンジン停止時に何回も作動させないでください。バッテリーがあがりエンジンの始動ができなくなります。
- オート作動中にエンジンを始動させないでください。正常に作動しなくなることがあります。
- 車を発進させるときは、スライドドアが全閉していることを確認してください。
- 次の場合は、パワードアメインスイッチをOFFにしてください。
  - スライドドアが故障したとき
  - スライドドアを長時間開いたままにするとき
  - 洗車（ワックスがけ）や整備を行うとき
  - 手動で使用するとき

アドバイス

- 全開時には、車外または車室内のドアハンドルに不用意に手を掛けたり、ワンアクションスイッチに触れないでください。ドアハンドルまたはスイッチを操作すると自動でドアが閉まります。
- スライドドア前端部のタッチセンサーを傷つけないようにしてください。センサーが切断されると、パワースライド機能は作動しなくなります。



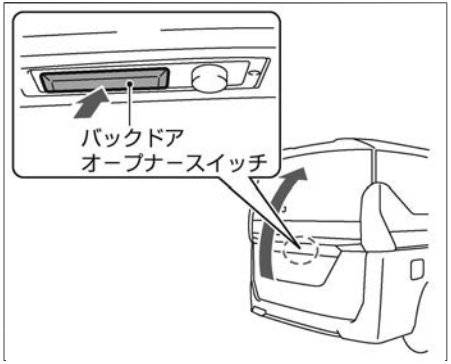
- バッテリーあがりやバッテリーの脱着を行ったあと、スライドドアが開いている状態で再びバッテリーをつないだときは、必ず一旦手動でドアを全閉してからオート作動を行ってください。全閉位置以外からは、パワースライドドア機能がはたらきません。

デュアルバックドア

デュアルバックドアは、使用状況に合わせてバックドア（全体）／ハーフバックドア（上側）の2通りで開閉することができます。

バックドアの開けかた

- 解錠されているときは、バックドアオープナースイッチを押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、携帯リモコンを携帯してバックドアオープナースイッチを押し、バックドアを持ち上げます。（全ドアも同時に解錠します。）



アドバイス

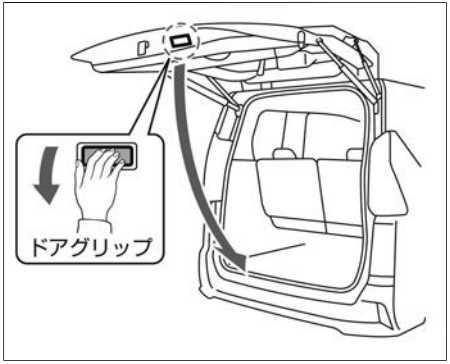
- バックドアオープナースイッチを押したまま、携帯リモコンのスイッチでドアを施錠･解錠しないでください。故障の原因になります。

知識

- ハーフバックドアを開けた状態でも、バックドアの開閉が行えます。

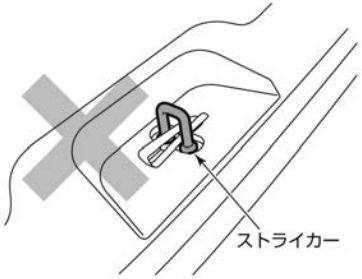
バックドアの閉めかた

- ドアグリップに手を掛け、バックドアを降ろし確実にロックするまで押しつけます。



アドバイス

- バックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ハーフバックドアの開けかた

- 解錠されているときは、ハーフバックドアオープナースイッチを押し、ハーフバックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、携帯リモコンを携帯してハーフバックドアオープナースイッチを押し、ハーフバックドアを持ち上げます。（全ドアも同時に解錠します。）



アドバイス

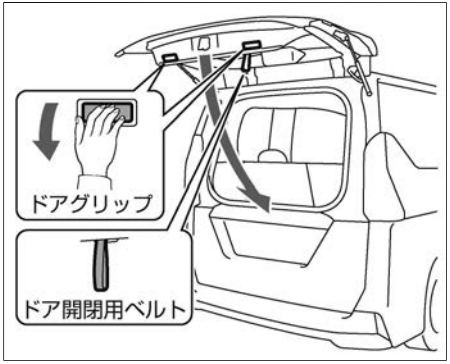
- ハーフバックドアオープナースイッチを押したまま、携帯リモコンのスイッチでドアを施錠･解錠しないでください。故障の原因となります。

知識

- ハーフバックドアを開けた状態でも、バックドアの開閉が行えます。

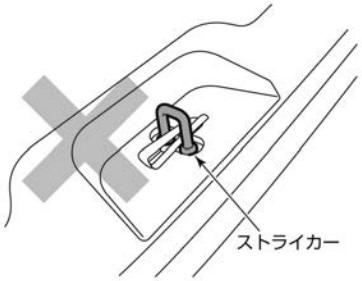
ハーフバックドアの閉めかた

- ドアグリップまたはベルトに手を掛け、ハーフバックドアを降ろし確実にロックするまで押しつけます。



アドバイス

- ハーフバックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやハーフバックドアのロックが破損し、ハーフバックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

デュアルバックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **デュアルバックドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **デュアルバックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にデュアルバックドアを確実に閉める。**
  走行中に突然デュアルバックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **デュアルバックドアや車体側に手を触れたままデュアルバックドアを閉めない。**
  手を挟まれてケガをするおそれがあります。
- **デュアルバックドアを閉めるときは、デュアルバックドアのふちやその周辺に手をかけない。**
  手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。
- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**
  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **走行前にデュアルバックドアが確実に閉まっていることを確認する。**
  デュアルバックドアを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **デュアルバックドアを開ける前に、デュアルバックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**
  重量物が付いたままデュアルバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。
- **デュアルバックドアを開けるときは、必ず全開にする。**
  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- **風が強いときにデュアルバックドアを開ける場合は特に注意する。**
  風にあおられ、急に閉まることがあります。
- **デュアルバックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

デュアルバックドアガスステーについて

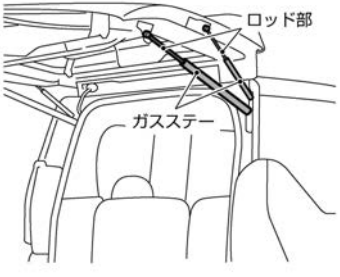
- **デュアルバックドアのガスステーは、デュアルバックドアの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**
  – ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない。
  – ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をロッド部に付着させない。
- **ガスステーを持って、デュアルバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。**
  手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

次ページに続く

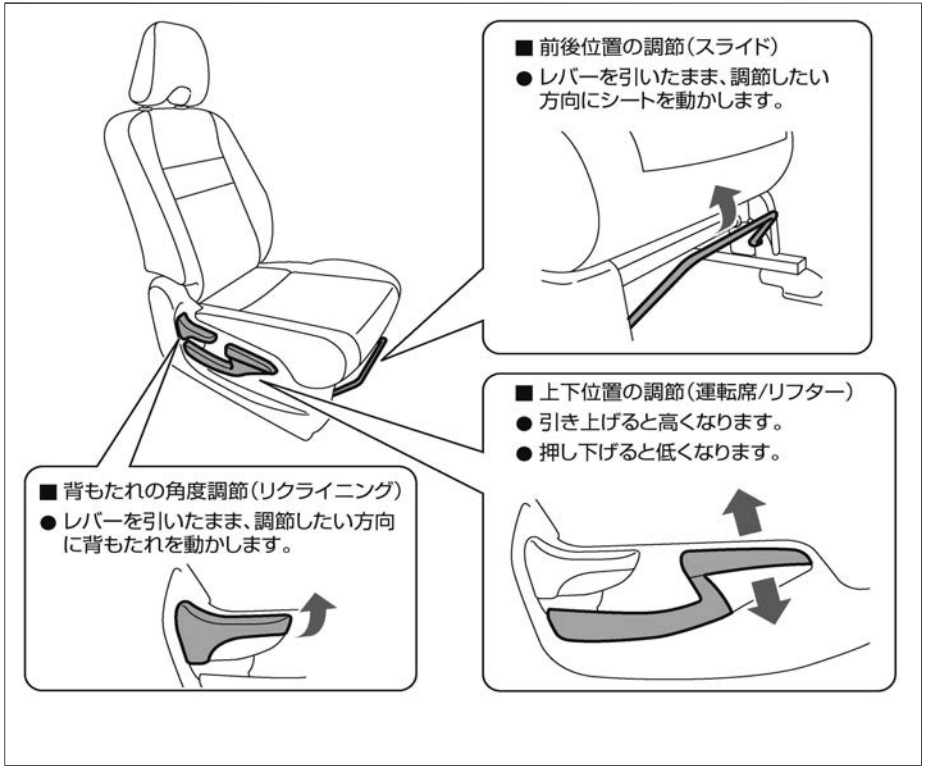
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

デュアルバックドア

⚠ 注意



シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

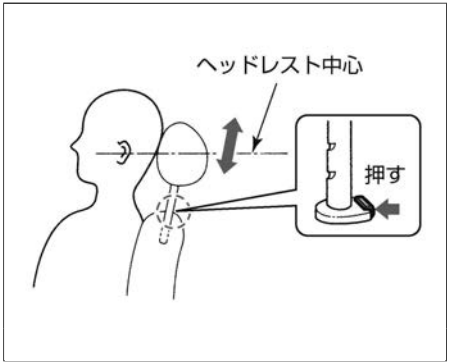
アドバイス

- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認してください。USB電源ソケット★やモバイル機器が破損するおそれがあります。
  ➔ USB電源ソケットの使いかた (P.336)
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用すると、シートベルトリマインダーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  シートベルトリマインダー（➔P.65）

ヘッドレストの調節のしかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。



⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**
  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

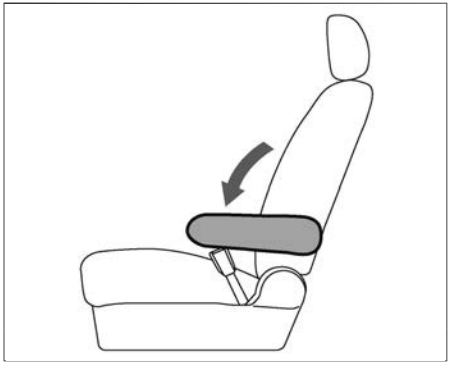
- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アームレストの使いかた（運転席･助手席）

- アームレストは運転席と助手席にあります。
- 使うときはアームレストを前に倒します。格納するときは引き上げます。



シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。

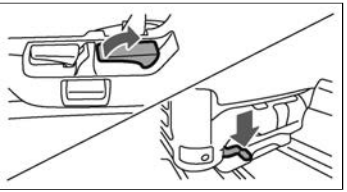
アドバイス

- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認する。
  USB電源ソケット★やモバイル機器が破損するおそれがあります。
  USB電源ソケットの使いかた (P.336)

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構）

1	セカンドシートのリクライニングレバーまたはセカンドシート背面下部のペダルを踏んで、背もたれを前に倒します。	
2	セカンドシートを前方にスライドさせます。	
3	戻すときは、シートを後方にスライドさせたあと、背もたれを起こして固定します。	

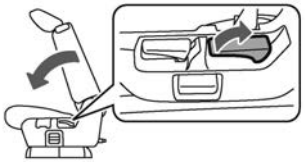
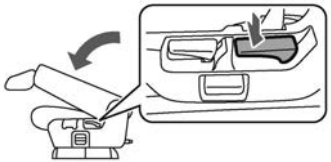
⚠ 警告

- **ウォークイン機構を作動させるときは背もたれを手で押さえ、ゆっくり作動させる。**
  急に背もたれが倒れたりシートがスライドすると、顔や身体などに当たったり、手や足を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを倒すときは十分に注意する。**
  物や飲物などを置いたままウォークイン機構を作動させないでください。物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。

シートの折りたたみかた

1	リクライニングレバーを引き上げて、倒れるところまで背もたれを倒します。	
2	リクライニングレバーを下側に押して、背もたれを手で押しながら、更に背もたれを倒します。	
3	元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。	

⚠ 警告

- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**
  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがります。
- **背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。**
  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートは必ず固定する位置で使用する。**

⚠ 注意

- **シートを倒すときは十分に注意する。**
  物や飲物などを置いたままシートを折りたたまないでください。物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。

アドバイス

- フロントシートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、フロントシートの前後位置を調節してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ ヘッドレストの使いかた

セカンドシート左右席

- ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。耳の高さにならない場合は、1段上のロックする位置まで上げて使います。
  - 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
  - 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

セカンドシート中央席

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

⚠ 警告

- **セカンドシート中央のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。**
  格納状態では機能が十分に発揮できません。

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 脱着のしかたは、フロントシートと同じです。
  ➔ ヘッドレストの外しかた、付けかた (P.147)

アームレストの使いかた

スマートマルチセンターシートの背もたれを倒すと、アームレストになります。

- スマートマルチセンターシートの前後位置を座っているシートの位置に合わせます。
- ストラップを引いて、スマートマルチセンターシートの背もたれを前に倒します。
- 元に戻すときは、背もたれを起こします。



次ページに続く

横スライド機構（運転席側★／助手席側）

1	スマートマルチセンターシートを前方または後方にスライドします。 スマートマルチセンターシート（セカンドシート中央部）(P.155)	
2	シート横側にある横スライドレバーを引いたまま、シートを車両中央側に動かし固定します。	
3	元に戻すときは、横スライドレバーを引いたまま、シートを元の位置に動かし固定します。	

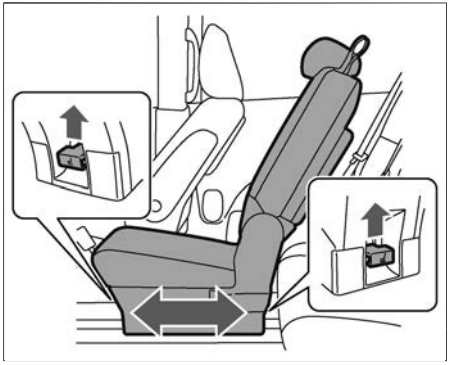
⚠ 注意

- **横スライドしたときは、3人掛けのシートとして使用しない。**
  3人掛けをするときは、スマートマルチセンターシートを合わせてご使用ください。

スマートマルチセンターシート（セカンドシート中央部）

■ 前後位置の調節

- シートの前または後ろにあるレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーから手を離し固定します。



⚠ 警告

- **スマートマルチセンターシートに座るときは、必ず運転席側のセカンドシートと前後位置と背もたれの角度を合わせる。**
  シートベルトもセンターシート用のベルトを使用してください。位置がずれたままシートベルトを使用すると正しく着用ができず、万一の場合は、傷害を増大させることがあります。
- **運転席と助手席の間にスライドさせたときは、絶対にセンターシートに座らないでください。**
  シートとして使用することはできません。

知識

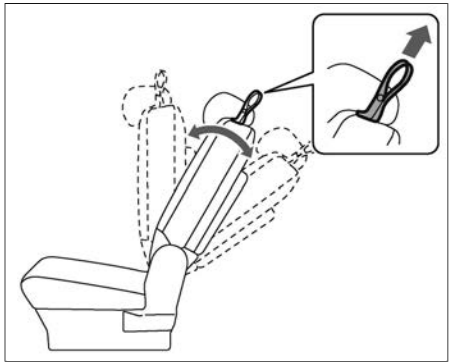
- スマートマルチセンターシートをフロントシート側にスライドさせると、セカンドシートとサードシート間をウォークスルーできます。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 背もたれの角度調節

- ストラップを引いたまま、背もたれを傾けます。



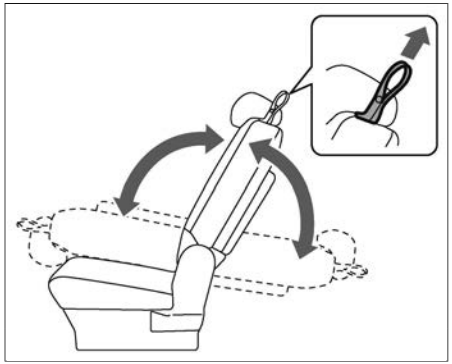
⚠ 警告

- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 背もたれの倒しかた

シートの背もたれを前または後ろ側に倒すことができます。

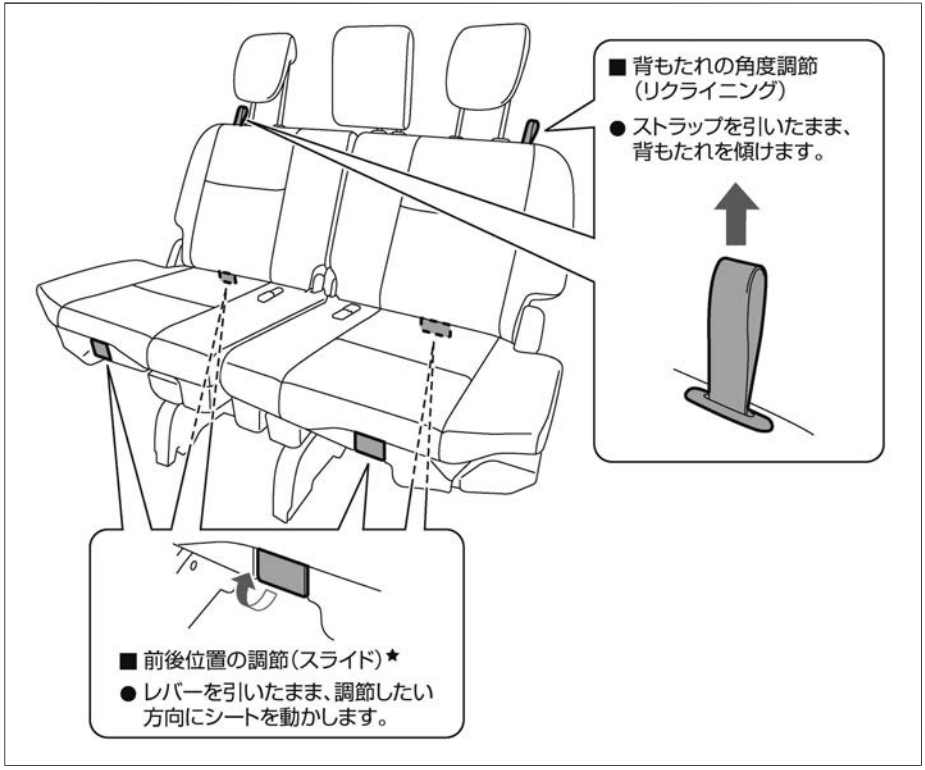
- ストラップを引いたまま背もたれを後ろ側に倒します。



⚠ 注意

- **背もたれを倒したときは、上に乗らない。**
  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

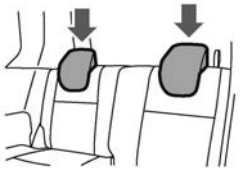
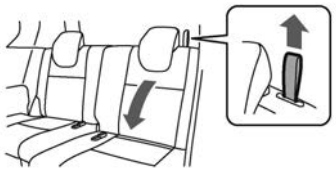
アドバイス

- シートを戻すときは、必ずシート脚部（レッグ部）を起こしてから操作してください。
- シートを操作するときは、左右のシートベルトのタングをシートベルトクリップで留めます。



- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認する。
  USB電源ソケット★やモバイル機器が破損するおそれがあります。
  USB電源ソケットの使いかた (P.336)

シートの折りたたみかた

1	中央席にヘッドレストを装着しているときは、ラゲッジルーム内の格納場所にヘッドレストを格納してください。 ➔ヘッドレストの使いかた (P.163)	
2	左右席のヘッドレストを一番下に下げます。 ➔ヘッドレストの使いかた (P.163)	
3	ストラップを引いたまま、前側に倒します。	
4	元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。	

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

5 シートを元に戻したときは、中央席ヘッドレストを取り付けます。
ヘッドレストの使いかた (P.163)

⚠ 警告

- **シートを倒すときは十分に注意する。**
  シートに人が乗っていたり、物や飲物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、車室内を汚すおそれがあります。
- **シートを元の位置に戻したときは、確実に固定されたことを確認する。**

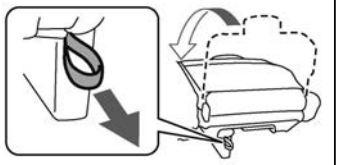
アドバイス

- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認する。
  USB電源ソケット★やモバイル機器が破損するおそれがあります。
USB電源ソケットの使いかた (P.336)

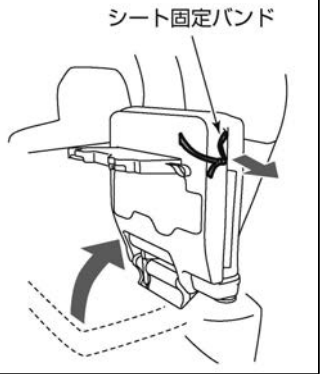
格納のしかた

1 中央席ヘッドレストを装着しているときは、ラゲッジルーム内の格納場所にヘッドレストを格納してください。
ヘッドレストの使いかた (P.163)

2 青色のストラップを引いてシート脚部（レッグ部）のロックを解除します。（同時に背もたれが前に倒れます。）

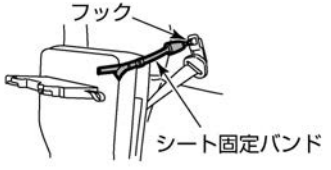
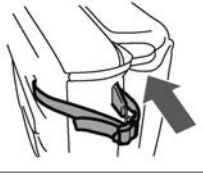


3 シートを窓側へ折りたたみ、シート固定バンドを引き出します。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

4	シート固定バンドのフックを側面のフック掛けに確実に引っ掛けます。シート固定バンドの長さを調節して、シートをしっかりと固定します。	
5	シート脚部（レッグ部）を折りたたみます。	
6	元に戻すときは、シート固定バンドをシートに格納してから、横に折りたたんだときと逆の手順で操作します。背もたれを戻すときは、ストラップは引かずに背もたれを起こします。	

⚠ 警告

- **シートを倒すときは十分に注意する。**
  シートに人が乗っていたり、物や飲物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、室内を汚すおそれがあります。特にストラップで背もたれを倒すときは、シートで前方が見えにくいので注意してください。
- **シート固定バンドは確実にシートベルト上部のフックにかける。**
  ねじれないように掛けてください。振動で外れたりすると危険です。
- **シートを元に戻したときは、シート脚部（レッグ部）のロックが確実に固定されていることを確認する。**

アドバイス

- シートを操作するときは、USB電源ソケット★にUSB端子がささっていないことを確認する。
  USB電源ソケット★やモバイル機器が破損するおそれがあります。
  USB電源ソケットの使いかた (P.336)

ヘッドレストの使いかた

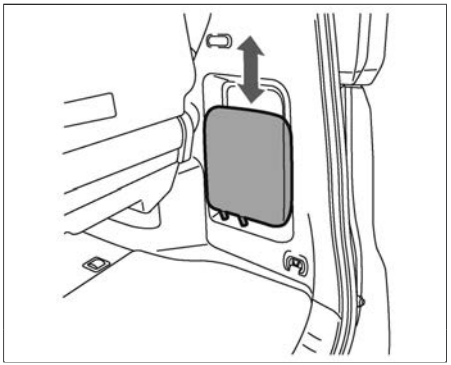
- サードシート左右席のヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。
- サードシート中央席のヘッドレストは、差し込んでロックする位置で使います。

⚠ 注意

- **ヘッドレストはロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用する。**
  格納状態では機能が十分に発揮できません。

■ ヘッドレスト（中央）の取り出しかた、格納のしかた

- サードシート中央席のヘッドレストはラゲッジルーム内に格納されています。
- 上方向に引き抜きます。
- 格納するときは、向きに注意して差し込みます。



■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

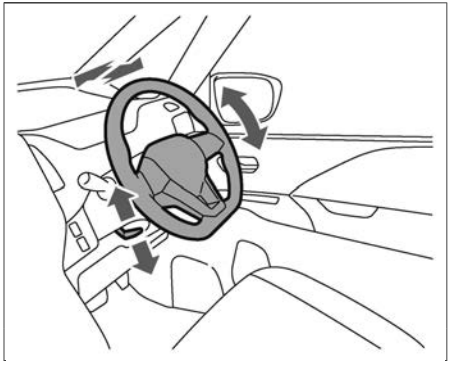
- ヘッドレストの脱着のしかたは、フロントシートと同じです。
  ➔ ヘッドレストの外しかた、付けかた (P.147)

ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節してください。

ハンドル位置の調節のしかた

- ハンドル下のレバーを押し下げ、ハンドルを前後･上下に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。



⚠ 警告

- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ホーンの鳴らしかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。



ルームミラー

ルームミラーは、後方が十分確認できるように、正しい運転姿勢で座ってから調節してください。

ルームミラーの調節のしかた

- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- 夜間など後続車のヘッドライトがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。
- 昼間など通常走行時は、防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。



⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**
  走行中にミラーを調節したり、不必要に防眩へ切り替えたりしていると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

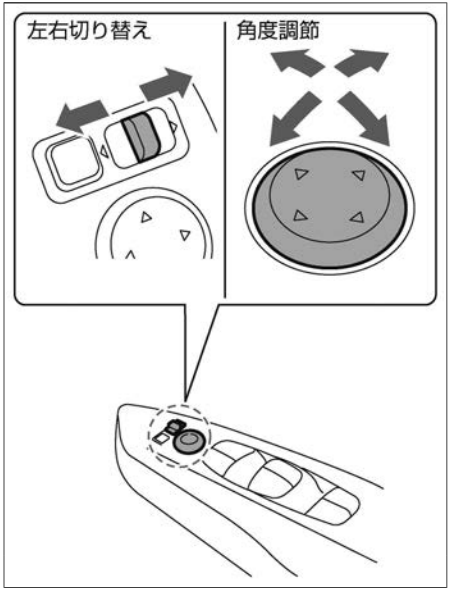
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ドアミラー

電源ポジションがONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。
ACC状態については、オートACC機能（P.205）をお読みください。

ドアミラーの角度調節のしかた

- 左右切り替えスイッチを、調節したいミラーの方に動かします。
- 角度調節スイッチを前後左右に押して、鏡面角度を調節します。



⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

知識

ヒーター付ドアミラー

- 電源ポジションがONのとき、リヤウインドーデフォッガースイッチ（P.388）を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し、霜やくもりを取ります。

ドアミラーの格納のしかた

- スイッチを押すと、左右のミラーが格納します。
- スイッチをもう一度押すと、元の位置に戻ります。



⚠ 注意

- **ミラーが動いているときは手を触れない。**
  手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**
  後方確認ができないため危険です。
- **手動でミラーを開閉しない。**
  手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前にスイッチで開閉操作を行ってください。

知識

- スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉すると電源ポジションをONにしたとき、格納スイッチの位置によりミラーが動き出すことがあります。

パワーウインドー

電源ポジションがONのとき操作できます。

パワーウインドーの開けかた、閉めかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

自動開閉するには

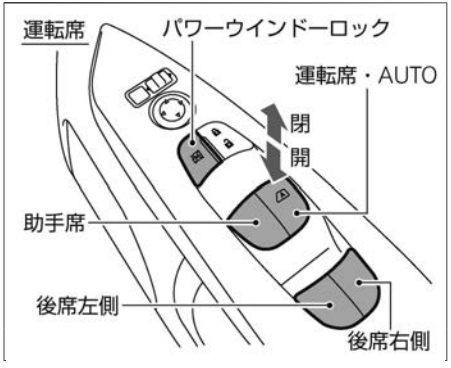
運転席の窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

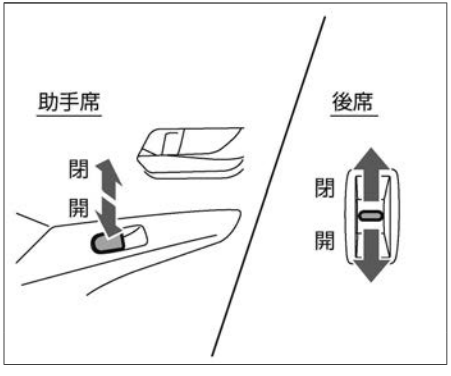
- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- パワーウインドーロックスイッチを押し込むと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチを押し戻すとロックが解除されます。





⚠ 警告

- **走行中は顔や腕、物などを車外に出さない。**
  車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- **窓ガラスを閉めるときは、窓から手や顔などを出していないことを確認する。**
  手や顔などを窓ガラスに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **お子さまにはパワーウインドーを操作させない。**
  重大な傷害につながるおそれがあるため、パワーウインドーロックスイッチを押し込んでください。

アドバイス

キーOFF後作動機構

- 運転席の窓ガラスは、電源ポジションをOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席ドアを開けて閉める（ドアが開いているときは閉める）と、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

- 運転席の窓ガラスをワンタッチで閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。

⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**
  窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

正常に作動しないとき

運転席窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① エンジンを始動します。
② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
④ 正常に作動することを確認し、正常に作動しないときは、早めにスズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

燃料補給口

給油口にキャップがない燃料タンクです（キャップレス給油口）。リッドを開け、給油ノズルを直接差し込むだけで給油することができます。給油ノズルを引き抜くと、給油口が密閉します。給油口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

燃料タンクの容量は、約55ℓです。

エンジン型式	指定燃料
MR20DD	無鉛レギュラーガソリン

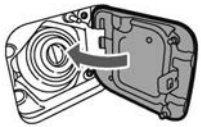
アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。

知識

- 燃料が少なくなるとマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。
  警告メッセージ（P.79）

燃料補給のしかた

1	運転席右下にあるオープナーを引きリッドを開けます。	
2	給油ノズルをゆっくりとしっかり奥まで差し込み、給油します。 給油中はノズルを動かさないでください。	
3	給油ノズルが自動停止したら、給油ノズルに残っている燃料がこぼれないように、約5秒待ってから給油ノズルを引き抜きます。	
4	リッドを閉めます。	

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

燃料補給時の注意事項

⚠ 警告

- **燃料補給時は、次のことを必ず守る。**
  - エンジンを止める
  - 車のドアや窓を閉める
  - タバコなどの火気を近づけない
  - 気化した燃料を吸わない
- **補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。**
  放電による火花で燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。
- **補給作業はひとりで行う。**
  作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**
  給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- **給油自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。**
  継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。**
- **給油自動停止後、すぐに給油ノズルを引き抜かない。**
  給油ノズル内に残った燃料がこぼれる出るおそれがあります。
- **携行缶から給油する場合、給油ノズルを確実に奥まで差し込む。**
  給油口には2枚のフラップがあります。給油ノズルを2枚目のフラップの奥まで差し込まないと、 給油できず燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- **フラップを指などの給油ノズル以外のもので開く、またはのぞき込んだりしない。**

⚠ 警告

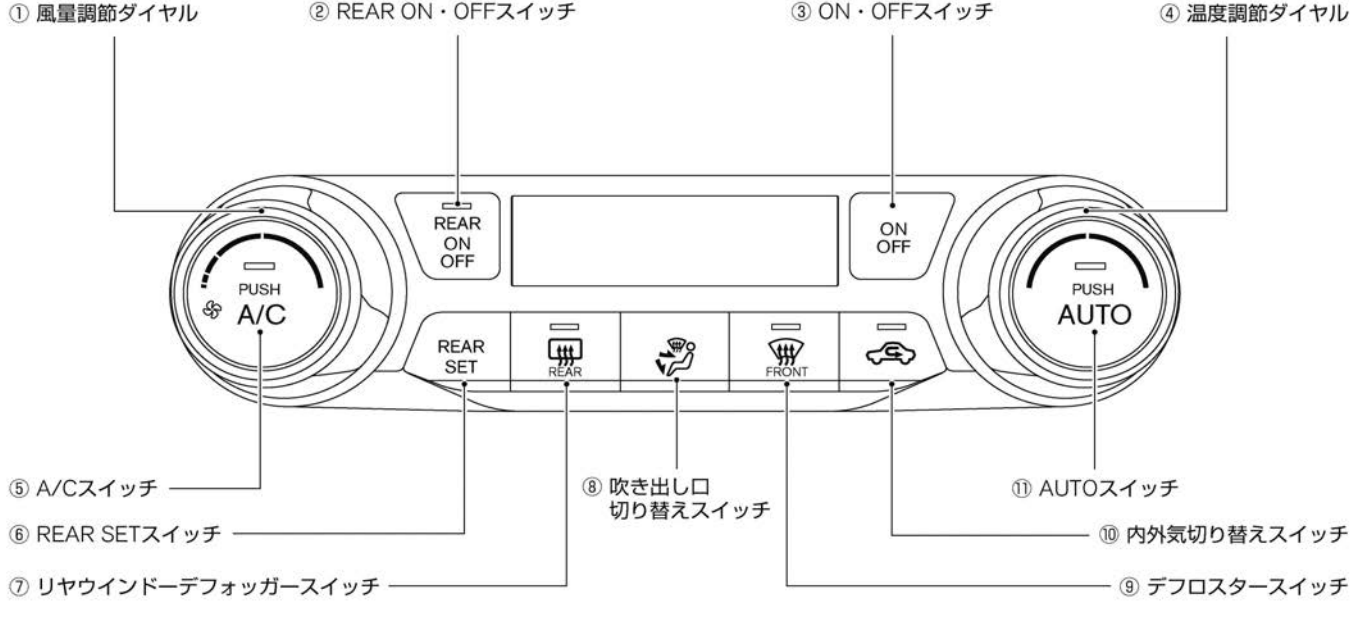
フラップの故障やシール不良、損傷のおそれがあります。

- **リッドが開いた状態で、高圧洗浄機で給油口付近を洗浄しない。**
  燃料タンク内に水が混入するおそれがあります。

フルオートデュアルエアコン★

冷房･暖房の切り替え、吹き出し口、風量の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

各スイッチの名称と機能



フルオートデュアルエアコン★

① **風量調節ダイヤル**
ダイヤルを回して風量を切り替えます。

② **REAR ON·OFFスイッチ**
後席用エアコンのON·OFFを切り替えます。

③ **ON·OFFスイッチ**
フルオートデュアルエアコンのON·OFFを切り替えます。

④ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して設定温度を切り替えます。（18°C～32°C）

⑤ **A/Cスイッチ**
冷房·除湿機能ON·OFFを切り替えます。

⑥ **REAR SETスイッチ**
表示部にREARと表示され、前席で後席用エアコンを操作できます。

⑦ **リヤウインドーデフォッガースイッチ（P.388）**
バックドアガラスのくもりが取れます。

⑧ **吹き出し口切り替えスイッチ（P.187）**
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。

⑨ **デフロスタースイッチ（P.387）**
フロントガラスのくもりが取れます。

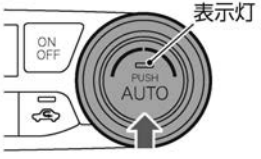
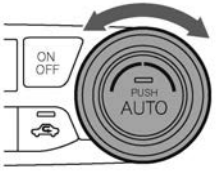
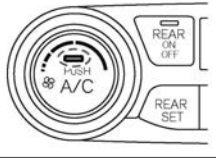
⑩ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。（内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します。）

⑪ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。冷房·暖房の切り替え、吹き出し口、風量の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

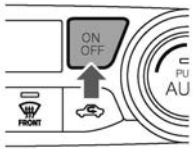
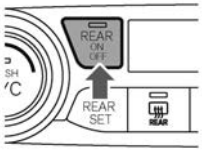
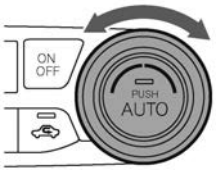
前席エアコン操作部でのオートの使いかた（前席用）

1	AUTOスイッチを押します。 （スイッチの表示灯が点灯）	
2	温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。 右回し： 設定温度を上げる 左回し： 設定温度を下げる	
3	A/Cスイッチの表示灯が消灯しているときは、A/Cスイッチを押します。（スイッチの表示灯が点灯) A/Cスイッチ点灯時：冷房･除湿機能ON	

知識

- オートで使用中に、冷房、暖房の切り替え、風量、吹き出し口の切り替えをマニュアル操作したときは、操作したスイッチ以外は自動調節されます。
- マニュアル操作で内気循環にしても、外気温、冷却水温が共に低いときは、自動で外気導入に切り替わる場合があります。

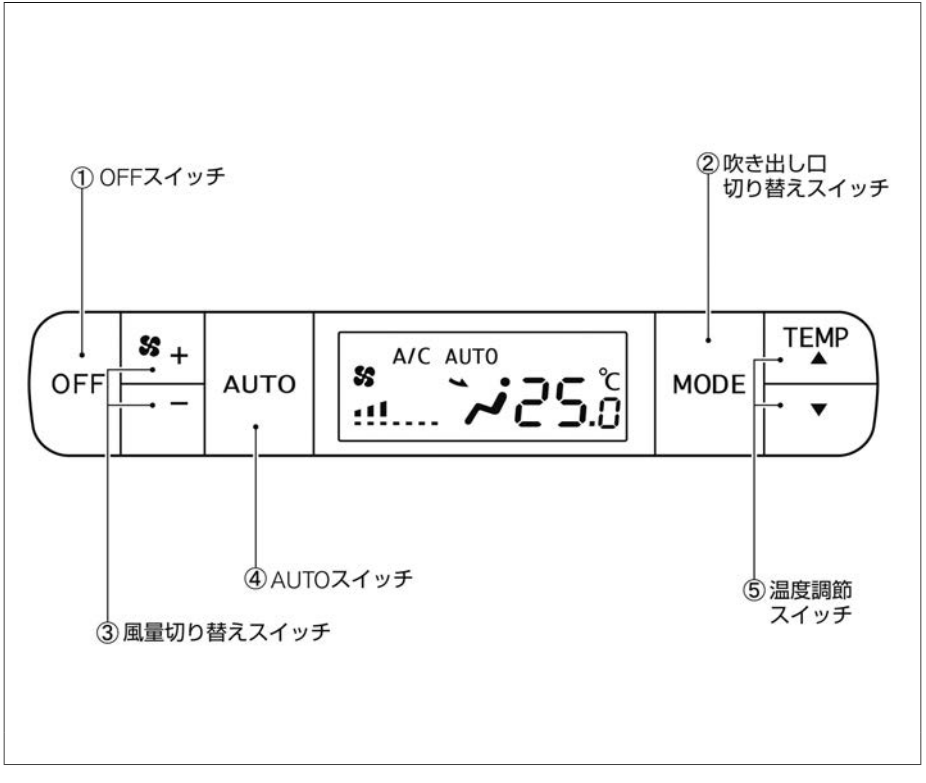
前席エアコン操作部でのオートの使いかた（後席用）

1	ON･OFFスイッチを押します。	
2	REAR ON･OFFスイッチを押して後席用エアコンをONにします。	
3	温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。 右回し： 設定温度を上げる 左回し： 設定温度を下げる	

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

各スイッチの名称と機能（後席用）



フルオートデュアルエアコン★

- 前席用エアコン作動時に使えます。
- 前席でREAR ON·OFFスイッチの表示灯が消灯している場合でも、後席AUTOスイッチを押すと使うことができます。
- 後席エアコン操作部は、セカンドシートの天井部中央にあります。

① **OFFスイッチ**
エアコンがOFFになります。

② **吹き出し口切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。

③ **風量切り替えスイッチ**
風量が切り替わります。
＋…風量が多くなる
－…風量が少なくなる

④ **AUTOスイッチ**
冷房、暖房の切り替え、吹き出し口、風量の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

⑤ **温度調節スイッチ**
温度が調節できます。（18°C～32°C）
▲…温度を上げる
▼…温度を下げる

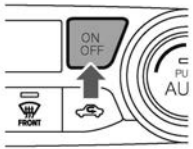
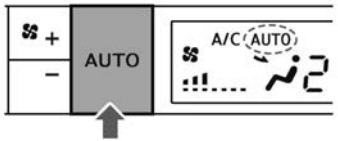
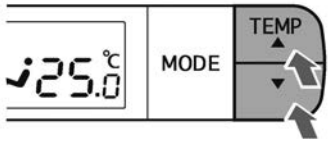
アドバイス

- 前席でREAR ON·OFFスイッチを押すと、前席エアコン表示部にREARと表示され、前席で後席エアコンの操作が行えます。
- 後席エアコン作動時、前席でREAR SETスイッチを押すと、前席エアコン表示部にREARと表示され、前席で後席エアコンの操作が行えます。

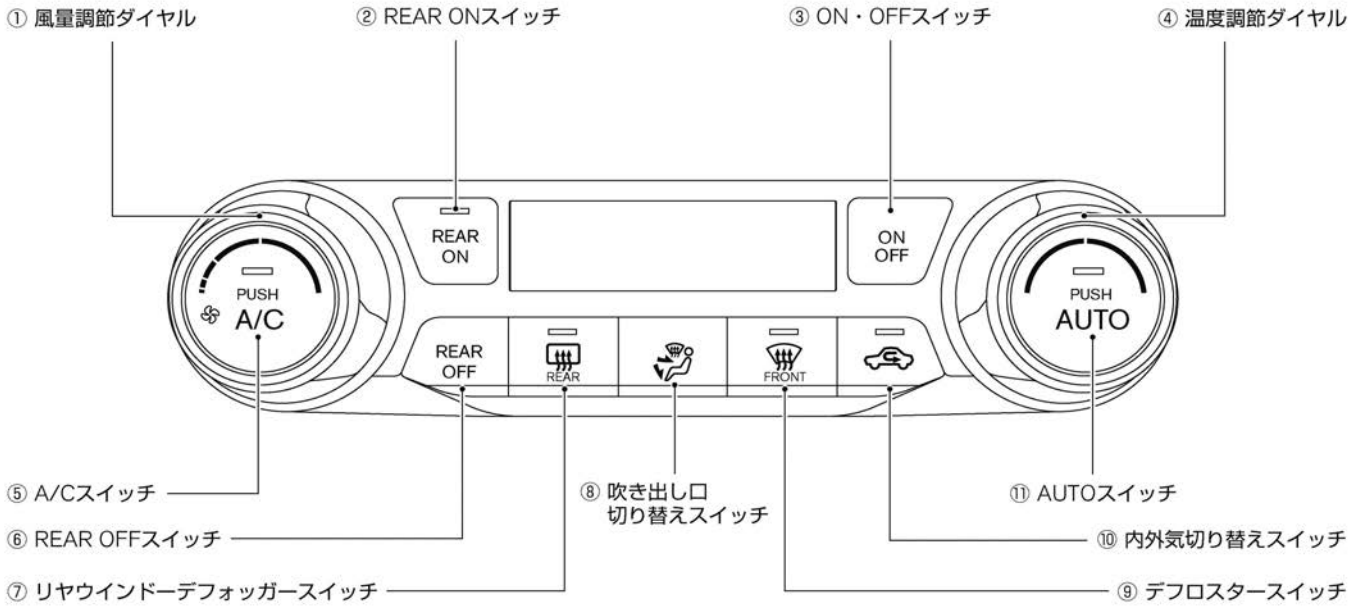
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

後席エアコン操作部でのオートの使いかた（後席用）

1	前席エアコン操作部のON･OFFスイッチを押してONにします。	
2	後席エアコン操作部のAUTOスイッチを押します。 （表示部にAUTOが表示）	
3	後席エアコン操作部の温度調節スイッチを押して、設定温度を調節します。 ▲： 設定温度を上げる ▼： 設定温度を下げる	

各スイッチの名称と機能



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

フルオートエアコン★

① **風量調節ダイヤル**
ダイヤルを回して風量を切り替えます。

② **REAR ONスイッチ**
後席リヤクーラーがONになります。

③ **ON･OFFスイッチ**
フルオートエアコンのON･OFFを切り替えます。

④ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して設定温度を切り替えます。（18℃～32℃）

⑤ **A/Cスイッチ**
冷房･除湿機能ON･OFFを切り替えます。

⑥ **REAR OFFスイッチ**
後席リヤクーラーがOFFになります。

⑦ **リヤウインドーデフォッガースイッチ（P.388）**
バックドアガラスのくもりが取れます。

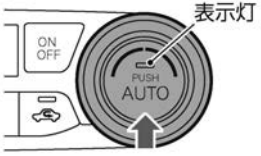
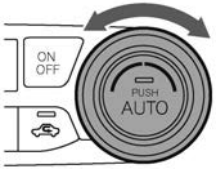
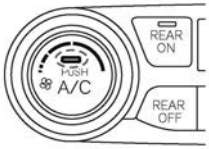
⑧ **吹き出し口切り替えスイッチ（P.187）**
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。

⑨ **デフロスタースイッチ（P.387）**
フロントガラスのくもりが取れます。

⑩ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。（内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します。）

⑪ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。冷房･暖房の切り替え、吹き出し口、風量の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

オートでの使いかた

1	AUTOスイッチを押します。 （スイッチの表示灯が点灯）	
2	温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。 右回し： 設定温度を上げる 左回し： 設定温度を下げる	
3	A/Cスイッチの表示灯が消灯しているときは、A/Cスイッチを押します。 (スイッチの表示灯が点灯) A/Cスイッチ点灯時：冷房･除湿機能ON	

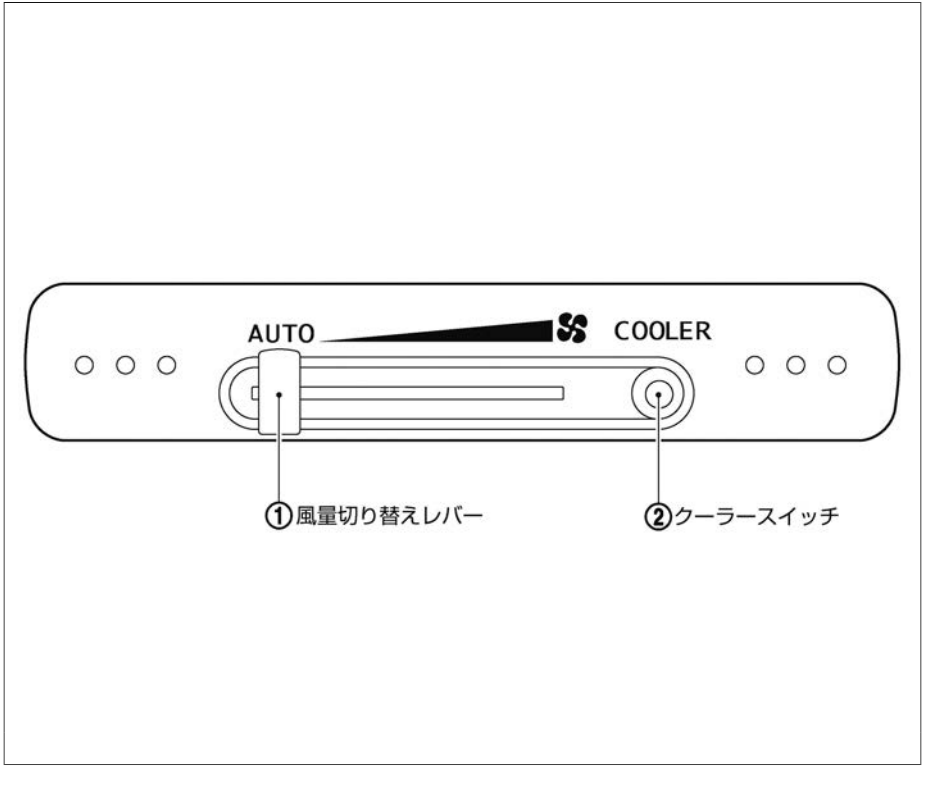
知識

- オートで使用中に、冷房、暖房の切り替え、風量、吹き出し口の切り替えをマニュアル操作したときは、操作したスイッチ以外は自動調節されます。
- マニュアル操作で内気循環にしても、外気温、冷却水温が共に低いときは、自動で外気導入に切り替わる場合があります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

各スイッチの操作と機能（リヤクーラー）



フルオートエアコン★

- 前席用エアコン作動時に使えます。また、前席でREAR ONスイッチを押していない場合でも、クーラースイッチを押すと使うことができます。
- 後席クーラー操作部は、セカンドシートの天井部中央にあります。

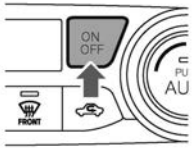
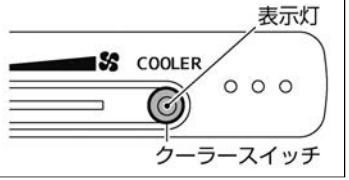
① **風量切り替えレバー**
レバーを動かし、風量を調節します。AUTO位置にあるときは、風量が自動調節されます。
左側：風量少ない
右側：風量多い

② **クーラースイッチ**
スイッチを押すごとに、リヤクーラーのON･OFFが切り替わります。

次ページに続く

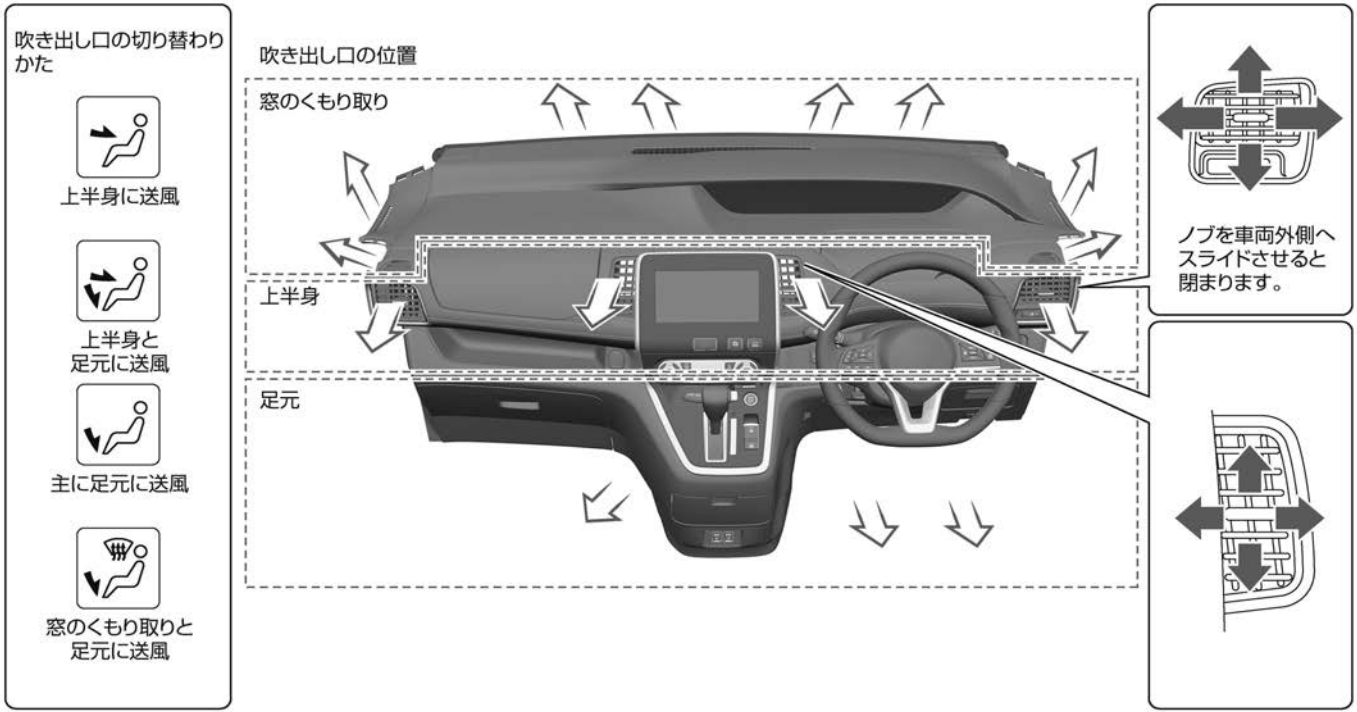
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

リヤクーラーの使いかた

1	前席エアコン操作部のON·OFFスイッチを押してONにします。	
2	クーラースイッチを押します。 （スイッチの表示灯が点灯）	
3	風量切り替えレバーを動かし、風量を調節します。 AUTO位置にあるときは、風量が自動調節されます。	
4	止めるときはクーラースイッチ、または前席エアコン操作部のREAR OFFスイッチを押します。	

吹き出し口

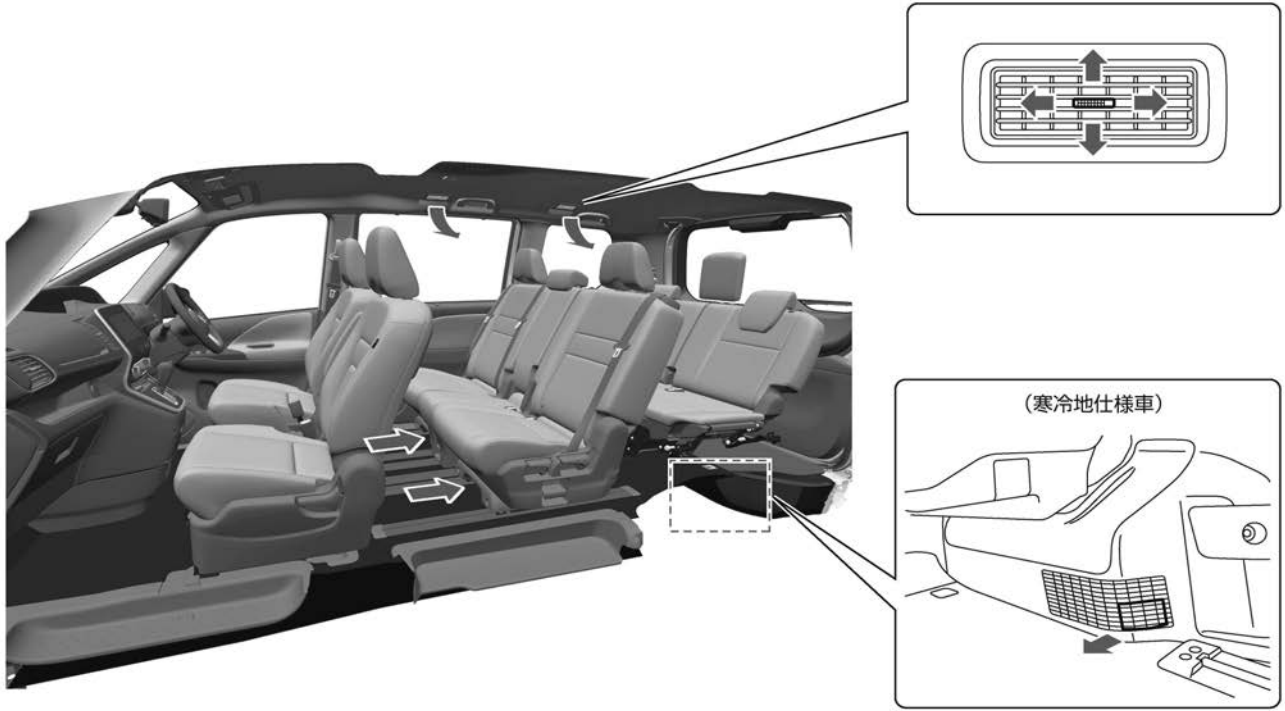
吹き出し口切り替えスイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。



次ページに続く

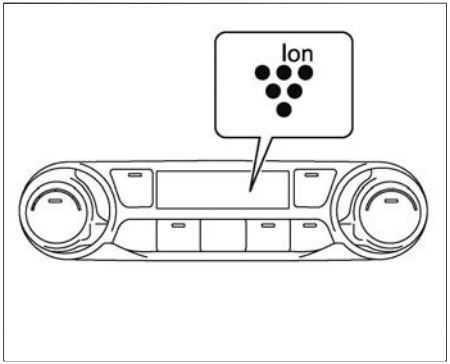
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

吹き出し口



プラズマクラスターイオン®フルオートエアコン（除湿機能付）★

- 送風中は常時作動し、高濃度プラズマクラスターイオンをエアコンの吹き出し風に含ませ、除菌とともに内装に染みついたにおいを低減します。
さらに肌の保湿効果をプラスしました。



知識

- 本商品には、シャープ株式会社のプラズマクラスターイオン技術を搭載しています。プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよびPlasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 警告

- **内気循環で長時間使用しない。**
  窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。

⚠ 注意

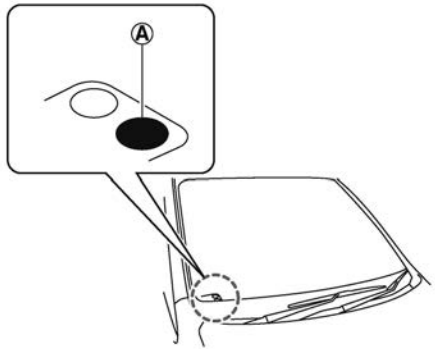
- **吹き出し風を長時間連続して身体にあてない。**
  特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間あたらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- **デフロスタースイッチをONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

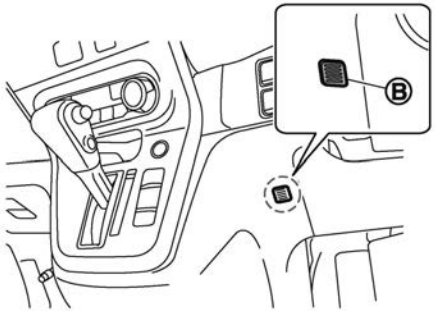
アドバイス

- フルオートエアコンの自動温度調節は、日射センサーⒶと温度センサーⒷで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

エアコンを使うときに注意すること

アドバイス





次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エアコンを使うときに注意すること

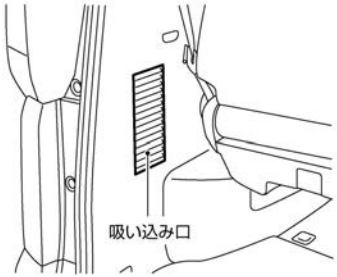
アドバイス

- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんし、タバコやペットなどのにおいをフィルター内の活性炭が吸着除去するエアフィルター（脱臭機能付）を装着しています。集じん･脱臭性能を維持するため、エアフィルター（脱臭機能付）は定期的に交換してください。
  交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと
- エアフィルター（脱臭機能付）が交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどきA/CスイッチをONにしてください。なお、外気温が0°C近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ずHFC134a（R134a）を入れてください。
- 地球温暖化防止のためエアコンガスを大気放出しないでください。
- この車両では、エアコンのシステムに特殊なオイルを使用しています。エアコンの修理、メンテナンスはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

エアコンを使うときに注意すること

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0°C近くまで下がると、A/Cスイッチが点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- エアコンがONのとき、またはOFFにした直後に、“カチカチ”、“シュー”、“コツン”などの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- エアコンの運転中または運転後などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターへの風量が多くなります。
- ラゲッジルームにある吸い込み口を荷物などでふさがないでください。吹き出し風量が減少するおそれがあります。



エアコンのにおいについて

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エアコンを使うときに注意すること

知識
● エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。 ● エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

オーディオの使いかた★

安全運転のために

- 運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお聞きください。

⚠ 警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**
  前方不注意となるおそれがあります。十分注意して行ってください。
- **音量を大きくしない。**
  大きすぎると車外の状況が分からないため、思わぬ事故の原因となります。

ラジオの受信について

- ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。

📖 知識

- オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アンテナについて

- アンテナ線は、リヤサイドガラスの内側にあります。



アドバイス

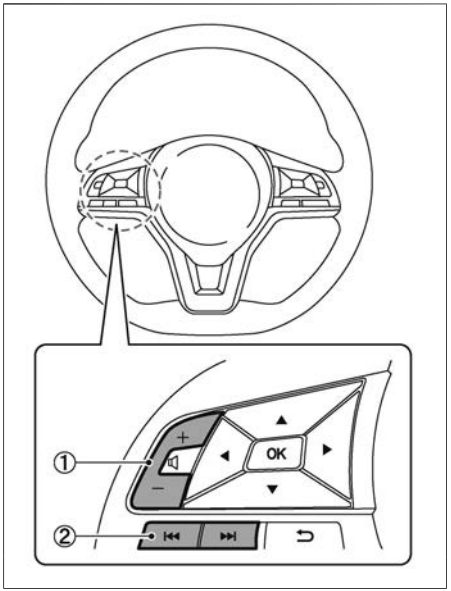
- リヤサイドガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）などが入るおそれがあります。
- リヤサイドガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布でアンテナ線にそって軽くふいてください。
- アンテナ線は、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ステアリングオーディオスイッチ★

スズキ純正のオーディオおよびナビゲーションシステムを操作することができます。

① **音量スイッチ（＋／－）**
音量を調節できます。
＋：音量を上げる
－：音量を下げる
押したままにすると連続して音量の増減ができます。

② **選曲／選局スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。



知識

- 取り扱いについては、スズキ純正のオーディオおよびナビゲーションシステム用取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください。
- スズキ純正以外のオーディオおよびナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

MEMO

始動する

エンジンスイッチ P.200
オートACC機能 P.205

運転する

セレクトレバー P.206
パーキングブレーキ P.211
発進 P.212
停車･駐車 P.215

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.217
ヘッドライトレベリングスイッチ（ハロゲンヘッドライト付車） P.222
フォグランプスイッチ★ P.224
ワイパー･ウォッシャースイッチ P.225

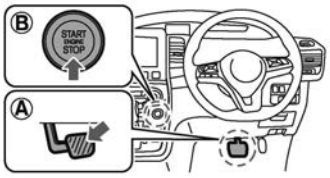
運転支援機能

ECOモード P.229
アイドリングストップ★ P.230
S-HYBRID★ P.237
クルーズコントロール P.240
4WD（4輪駆動）車の扱いかた★ P.245
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.247
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.248
ヒルホールドコントロール P.251
走行支援システム P.253
エマージェンシーブレーキ P.255
踏み間違い衝突防止アシスト P.264
LDW（車線逸脱警報） P.280
ふらつき警報 P.285
進入禁止標識検知 P.288

カメラシステム

全方位モニター（MOD機能付） P.291
全方位モニターに関する注意事項 P.302
パーキングアシスト★ P.312
パーキングアシストに関する注意事項★ P.319

エンジン始動のしかた

1	アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.12）がとれるようにハンドル、シート位置を調節します。	
2	パーキングブレーキがかかっていることと、セレクトレバーがPに入っていることを確認します。	
3	ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチⒷを1回押します。 メーター内ディスプレイにエンジン始動操作表示が表示されます。➔警告メッセージ (P.77)	

⚠ 警告

- **エンジンを始動する前にペダルの位置を確認する。**
  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- **換気の悪い場所では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **エンジンを始動するときは、必ず運転席に座る。**
  車外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- エンジンの始動を連続して行うと保護機能が作動し、エンジンがかからなくなることがあります。その場合は、3分以上待ってから再度エンジンスイッチを押して始動してください。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

エンジンがかかりにくいときは

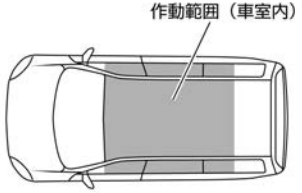
- ブレーキペダルを踏みながら、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでエンジンスイッチを一度押してください。
  ブレーキペダル、アクセルペダルは離さず、約5秒後にもう一度エンジンスイッチを押してください。その後、再度手順3の操作をしてください。

エンジンが暖まっているときの始動

- 高速走行後や登坂走行後などエンジンがかかりにくいときは、アクセルペダルを少し（踏み込み量の約1/5）踏み込んだ状態でエンジンを始動し、エンジンがかかったら、アクセルペダルをエンジン回転数の上昇に合わせて戻します。

知識

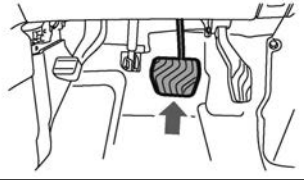
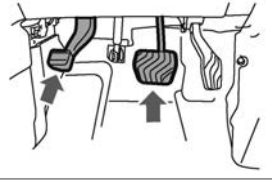
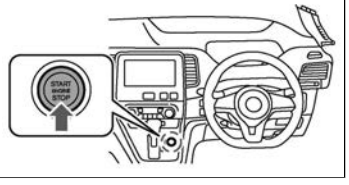
- キーによるエンジン始動の作動範囲は車室内です。（ラゲッジルーム内は除きます。）



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

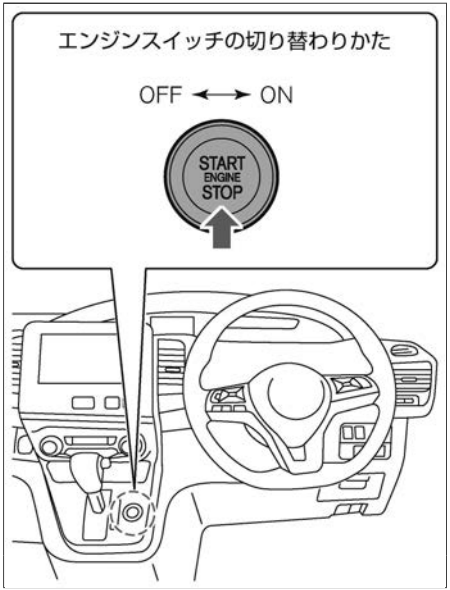
エンジン停止のしかた

1	ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。	
2	ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。 ➔ パーキングブレーキのかけかた (P.211)	
3	セレクトレバーを P に入れます。 ➔ セレクトレバーの操作 (P.206)	
4	エンジンスイッチを1回押すと、エンジンが停止します。	

電源ポジションの切り替えかた

電源ポジション	働き
OFF	● ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● エンジンを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

- 携帯リモコンを携帯しているときに、次の作動をします。
  - ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、電源ポジションが切り替わります。
  - ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。
  - エンジン回転中にエンジンスイッチを押すと、エンジンが停止します。



アドバイス

- バッテリーあがりを防止するため、電装品はエンジンをかけてご使用ください。やむをえず使用するときは、長時間使用したり、同時に複数の電装品を使用しないでください。

知識

- 電源ポジションがOFFのとき、ステアリングロックがかかっていない場合は、いずれかのドアを開けるか、または閉めるとステアリングロックが作動します。
- 電源ポジションがOFFの位置でも、ACC状態のときはドアミラーなどの電装品を使うことができます。
  ACC状態については、オートACC機能（P.205）をお読みください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エンジンの非常停止のしかた

緊急時など、走行中に強制的にエンジンを停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- エンジンスイッチをすばやく3回押す。
- エンジンスイッチを2秒以上押し続ける。

⚠ 警告

- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**
  非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

オートACC機能

電源ポジションがOFFのときでも、特定の条件で、ドアミラーなどの電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。エンジンの停止後や、電源ポジションをONにする前でも、ドアミラーなどが使用できます。

オートACC機能について

- 次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
  - リモコン（キーレスプッシュスタートシステム）機能でドアを解錠したとき
  - エンジンを停止したとき

ACC状態を停止するには

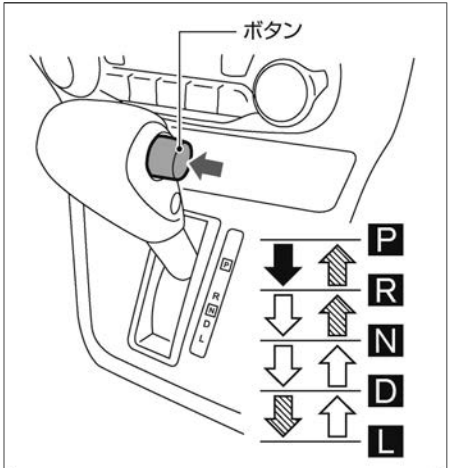
- 次の場合、ACC状態が完全に停止します。
  - ACC状態で何も操作せずに約13分間経過したとき
  - エンジン停止後、リモコン（キーレスプッシュスタートシステム）機能で施錠してから3分間経過したとき

アドバイス

- バッテリーあがりを防止するため、電装品はエンジンをかけてご使用ください。やむをえず使用するときは、長時間使用したり、同時に複数の電装品を使用しないでください。

セレクトレバーの操作

- セレクトレバー位置は目で確認し、メーター内のポジションインジケーターも合わせて確認してください。
  ポジションインジケーター (P.59)
- 電源ポジションがONのとき、すべてのセレクトレバー位置に操作することができます。



セレクトレバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押して操作します。
⇨	ボタンを押さずにそのまま操作します。
⇨	ボタンを押して操作します。

⚠ 警告

- **次のような操作は、絶対に行わない。**
  トランスミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 車が完全に停止する前にPに入れる
  - 車を前進させているときにRに入れる
  - 車を後退させているときにD、Lに入れる

アドバイス

- ⇨の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反してP、R、Lに入れてしまうおそれがあります。
- Pから操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

知識

- セレクトレバーを R に入れるとブザーが鳴ります。
- 万一バッテリーあがりなどでセレクトレバーを P から動かせないときは、セレクトレバーが動かないときは (P.391)をお読みください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

各セレクトレバー位置の働き

セレクトレバー位置	役割
P	**駐車およびエンジンを始動するときの位置** 電源ポジションをOFFにすることができます。
R	**後退するときの位置** 車室内でブザーが鳴り運転者に知らせます。 （車外の人に注意するものではありません。）
N	**動力が伝わらない状態の位置** （Nでもエンジンの始動ができますが、安全のためPで始動してください。）
D	**通常走行するときの位置** 速度に応じて無段階に自動変速します。また走行状況によってアダプティブシフトコントロール（P.209）が働き、より適切に変速します。
L	**急な下り坂を走行するときの位置** 強いエンジンブレーキが必要なときに使います。 （急な下り坂以外ではなるべく使用しないでください。）

アダプティブシフトコントロールについて

急な上り下りや、カーブが連続するような道路状況でも快適で安全な走りを実現できるよう自動的に適切なギヤチェンジを行います。

上り坂やカーブでの制御

変速回数の少ないなめらかな走行ができるように、坂の勾配やカーブに応じて低速ギヤを保持します。

下り坂での制御

エンジンブレーキを併用させることで、フットブレーキを使う回数を低減させるように坂の勾配に応じて低速ギヤに切り替えます。

スポーティな走行での制御

アクセルペダルを踏み込んだときにもたつきのないスムーズな加速が得られるように、加減速を繰り返すような連続するカーブでは低速ギヤを保持します。

⚠ 注意

- **必要に応じてスポーツモードをONまたはセレクトレバーを L に入れ、シフトダウンする。**
  トランスミッションが、走行開始直後で暖まっていないときや、低速で高負荷な走行を繰り返し過熱しているときは制御が作動しない場合があります。その場合は必要に応じてスポーツモードをONまたはセレクトレバーを L に入れ、シフトダウンしてください。

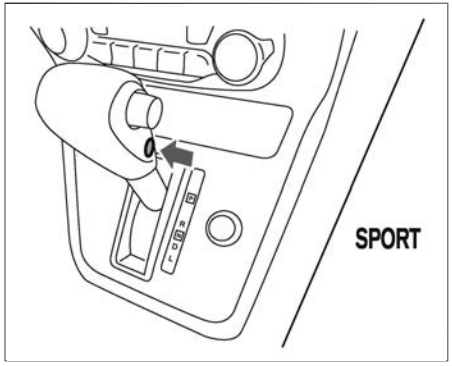
次ページに続く

★：車型式、オプションなどで異なる装備

スポーツモードスイッチの使いかた

- セレクトレバーが D のとき使えます。
- 通常走行するときはスイッチを押してメーター内の表示灯を消灯させます。（スポーツモードOFF状態）
- スポーティーな走行をするときや、下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいときはスイッチを押してメーター内の表示灯を点灯させます。（スポーツモードON状態）

スポーツモード（メーター内表示灯）	働き
ON（点灯）	登坂路走行、パワフル走行など走りを重視した走行や、下り坂で軽いエンジンブレーキをかけることができます。
OFF（消灯）	燃費性能など、経済性を重視した走行ができます。



知識

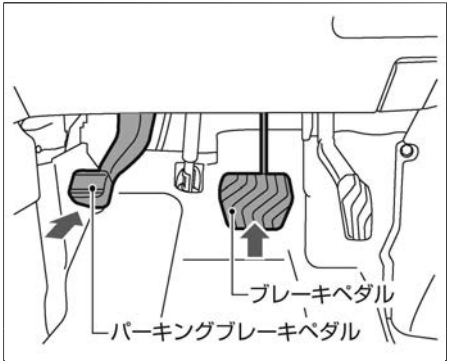
- セレクトレバーを D 以外に入れると自動的にスポーツモードがOFFになります。
- スポーツモードではエンジンが高出力を発生する回転域を使用したギヤ比が自動的に選択されます。

パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。パーキングブレーキペダルで操作します。

パーキングブレーキのかけかた

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。



⚠ 警告

- **パーキングブレーキをかけたまま走行しない。**
  ブレーキが過熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

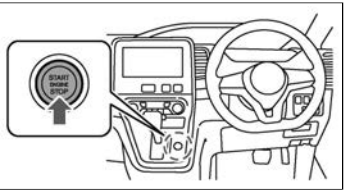
- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけ直したいときは、一度解除してから踏み込み直してください。

パーキングブレーキの解除のしかた

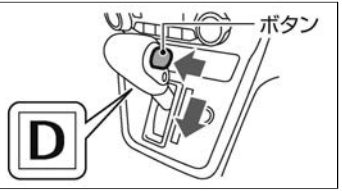
- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。

発進のしかた

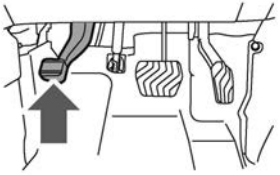
1 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンを始動します。
エンジン始動のしかた (P.200)



2 ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、ボタンを押してセレクトレバーを**D**に入れます。



3 パーキングブレーキを解除します。



4 ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。



⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。**
  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **停車中、セレクトレバーが**P**、**N**以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**
  クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

知識

- 急な上り坂で発進するときは、ヒルホールドコントロール（P.251）が作動します。

走行のしかた

- セレクトレバーを**D**に入れたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
  アクセルペダルの踏み加減と走行速度や走行状況などにより、適切なギヤに自動変速されます。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
  キックダウンし急加速します。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して走行します。セレクトレバーが**D**でも、アクセルペダルを戻すと自動的にエンジンブレーキが得られます。
  また、坂の勾配に応じて強いエンジンブレーキが必要な場合は、**L**に入れます。
  勾配のゆるい下り坂では、スポーツモードにしても、軽いエンジンブレーキが得られます。

スポーツモードスイッチの使いかた (P.210)

⚠ 警告

- **下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用する。**
  ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。坂の勾配に応じてエンジンブレーキを併用してください。
- **滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせない。**
  タイヤがスリップするおそれがあり危険です。
- **走行中はセレクトレバーを**N**に入れない。**
  エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションが故障する原因となります。

アドバイス

- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 上り坂でセレクトレバーを**D**のまま故意に車両を後退させたり、下り坂

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

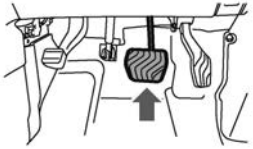
アドバイス

で**R**のまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障につながるおそれがあります。

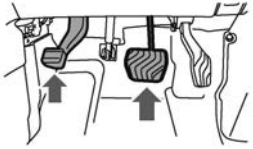
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。 エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

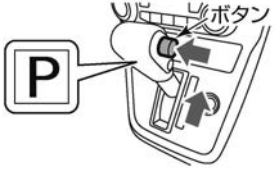
1 停車するときは、セレクトレバーは**D**のままブレーキペダルをしっかりと踏みます。



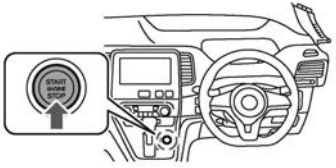
2 そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。



3 ブレーキペダルを踏んだままボタンを押してセレクトレバーを**P**に入れます。



4 エンジンスイッチを1回押すと、エンジンが停止します。



⚠ 警告

- **停車中の空ぶかしはしない。**
  万一、セレクトレバーが**P**、**N**以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後の再発進は、セレクトレバーの位置を目で確認してください。
- **換気の悪い場所では、エンジンをかけたままにしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐停車しない。**
  排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- **車から離れるときは、必ずセレクトレバーを**P**に入れ、エンジンを停止する。**
  エンジンがかかったままで、セレクトレバーが**P**、**N**以外に入っている

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

と、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるので注意する。**

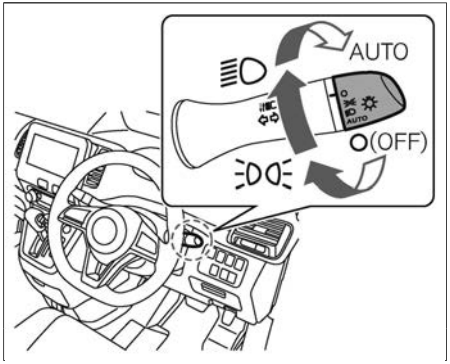
アドバイス

- 上り坂で停車するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

ライトスイッチの使いかた

スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。ランプが点灯しているときはテールランプ表示灯 が点灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
○ (OFF)	全ランプが消灯
	車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
AUTO	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯･消灯



アドバイス

- エンジン停止時に長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

バッテリーセーバー

- ライトを点灯したまま電源ポジションをOFFにし、リモコンまたはドアハンドルのスイッチで施錠するとバッテリーあがりを防止するためライトが消灯します。
- 次回、次の操作を行うとライトが再点灯します。
  - 電源ポジションをONにする
  - ライトスイッチを操作したとき

ヘッドライトオートレベリング★

- ヘッドライトが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、自動的に照射方向を調整するシステムです。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

AUTO（自動点灯･消灯）の使いかた

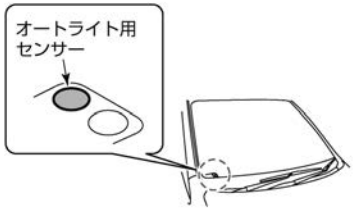
- 電源ポジションがONのとき、スイッチ位置をAUTOの位置にすると、車外の明るさに応じてヘッドライトや車幅灯などを自動的に点灯、消灯させます。
- 電源ポジションがOFFのときは消灯します。

フロントワイパー連動、薄暮れ感知機能

- 歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

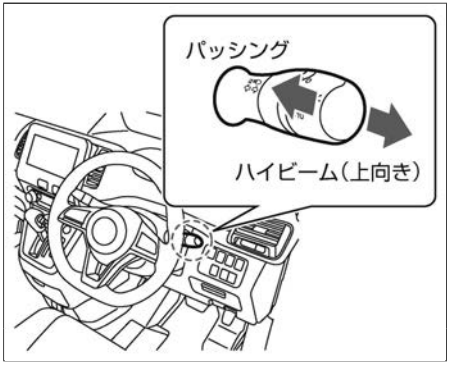


知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「オートライト感度調整」を選択すると、オートライトの感度調整ができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.71)
  ➔ 車両設定 (P.88)

ハイビーム（上向き）への切り替えかた

- ヘッドライトが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- 元の位置（中立位置）に戻すとロービームに戻ります。
- パッシングするときは、ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引きます。
- ハイビームに切り替えているときは、ヘッドライト上向き表示灯 が点灯します。



アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

知識

- ヘッドライト、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

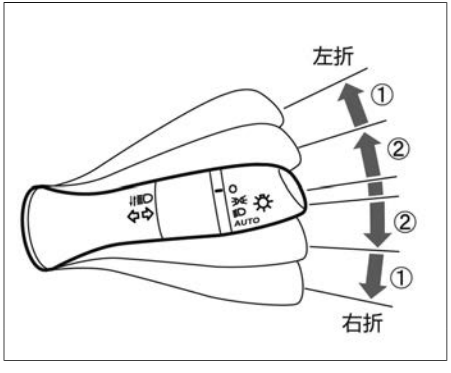
方向指示器の使いかた

電源ポジションがONのとき使えます。

- 右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。
- 車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。

コンフォートフラッシャー機能について

スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。



アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。
電球（バルブ）交換 (P.424)

知識

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「方向指示器」⇒「コンフォートフラッシャー」を選択すると、コンフォートフラッシャー機能のON·OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定をお読みください。
画面の切り替えかた (P.71)
車両設定 (P.88)

その他の機能について

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）★

- ドアの施錠･解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。(施錠時約10秒、解錠時約30秒)
- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「ウェルカムヘッドライト」を選択すると、ウェルカムライト機能(フェアウェル機能付)のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.71)
  ➔ 車両設定 (P.88)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

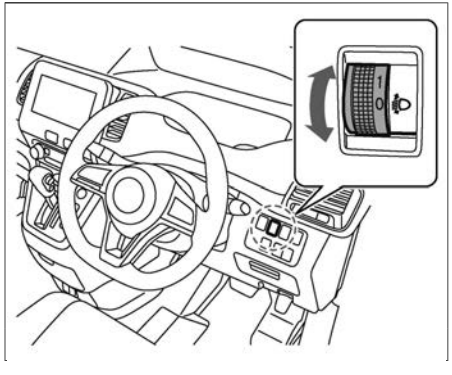
ヘッドライトレベリングスイッチ（ハロゲンヘッドライト付車）

ヘッドライトの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドライトレベリングスイッチの使いかた

ヘッドライトが下向きのとき、ダイヤルを回して調節します。

- 通常は、ダイヤルが0の位置で使います。
- ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。



アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドライトが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。

知識

- LEDヘッドライト付車は、ヘッドライトが下向き点灯時の乗車人員や、荷物量の違いによる車両姿勢の変化を自動的に調節するヘッドライトオートレベリング機能が付いてます。

■ ダイヤル位置の目安

次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

乗員	ラゲッジルームの積載状況	スイッチ位置
運転席のみ	積載なし	0
フロントシート2名		0
フロントシート2名+サードシート3名		1
8名		2
	満載	2
運転席のみ		3

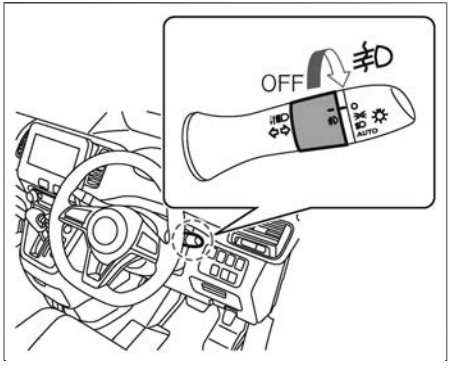
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドライトの補助として使用します。

フォグランプの使いかた

- ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。
- スイッチを回して を の位置に合わせて使用します。
- フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯 が点灯します。



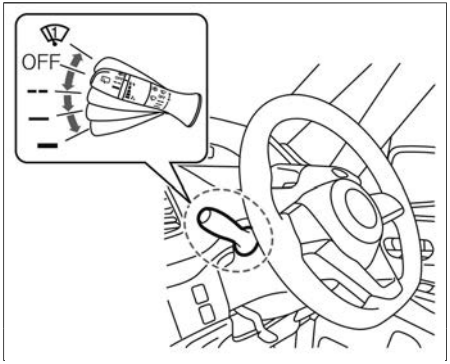
ワイパー・ウォッシャースイッチ

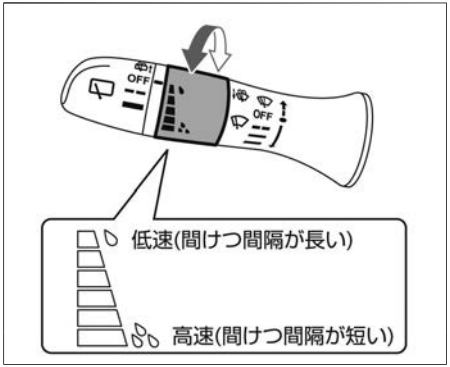
電源ポジションがONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた

スイッチを動かすと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
	レバーを上げている間作動します。 手を離すと自動的にOFFに戻ります。
OFF	停止します。
▬ ▬	間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。
▬	低速で連続して作動します。
▬	高速で連続して作動します。





知識

- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。
- オートライトシステムは、ライトスイッチがAUTO位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくランプが点灯します。
  AUTO（自動点灯･消灯）の使いかた (P.218)
- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「車速連動」を選択すると、車速連動機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  画面の切り替えかた (P.71)
  車両設定 (P.88)

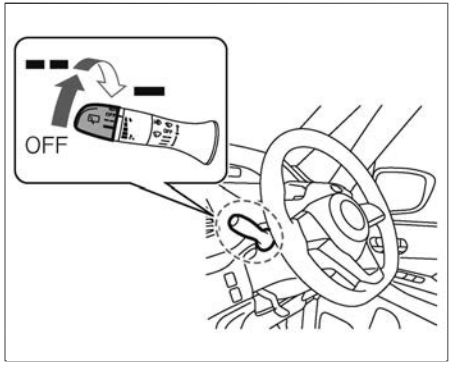
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

リヤワイパーの使いかた

スイッチを回すと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
OFF	停止します。
ー ー	間けつで作動します。
ー	低速で連続して作動します。

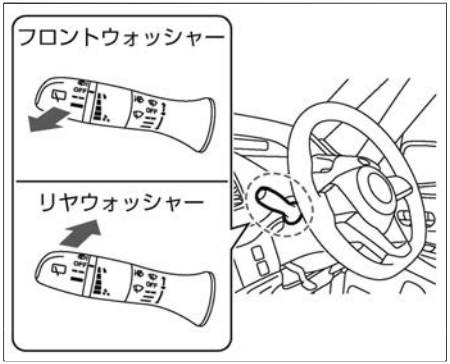


知識

リバース連動機能

- フロントワイパー作動中にセレクトレバーを R に入れると、リヤワイパーが自動的に1回作動します。
- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「リバース連動」を選択すると、リバース連動機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.71)
  ➔ 車両設定 (P.88)

ウォッシャーの使いかた



フロントウォッシャー

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

リヤウォッシャー

- スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**
  寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

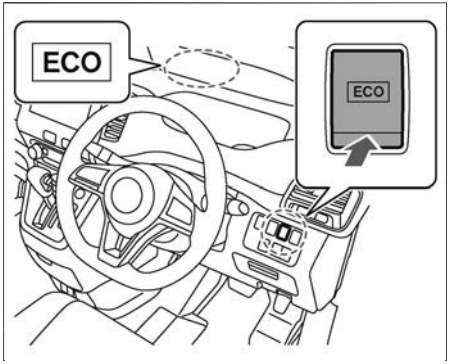
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

ECOモード

ECOモードは、エンジンとCVTの作動を自動制御して、急加速を抑えることで燃費の向上をサポートするシステムです。

ECOモードの使いかた

- 電源ポジションがONのとき、ECOモードスイッチを押すごとにON･OFFが切り替わります。（ONのときはECOモードインジケーター[ECO]が点灯）
  ECOモードインジケーター（➔P.70）
- システムに異常が発生したときは、自動的にECOモードが解除されます。



知識

- ECOモードのON･OFF設定は、電源ポジションをOFFにしても、再度設定変更するまで、その状態が維持されます。
- ECOモードを解除するときは、スイッチを操作したあと、一旦アクセルペダルから足を離してください。
- 次のような加速が必要な場合は、必要に応じてECOモードをOFFにしてください。
  - 乗車人員や荷物量が多いとき
  - 急勾配を登坂走行するとき

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

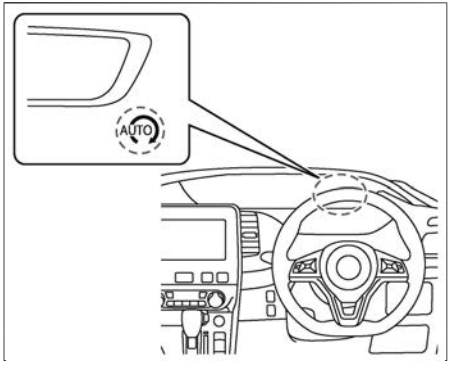
アイドリングストップ★

アイドリングストップは、車両が停車したときにエンジンを停止させ、発進するときにエンジンを始動することで、
アイドリングによる排気ガスの発生や騒音を抑制するとともに燃費を向上させるシステムです。

アイドリングストップの使いかた

走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、メーター内のディスプレイにあるアイドリングストップ表示灯とS-HYBRID表示灯が点灯します。

- セレクトレバーが**L**または**D**のときブレーキペダルを踏み停車すると、自動的にエンジンが停止します。



アイドリングストップ警告ブザー

- アイドリングストップ中にボンネットが開いたときにブザーが鳴ります。

アイドリングストップメッセージ

- 車両停止時、ブレーキペダルの踏み込みが少ないことにより、アイドリングストップしないとき、メーターのディスプレイにアイドリングストップメッセージが表示されます。
  警告メッセージ(P.83)

⚠ 注意

- **アイドリングストップ中に車両が動き出したときは、すみやかにブレーキペダルを踏む。**
  アイドリングストップによるエンジン停止中に車両が動き出した場合（約2km/h以上）は、エンジンが自動的に再始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- メーター内のディスプレイにあるアイドリングストップ表示灯で、アイドリングストップの状態をお知らせします。
  アイドリングストップ表示灯（P.70）
- マルチインフォメーションディスプレイでアイドリングストップの積算時間と節約した燃料の量などを確認できます。
  車両情報画面（P.74）
- アイドリングストップ警告ブザーが鳴ったときは、ボンネットが開いていないか確認してください。ボン

知識

ネットが開いていると、通常のエンジン停止状態となるため、エンジンをかけ直してください。

- 充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ専用のバッテリーを搭載しています。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップ機能、エンジンアシスト機能が正常に機能しなくなる原因となります。
- バッテリーは、お客様の車両に適合したスズキ純正部品をお勧めします。詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

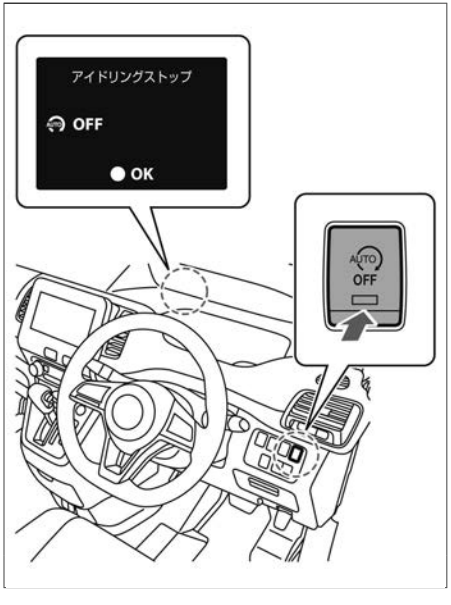
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アイドリングストップの作動停止のしかた

アイドリングストップの作動を停止するには、アイドリングストップOFFスイッチを押します。

- アイドリングストップOFFスイッチを押すと、アイドリングストップの作動が停止します。
（スイッチの表示灯が点灯）
- 再度、アイドリングストップを使用（ON）するときは、もう一度アイドリングストップOFFスイッチを押します。
（スイッチの表示灯が消灯）



知識

- アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンは再始動します。
- アイドリングストップのON･OFFを切り替えると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- スイッチを押しアイドリングストップの作動を停止させても、電源ポジションをOFFにしエンジンを始動すると、アイドリングストップは作動します。（スイッチの表示灯が消灯）

アイドリングストップを使うときの注意事項

アドバイス

- 充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ付車専用のバッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーはお客さまの車に適合したスズキ純正部品をおすすめします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

知識

- 次のような場合は、アイドリングストップしません。（室内外の温度やエアコンの作動状況によっては下記の条件以外でも、アイドリングストップしない場合があります。）
  - エンジンを始動して、一度も走行しないでアイドリングを続けているとき
  - エンジン冷却水の温度が低いとき
  - バッテリーの容量が低いとき
  - バッテリーの温度が低いとき
  - 車両が動いているとき
  - ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
  - エンジン回転中にボンネットを開けたとき
  - ボンネットを開けた状態でエンジンを始動させたとき
  - 運転席のシートベルトが着用されていないとき
  - 運転席ドアが開いているとき
  - ハンドル操作をしているとき
  - アイドリングストップ表示灯が点滅しているとき
  - アクセルペダルを踏んでいるとき

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- セレクトレバーがRのとき
- 室内の温度が約20°C以下のとき
- 室内の温度が約30°C以上のとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップします。）
- エアコンの風量が最大のとき
- デフロスタースイッチ（➔P.181または➔P.174）がONのとき（外気温によってはアイドリングストップする場合があります。）
- アイドリングストップOFFスイッチがONのとき
- パワーステアリング警告灯、VDC警告灯が点灯しているとき
- ブレーキペダルの踏み込みが弱いとき
- 急勾配の坂道で停車したとき
- 消費電力が大きいとき
- 標高約2000m以上の高地のとき

● 次のような場合は、システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。
- バッテリーが放電しているとき
- 外気温が低いまたは高いとき
- バッテリー交換したあとや、長期間バッテリー端子を外したあと

● 次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキから足を離しても、エンジンが再始動しません。
- セレクトレバーがPのとき

アイドリングストップ★

知識

- 次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキから足を離さなくても、エンジンが再始動をします。（室内外の温度やエアコンの作動状況によっては下記の条件以外でも、エンジンが再始動する場合があります。）
  - アイドリングストップしてから、3分以上経過したとき
  - アイドリングストップOFFスイッチを押したとき
  - 室内の温度が約20°C以下になったとき
  - 室内の温度が約30°C以上になったとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップし続けます。）
  - エアコンスイッチ、AUTOスイッチ（➔P.181または➔P.174）を押したとき
  - デフロスタースイッチ（➔P.181または➔P.174）をONにしたとき（外気温によってはエンジンが再始動しない場合があります。）
  - アクセルペダルを踏んだとき
  - ハンドル操作をしたとき（ハンドルの操作力が重く感じることがありますが、異常ではありません。）
  - バッテリーの容量が低くなったとき
  - 消費電力が大きいとき
  - 坂道でブレーキを緩め、車両が動き出したとき
  - セレクトレバーを**R**に入れたとき
  - セレクトレバーが**L**、**D**、**N**のときにブレーキペダルを緩めたとき
  - セレクトレバーを**N**または**P**から**L**、**D**に入れたとき
  - ブレーキペダルを数回踏み直すなどして、ブレーキ装置の負圧が不足したとき
  - 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき
- このシステムは、信号待ちなどのときに使用し、長時間の停車などの場合はエンジンを停止してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- アイドリングストップ中にボンネットを開けると、ブザーが鳴るとともに通常のエンジン停止状態となります。その場合は、エンジンをかけ直してください。
- アイドリングストップ中は、エアコン（冷房･暖房･除湿機能）がOFFになり、送風になります。

車両後退抑制機能

- 坂道でアイドリングストップ中から発進するときに、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に発生する車両の後退を軽減するシステムです。
- この装置はVDC（➔P.248）のブレーキ制御を利用しているため、VDC警告灯（➔P.65）が点灯したときは作動しません。

アイドリングストップ、エンジンアシスト機能、バッテリーへの充電（エネルギー回生機能）を効率よく制御し、燃費を向上させます。

バッテリーについて

S-HYBRID専用にバッテリー（メイン）とバッテリー（サブ）の2つのバッテリーを搭載しています。エンジンルーム内の配置図 (P.402)

⚠ 注意

- **バッテリーの端子を外した状態で走行しない。**
  車両の各システムが正常に機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

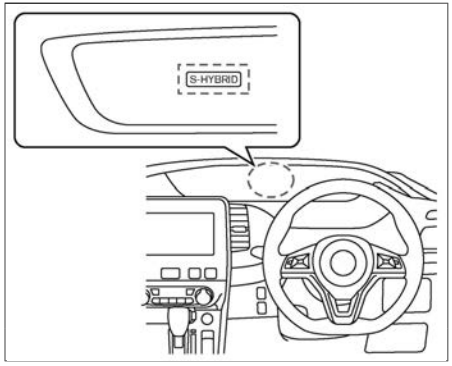
- 充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ専用のバッテリーを搭載しています。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップ機能、エンジンアシスト機能が正常に機能しなくなる原因となります。
- バッテリーは、お客様の車両に適合したスズキ純正部品をお勧めします。詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

S-HYBRID表示灯

- 以下のような場合には、メーター内にS-HYBRID表示灯が点灯します。
  - アイドリングストップ作動時
  - エンジンアシスト機能が機能しているとき
  - エネルギー回生機能でバッテリーを充電しているとき



S-HYBRIDの機能

エネルギー回生機能

アクセルペダルを踏まずに惰性での走行中やブレーキペダルを踏んで減速しているときなど作動条件を満たすと、ECOモーターの発電量を増大させバッテリーを充電します。
（S-HYBRID表示灯が点灯）

エンジンアシスト機能

バッテリーの充電量に十分な余裕があるとき、アイドリングストップからの発進後、加速中に作動条件を満たすと、約1秒間ECOモーターの力で駆動力をアシストします。
（S-HYBRID表示灯が点灯）

- エンジンアシスト機能が一回作動すると、次にアイドリングストップして発進するまでは作動しません。

バッテリー（サブ）の電圧低下に伴う現象

- エンジン始動直後に次の現象が発生する場合は、バッテリー（サブ）の電圧低下の可能性があるため、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。
  - VDC警告灯が点灯する
  - パワーステアリング警告灯が点灯する
  - セレクトレバーがP以外のときにエンジンスイッチを押してもエンジンが停止しない（エンジンスイッチを3連打以上、または2秒間以上押し続けると停止します。）
  - スライドドアのパワースライド機能が作動しない（エンジン始動直後に作動しない場合があります。）

知識

- 次のような場合は、エンジンアシスト機能が作動しません。（車両の状態によっては次の条件以外でも、エンジンアシストしない場合があります。）
  - アイドリングストップ時間が5秒以下のとき
  - 急発進、急加速したとき
  - 発進したあとにブレーキペダルを踏んだとき
  - 発進したあとにアクセルペダルを緩めたとき
  - ハンドルを切っているとき
  - VDCが作動しているとき
  - バッテリーの充電量が十分でないとき
  - 外気温度が低く、バッテリーの保護が必要なとき

★：車型式、オプションなどで異なる装備

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても一定の速度（約40～100km/h）で走行できるシステムです。

各部名称と機能

マルチインフォメーションディスプレイ

① **クルーズコントロール表示**
スイッチをONにすると点灯します。セットすると設定した速度を表示します。

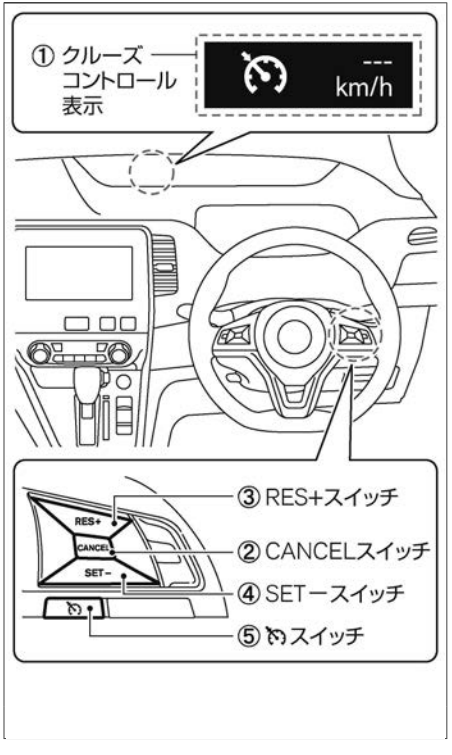
クルーズコントロールスイッチ

② **CANCELスイッチ**
クルーズコントロールを解除します。

③ **RES+スイッチ**
設定速度を上げます。
クルーズコントロールを解除後、解除前の設定速度に再度セットします。

④ **SET-スイッチ**
設定速度を下げます。
クルーズコントロールをセットします。

⑤ **スイッチ**
クルーズコントロールのON·OFF ができます。



⚠ 注意

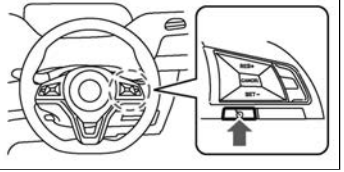
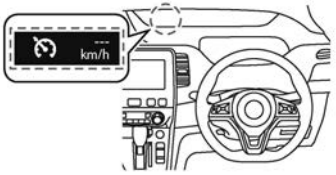
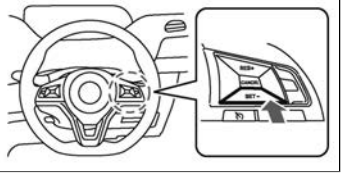
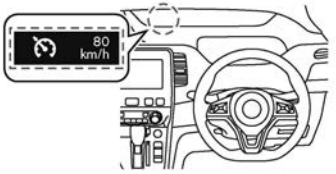
- **クルーズコントロールを使用するときは、十分な車間距離をとる。**
  車間制御は行わないため、ブレーキ操作制御や警報は行われません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- **次の状況では、クルーズコントロールを使用しない。**
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  - 急な下り坂
- **クルーズコントロールを使用しないときは、 スイッチを必ずOFFにする。**
  誤ってセットされると事故につながるおそれがあります。
- **クルーズコントロール表示が点滅し続けたりセットできないときは、スズキサービス工場で点検を受ける。**
  クルーズコントロール表示が点滅したときは、安全な場所に停車して、電源ポジションを一旦OFFにし、再始動し

⚠ 注意
てから再度クルーズコントロールをセットしてください。点滅が続いたり、セットできないときはスズキサービス工場で点検を受けてください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

定速走行のしかた

1	ハンドルにある スイッチを押し、クルーズコントロールをON（待機状態）にします。	
2	マルチインフォメーションディスプレイにクルーズコントロール表示が点灯していることを確認します。 (表示灯が白色に点灯)	
3	設定したい速度まで加速または減速し、SET-スイッチを押します。	
4	スイッチを離すと、マルチインフォメーションディスプレイに表示された速度で定速走行を開始します。 (表示灯が緑色に点灯)	

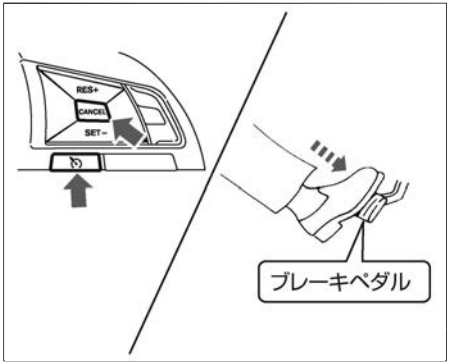
知識

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

- CANCELスイッチを押す
- スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む



アドバイス

- CANCELスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。(マルチインフォメーションディスプレイ内のクルーズコントロール表示が白色に点灯)
  もう一度、定速走行にする場合は、再度SET-スイッチを押します。(マルチインフォメーションディスプレイ内のクルーズコントロール表示が緑色に点灯)
- 次の場合は、自動的に解除されます。
  - 速度が30km/h以下になったとき
  - 設定速度より約13km/h以上速度が低下したとき
  - VDCが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - セレクトレバーをNに入れたとき
  - システムに異常があるとき

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

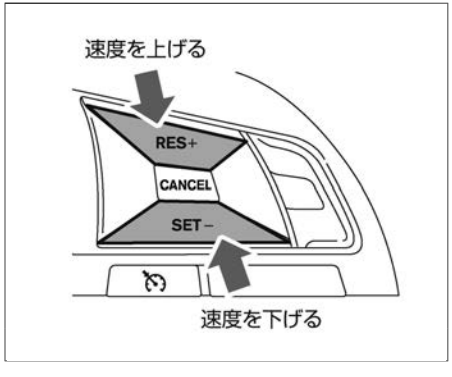
設定速度の変更のしかた

速度を上げる

- 定速走行中にRES+スイッチを押し続けると加速します。希望の速度で手を離します。

速度を下げる

- 定速走行中にSET-スイッチを押し続けると減速します。希望の速度で手を離します。



知識

- アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作でも設定速度を調節できます。アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で速度を調節し、希望の速度でSET-スイッチを押します。

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★

4WD車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。
4WD車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。走行するときは以下のことを必ずお守りください。
  - 河川などの水中走行はしない
  - 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
  - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転に心がけてください。

知識

- 砂地などのオフロード走行や脱輪時の無理な操作などにより、前後輪間の回転数差が大きい（車輪が空転する）状態が続くと駆動系部品の油温が上昇します。この場合、駆動系部品の保護のため、一時的に4WDから2WD（前輪駆動）に切り替わることがあります。しばらくして油温が下がると、4WDに復帰します。
- 4WD車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

タイヤについて

- タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の機構を破損するおそれがあります。
  冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。
  タイヤ交換はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★

4WD車の特性

■ タイトコーナーブレーキング現象

乾燥した舗装路を4WD状態で走行中、ハンドルをいっぱいに切って旋回するとブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。
この現象は旋回するとき前後輪に回転差が生じるために起きる4WD車特有の現象で異常ではありません。この現象が発生したときはハンドルの操作力が重くなります。

アドバイス

- タイトコーナーブレーキング現象が起きるとタイヤのスリップ音や駆動系のきしみ音などが発生することがあります。

走行のしかた

■ 雪道など舗装路以外を走行するとき

- 路面の状態に合わせ慎重に走行します。

⚠ 注意

- **急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはしない。**
  タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- 電源ポジションをONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

⚠ 警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**
  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。
- **でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**
  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控え、車間距離を十分にとって運転してください。
- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**
  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：車型式、オプションなどで異なる装備

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCの機能について

- VDCのシステムには次の機能があります。
  - VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
  - トラクションコントロール機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、エンジンの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
  - ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
  - ABS機能：ABS（P.247）

⚠ 注意

- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**
  この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。
- **次の場合、VDC警告灯 が点灯し正常に作動しないことがあるので注意する。**
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどが著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- **VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

知識

- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

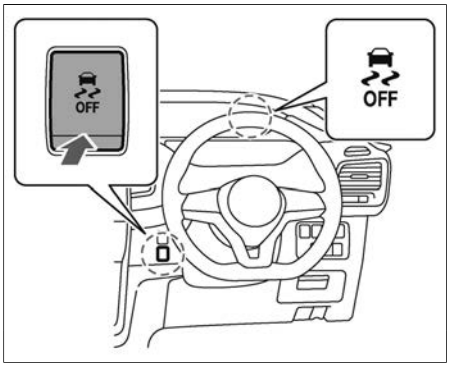
VDCの作動について

- VDCの作動と警告灯
  - VDCが作動しているときは、メーター内のVDC警告灯が点滅します。
  - トラクションコントロール機能のみが作動しているときもVDC警告灯が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- 次の場合、VDC警告灯が点灯することがあります。電源ポジションをOFFにし、再度エンジンを始動するとVDC警告灯は消灯します。
  - 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき。
  - 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき。

VDCの停止のしかた

VDCの作動を停止（OFF）するにはVDC OFFスイッチを押します。

- VDC OFFスイッチを押すと、VDCが停止し、VDC OFF表示灯が点灯します。
- 再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度VDC OFFスイッチを押します。VDC OFF表示灯が消灯し、VDCがONになります。



アドバイス

- VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはVDC OFFスイッチを押してVDCを停止してください。
- VDC OFFスイッチを押すと、VDCのすべての機能と次の機能が停止します。（ABS機能およびブレーキLSD機能を除く）
  - エマージェンシーブレーキ（P.255）

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

－ 踏み間違い衝突防止アシスト（P.264）

知識

- 電源ポジションをONにするたびに、VDCは自動的にONになります。
- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- 電源ポジションをONにしたときや、エンジン始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、上り坂での発進を補助するシステムです。

ヒルホールドコントロールについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- セレクトレバーがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。

⚠ 注意

- **ヒルホールドコントロールの機能を過信しない。**
  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転に心がけてください。
- **坂道での駐停車にヒルホールドコントロールを使用しない。**
  思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **停車するときは、ブレーキペダルを踏み続ける。**
  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にセレクトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけてください。

アドバイス

- セレクトレバーを操作した直後は、ブレーキを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。セレクトレバーをPからDまたはNからDに操作した直後は、ヒルホールドコントロールが作動しないことがあります。

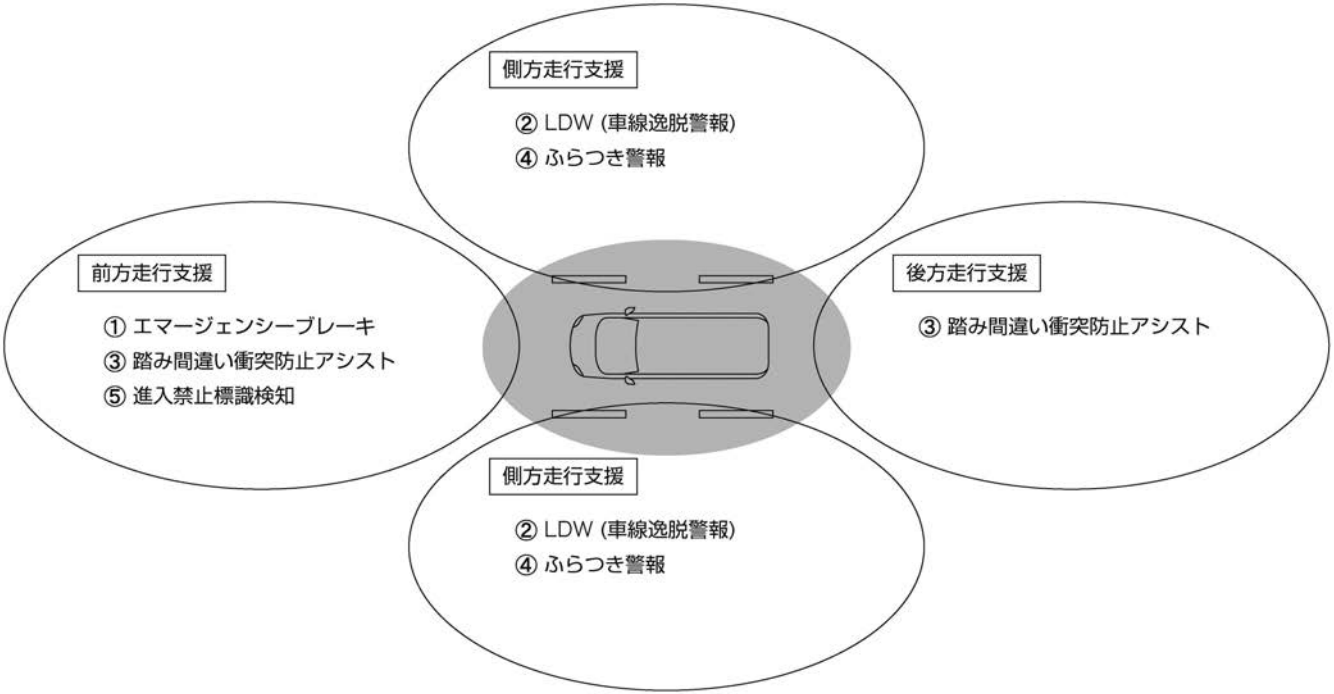
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- VDC警告灯（P.65）が点灯したときは作動しません。
- ヒルホールドコントロールが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

走行支援システムについて



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

① **エマージェンシーブレーキ**
前方の車両や歩行者と衝突のおそれがあるとき、警報と自動ブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（P.255）

② **LDW(車線逸脱警報)**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。（P.280）

③ **踏み間違い衝突防止アシスト**
進行方向に壁などの障害物がある場所で、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えやブレーキ操作が遅れたとき、警報音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（P.264）

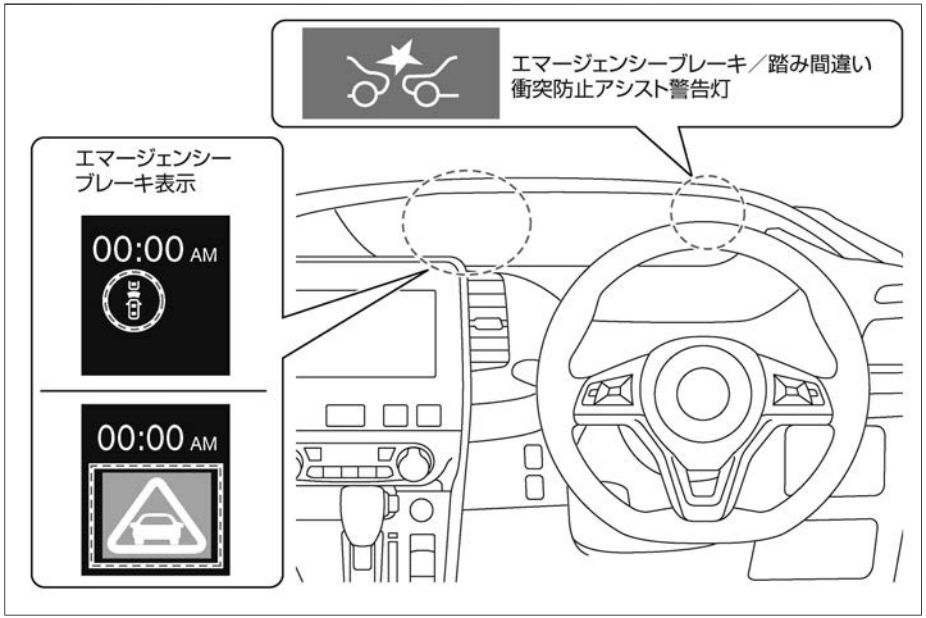
④ **ふらつき警報**
ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、警報音と表示により運転者に休憩を促します。（P.285）

⑤ **進入禁止標識検知**
運転者に車両進入禁止標識があることを知らせ、車両進入禁止区域を走行しないように注意を促します。（P.288）

エマージェンシーブレーキ

エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者と衝突のおそれがあるとき、
警報と自動ブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

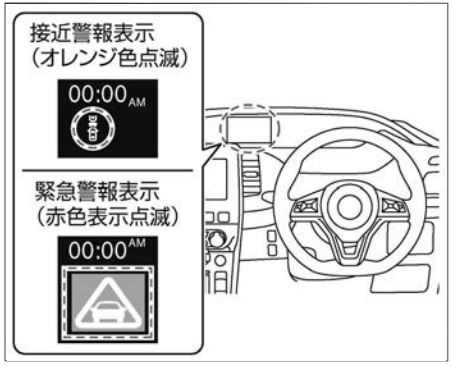
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。
  必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エマージェンシーブレーキについて

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知します。
- 車速約10km/h～80km/hの範囲で作動します。
  （車速約60km/h以上では、歩行者に対しては作動しません。）
- 衝突するおそれがあると判断すると、メーター内の接近警報表示が点滅し、ブザー音とともに軽いブレーキをかけて警報します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、メーター内の接近警報表示が緊急警報表示になり、ブザー音とともに衝突の直前に自動的にブレーキが作動します。
  さらに衝突危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキが自動的にかかります。



知識

- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ハンドルを大きく、または素早くきったとき
  - 前方の車両や歩行者との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが自動的に解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、エマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動しない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- マルチインフォメーションディスプレイを「セーフティ·シールド」に切り替えると、エマージェンシーブ

知識

レーキの作動状態をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。
詳しくは、画面の切り替えかた (P.71)をお読みください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

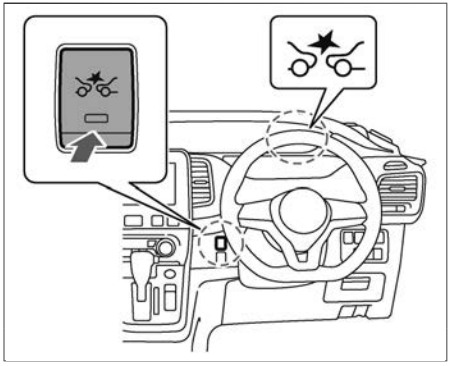
エマージェンシーブレーキの停止のしかた

スイッチでのON·OFFの設定

- エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストスイッチを押すごとにON·OFFを切り替えることができます。
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （スイッチの表示灯が消灯し、エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）

メーターでのON·OFFの設定

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援システム」⇒「エマージェンシーブレーキ」⇒「システム」を選択すると、エマージェンシーブレーキ機能のON·OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.71)
  ➔ 運転支援システム (P.84)
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）



知識

- エンジンを再始動するとONになります。
- エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストは、メーター内の設定またはスイッチの両方でON·OFFの切り替えができます。
  両方のON·OFF切り替えは連動しています。
- エマージェンシーブレーキをOFFにすると、踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.264）もOFFになります。

エマージェンシーブレーキに関する注意事項

⚠ 注意

- **次のような障害物は検知しません。**
  - 子供などの背の低い人、動物、自転車
  - 夜間やトンネル内など暗い場合の歩行者
  - 対向車両
  - 道路構造物(ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物)
- **システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは前向きに止まっている車
- **次のような場合は、前方の車両、歩行者が検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールライトが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

- カーブを走行しているとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
- 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
- 対象物の位置や動きが大きく変化した場合(自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など)
- 始動してから約15秒間のあいだ
- カメラの視界がさえぎられているとき(フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード)
- カメラの向きがずれているとき

● **以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**

- 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
- 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
- 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合(周りの風景が水たまりに映りこむなど)
- 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

● **以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。**

- 車高の低い車両
- 最低地上高(地面から車体までの高さ)が極端に低いもしくは極端に高い車両
- 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- 前方の至近距離に割り込んだ車両

⚠ 注意

- 前方の至近距離に飛びだしてきた歩行者
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者
- 後端面積が小さい車両(空荷のトラックなど)
- リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- 四輪車以外の車両(二輪車など)
- 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

● **以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**
- 複数の対象物同士が近接している場合
- 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

● **状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。**

● **次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。**
- 滑りやすい路面を走行しているとき
- 勾配のある路面を走行しているとき
- 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、純正品以外のタイヤを使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 車両が傾いているとき(重い荷物を積載しているとき)

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

- 路面または壁面の模様･ペイントや前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ･位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のエマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
  - エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
- 次の場合、メーター内のエマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯およびエマージェンシーブレーキ表示が点滅し、システムが一時的に作動しなくなります。
  - フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
  - 前方からの強い光により、 カメラが前方を認識できなくなったとき
  - 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
    （室内の温度が下がると、自動的に作動を復帰します。）
- システムに異常があると、メーター内のエマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイ内に警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  警告灯（P.66）
  警告メッセージ（P.80）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.441）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  警告灯（P.66）

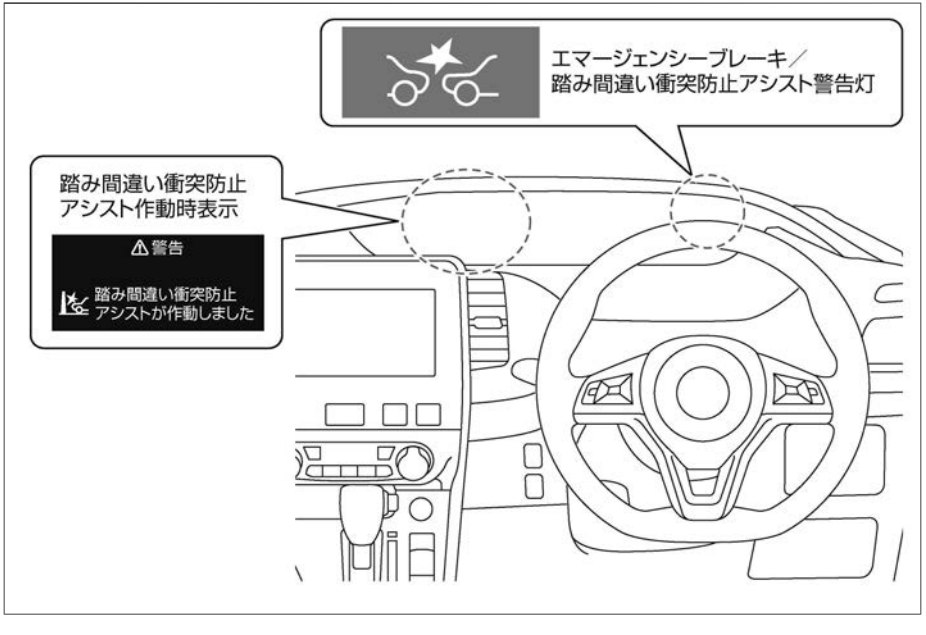
知識

- VDCをOFFにしたときは、メーターの表示と警報音のみ作動します。
- 夜間、ライトを付けずに走行するなどで、カメラの視界が真っ暗な状態になった場合は、 エマージェンシーブレーキ/踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点滅する場合があります。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、進行方向に壁などの障害物がある場所で、駐車操作時など低速のときにアクセルペダルとブレーキペダルを間違えて踏み込んだり、ブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。
さらに自動的にエンジン出力やブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示



⚠警告

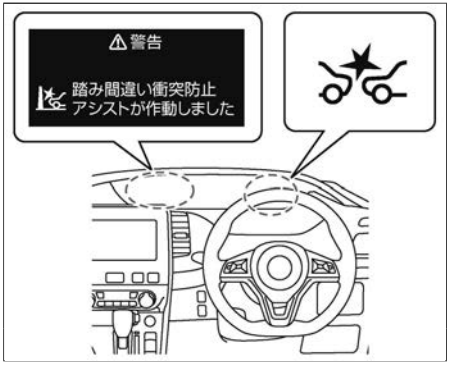
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えることにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

踏み間違い衝突防止アシストについて

- 前後のバンパーに取り付けられたソナーにより、進行方向の障害物を検知します。
- 踏み間違い衝突防止アシストには、次の2つの機能があります。

低速加速抑制機能

- 停車中、または前進、後退での低速（約15km/h未満）走行中、バンパーに取り付けられたソナーにより進行方向に壁などの障害物を検知している場合に、アクセルペダルが素早く深く（約1/2以上）踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間自動でエンジン出力を抑制したり、弱いブレーキをかけることで車速が上がることを抑えます。
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音と警告灯の点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告灯（➔P.66）
  警告メッセージ（➔P.80）





⚠警告

- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**
  低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。故意にアクセルペダルを踏み込まないでください。車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

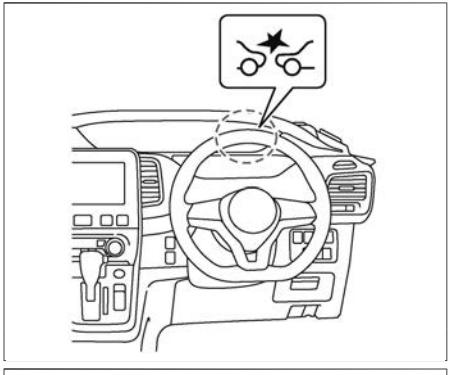
次ページに続く

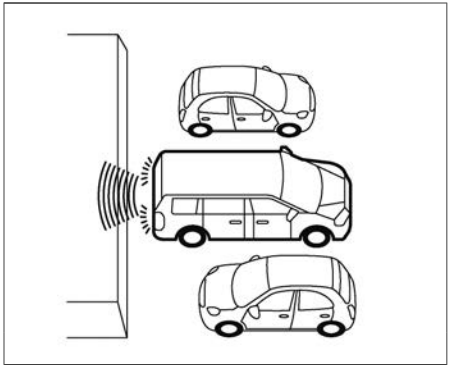
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

踏み間違い衝突防止アシスト

低速衝突軽減ブレーキ機能

- 前進、後退での低速走行（約2km/h～15km/h未満）中、バンパーに取り付けられたソナーにより進行方向の障害物を検知し、障害物に衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、自動的にエンジン出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音と警告灯の点滅によって運転者に警告します。
  警告灯（P.66）





知識

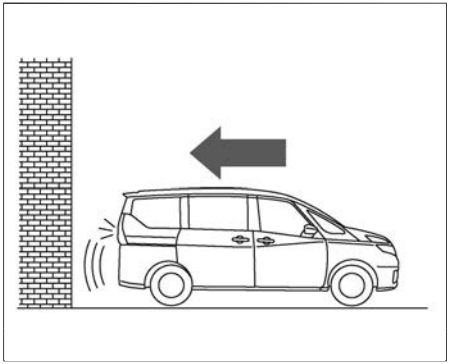
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき･しないとき

クルマ止めのない駐車場などで壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁に衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音と警告灯が点滅し、自動的にブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

- 自動ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- アクセルペダルを踏んで後退しているときは作動が遅れる場合があります。
- システムは、ブレーキを踏みながら車両を移動する（駐車場での操作）など低速における支援を目的にしています。
  アクセルペダルを踏んで前進･後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。



知識

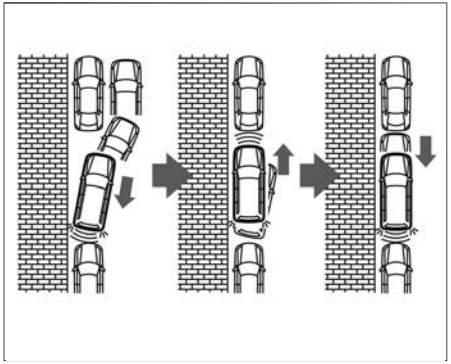
- 駐車時に壁などに近づくなどでシステムがエンジン出力を抑制する場合があります。アクセルペダルの踏み込み量を調整してください。

次ページに続く

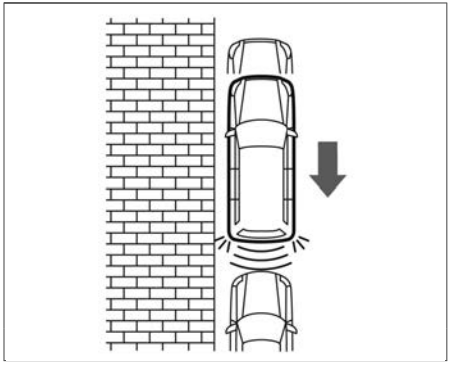
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

縦列駐車をするとき

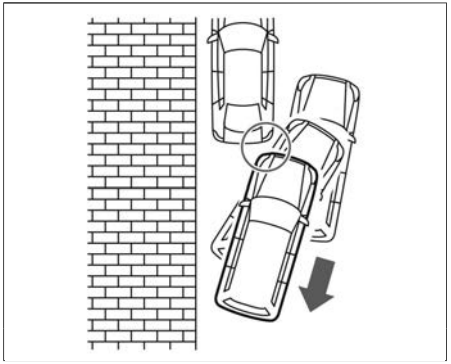
セレクトレバーを**D**から**R**、または**R**から**D**に操作して切り替えたときは、セレクトレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知して自動ブレーキ制御が作動します。



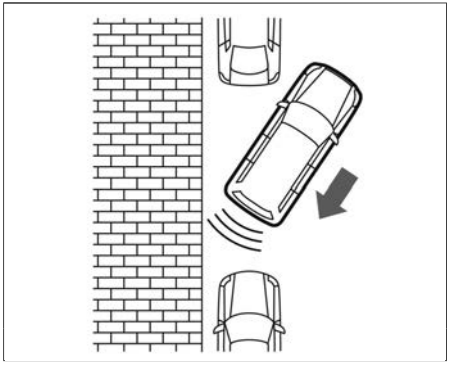
- 自動ブレーキ制御が作動したあと、セレクトレバーを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をしたときは、自動ブレーキ制御は作動しません。



- 後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対しては作動しません。



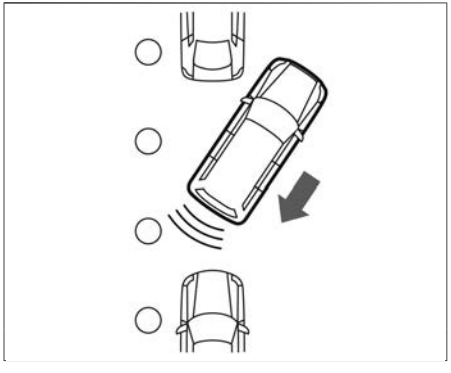
- 障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。



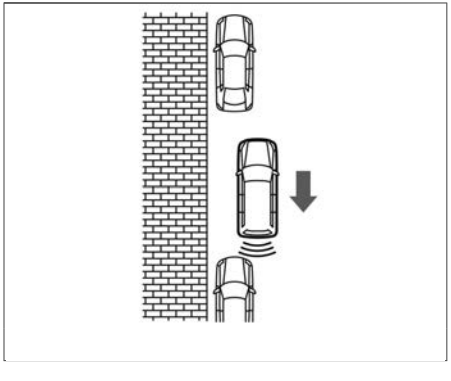
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

- 幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。

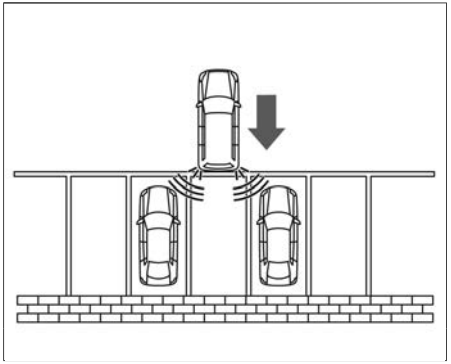


- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

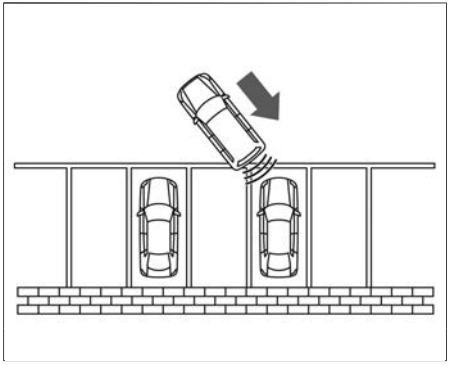


並列駐車をするとき

- 狭いスペースに進入するときに作動することがあります。



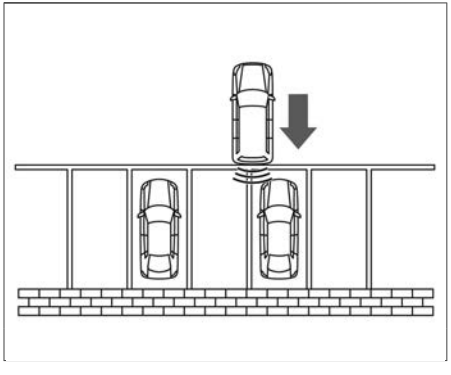
- 他の車両の角部に向かって接近したときは作動しない場合があります。



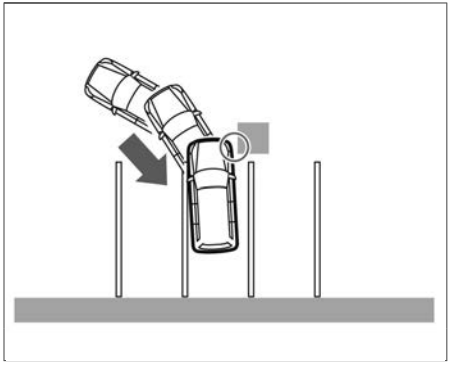
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

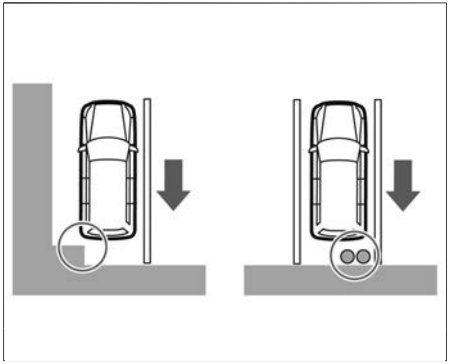


- 後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対しては作動しません。



踏み間違い衝突防止アシスト

- 壁から突き出している柱や配管などに対しては作動しません。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

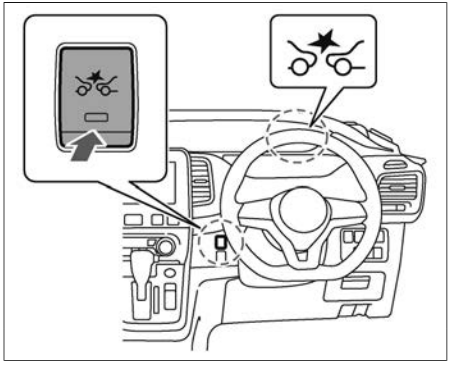
踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた

スイッチでのON·OFFの設定

- エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストスイッチを押すごとにON·OFFを切り替えることができます。
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （スイッチの表示灯が消灯し、エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）

メーターでのON·OFFの設定

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援システム」⇒「エマージェンシーブレーキ」⇒「システム」を選択すると、踏み間違い衝突防止アシストのON·OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.71)
  ➔ 運転支援システム (P.84)
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）



知識

- 踏み間違い衝突防止アシストの設定は、エマージェンシーブレーキの設定と連動しています。
- エンジンを再始動するとONになります。

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 注意

- **次の場合は、システムが正常に作動しなかったり、機能を十分に発揮できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき
  - 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - ハンドルを大きく切って旋回しているとき
  - タイヤチェーン、純正品以外のタイヤを使用しているとき
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- **動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。**
- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストを<u>OFF</u>にする。**
  - けん引するとき
  - トレーラーなどに積載するとき
  - シャシーダイナモを使用するとき
  - 平坦でない場所を走行しているとき
  - 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき
    （車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります。）
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

低速加速抑制機能について

- **車両から約2m以内の距離に存在する壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物に対しては作動しません。**
- **低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。**
- **アクセルペダルを踏み続けた場合は、作動を開始してから約6秒後に自動的に解除されます。**
- **渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。**
- **次の場合は作動しません。**
  - 車速が約15km/h以上のとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - セレクトレバーが D、L、R 以外のとき
  - トラクションコントロールが作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- **次のような障害物に対しては作動しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - バンパーに非常に近い障害物
  - 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物に対しては作動しないことがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物

⚠ 注意

– スポンジ状のものや雪などの表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物

- **次のような場合は作動しないことがあります。**
  – 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  – 周囲で大きな音が鳴っているとき
  – 周囲に超音波を発するものがあるとき
  – 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**
  車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。
- **自動ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。**
- **自動ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**
- **車両を停止させる場合は、必ず運転者がブレーキペダルを踏む。**
  低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが自動で解除され、車両が動き出します。
- **次の場合は作動しません。**
  – 車速が約2km/h未満、または約15km/h以上のとき
  – セレクトレバーが D、L、R 以外のとき
- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**
- **前進時は車両後方の障害物に対しては作動しません。同様に、後退時は車両前方の障害物に対しては作動しません。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

- **次のような障害物に対しては作動しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - バンパーに非常に近い障害物
  - 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物に対しては作動しないことや作動が遅れることがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **次のような場合は作動しないことがあります。**
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - 周囲に超音波を発するものがあるとき
  - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
- **次のような場合は作動することがあります。**
  - 周囲に草が生い茂っているとき
  - 車両側面の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき
  - 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
  - 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - 車両周辺に雪の固まりがあるとき
  - 他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

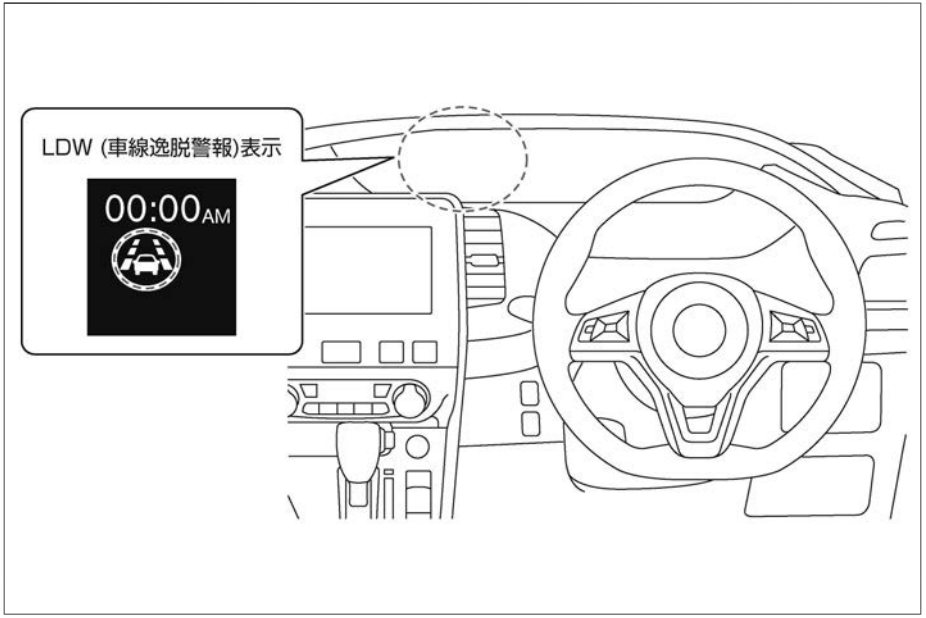
- 次の場合、メーター内の警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
  - エマージェンシーブレーキをOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
- エマージェンシーブレーキが一時的に作動できなくなったときは、エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点滅し、踏み間違い衝突防止アシストも一時的に作動しなくなります。
  詳しくは、エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.263)をお読みください。
- システムに異常があると、メーター内のエマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイ内に警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  警告灯（P.66）
  警告メッセージ（P.80）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（P.444）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  警告灯（P.66）

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

システムに関連する表示



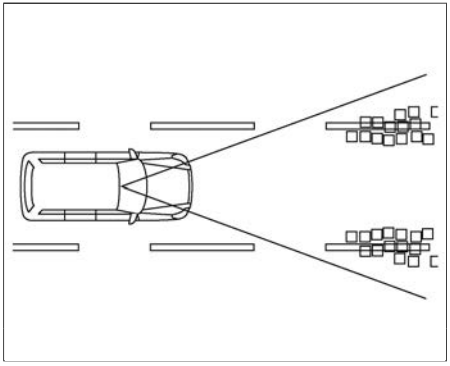
⚠ 警告

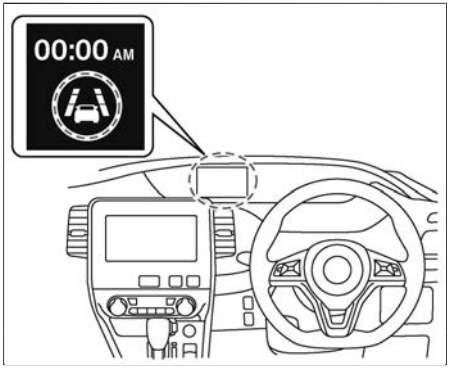
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  LDW（車線逸脱警報）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。

LDW（車線逸脱警報）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにメーター内のLDW(車線逸脱警報)表示がオレンジ色に点滅します。

  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。





知識

- 方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。
  （方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません。）
- マルチインフォメーションディスプレイを「セーフティ·シールド」に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の作動状態をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、運転支援システムをお読みください。
  画面の切り替えかた (P.71)
  運転支援システム (P.84)

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ON･OFFのしかた

LDW（車線逸脱警報）

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援システム」⇒「側方支援」⇒「LDW（車線逸脱警報）」を選択すると、LDW（車線逸脱警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.71)
  ➔ 運転支援システム (P.84)

📖 知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

LDW(車線逸脱警報)に関する注意

⚠ 注意

- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります。）
  - 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
  - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  - 汚れなどでヘッドライトの明るさが不十分なときやヘッドライトの光軸調整が適切に行われていないとき
  - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- **状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

作動が停止するとき

LDW（車線逸脱警報）

- 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、メーター内のLDW（車線逸脱警報）表示が点滅し、一時的に作動が停止します。（室内の温度が下がると、自動的に作動を復帰します。）
- システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、システムが自動的に停止します。
警告（P.80）

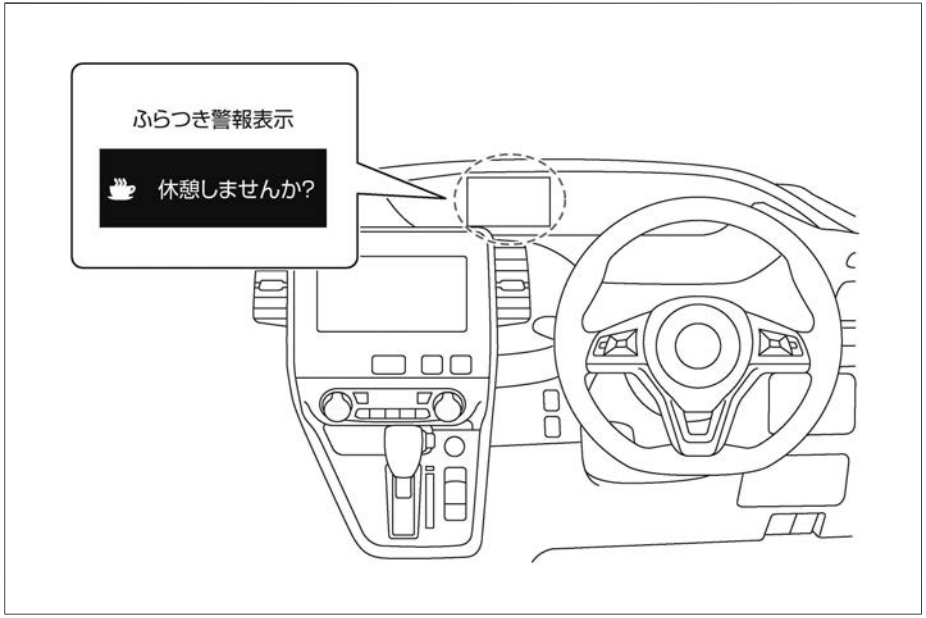
アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.441）をお読みください。
- マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してくだ さい。
エンジン再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。
LDW（車線逸脱警報）表示 (P.98)

ふらつき警報

ふらつき警報は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、マルチインフォメーションディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故に至る危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ふらつき警報について

- 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音とともにマルチインフォメーションディスプレイに“休憩しませんか？”とメッセージを表示します。
  警告メッセージ（P.81）



ふらつき警報の停止のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援システム」⇒「ふらつき警報」を選択すると、ふらつき警報機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  画面の切り替えかた (P.71)
  運転支援システム (P.84)

知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

ふらつき警報の作動が停止するとき

- システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、自動的に作動が停止します。
  警告メッセージ（P.81）

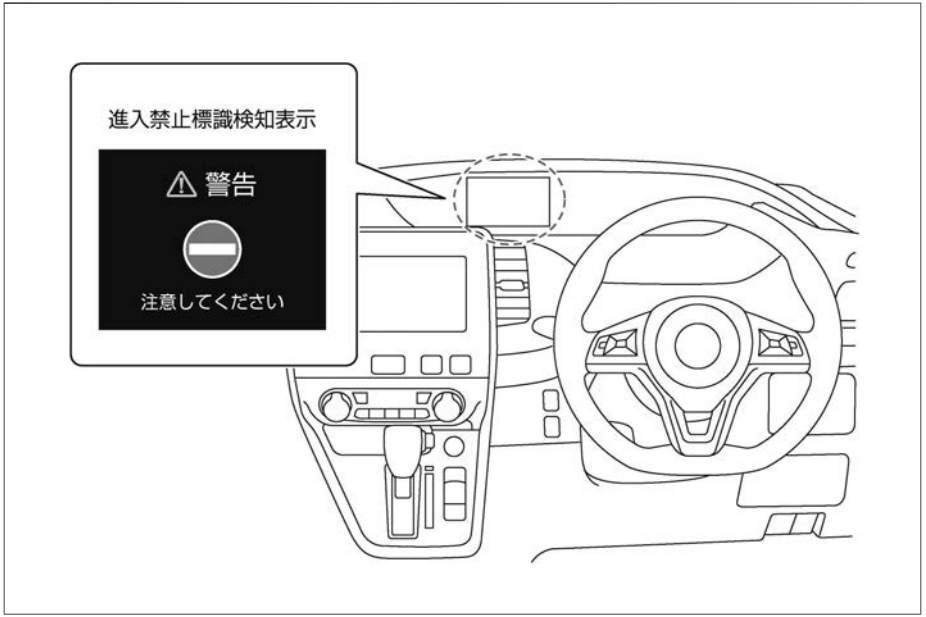
アドバイス

- 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。
  通常走行に支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。

進入禁止標識検知

進入禁止標識検知は、運転者に車両進入禁止標識があることを知らせます。

システムに関連する表示

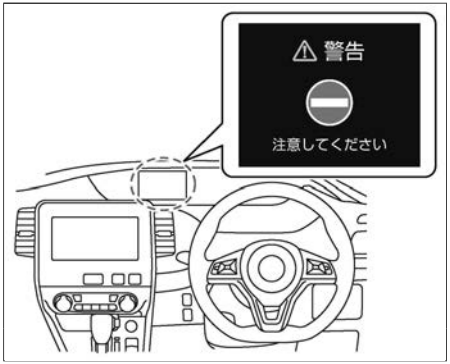


⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  進入禁止標識検知には限界があります。交通標識などに十分注意し、安全運転に心がけてください。

進入禁止標識検知について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより、前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはマルチインフォメーションディスプレイに警告表示します。
- 万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警報音が鳴ります。



⚠ 注意

- **車両の状態、走行状況、交通環境、天候、標識の状態などによっては、標識を検知できない場合があります。**
- **次のような場合は、車両進入禁止標識の検知が遅れたり、検知できないことがあります。**
  - 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
  - 標識が折り曲がっているなど形状が変わってしまっているとき
  - 車両進入禁止標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
  - 速い速度で走行しているとき
- **状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。**

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.441）をお読みください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

進入禁止標識検知

進入禁止標識検知の停止のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援システム」⇒「標識検知」を選択すると、進入禁止標識検知機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.71)
  ➔ 運転支援システム (P.84)

知識

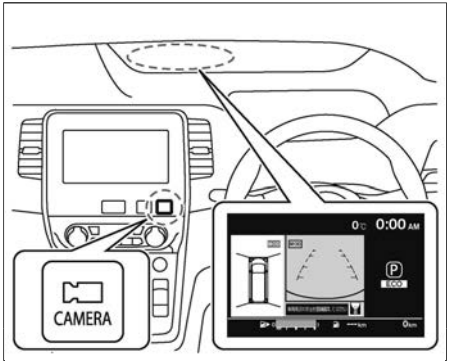
- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

全方位モニター（MOD機能付）

全方位モニターは自車両を上から見ているかの映像を映し出すことで、駐車時の運転操作を支援します。

全方位モニターについて

- 全方位モニターはメーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- 電源ポジションがONのときに、CAMERAスイッチを押すか、セレクトレバーを**R**に操作すると表示します。



⚠ 警告

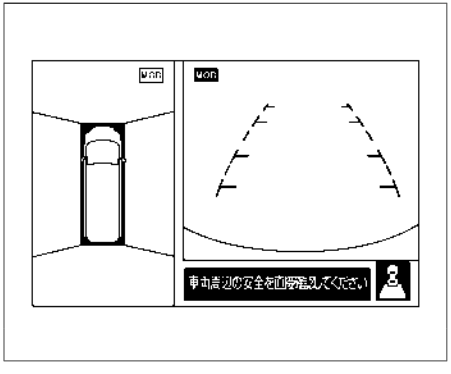
- **全方位モニターの機能を過信しない。**
  全方位モニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップ映像、前方映像、後方映像に障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。
- **実際の距離感を間違えないように注意する。**
  全方位モニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

全方位モニターの使いかた

- セレクトレバーを R に入れると全方位モニターがONになり、トップ映像（左側画面）/後方映像（右側画面）を表示します。セレクトレバーを R から他の位置に動かすと、全方位モニターがOFFになります。
- CAMERA スイッチを押すと全方位モニターがONになり、トップ映像（左側画面）/前方映像（右側画面）を表示します。
- CAMERA スイッチを押すことで、左側画面を切り替えることができます。トップ映像 → サイド映像 → 全方位モニターOFF
- 右側画面に前方映像が表示されているときにセレクトレバーを R に入れると、後方映像に切り替わります。セレクトレバーを R から他の位置に動かすと、再度、前方映像に切り替わります。



⚠ 警告

- **ドアミラーを格納した状態では使用しない。**
  適切な範囲を映すことができません。また使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。

知識

3分タイマー機能

- CAMERA スイッチを押してから約3分後に自動的に全方位モニター表示が消える機能です。セレクトレバーが R 以外のときに作動します。（ただし、タイマー作動中に CAMERA スイッチを押すとタイマーがリセットされます。）

画面の見かた

①左側画面

- トップ映像またはサイド映像を表示します。

②MOD（移動物検知）機能作動状態アイコン

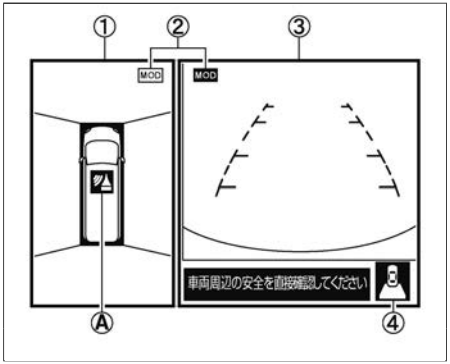
- どちらのビューでMOD（移動物検知）機能が作動するかを表します。
  - ー MOD：MOD（移動物検知）機能が作動します
  - ー MOD：MOD（移動物検知）機能が作動しません

③右側画面

- セレクトレバーがRのときは後方映像を、R以外のときは前方映像を表示します。

④方向指示アイコン

- 右側画面の映している方向を表します。
  - ー ：後方映像表示
  - ー ：前方映像表示



知識

- 電源ポジションをONにしてから初めて全方位モニターを表示したときに、アイコンⒶの色と点滅（約3秒間）で、ソナーの作動状況を表します。
  - ー 赤色に点滅：ソナーON
  - ー 灰色に点滅：ソナーOFF（ソナーをOFFにした直後も点滅します。）
- 表示しているビューで映している範囲のみMOD（移動物検知）機能が作動します。例えば、後方映像でMOD（移動物検知）機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示の種類について

■ 前方映像／後方映像

● 車両の前方／後方の映像を全方位モニター右側画面に表示します。

距離目安ライン

● 車体からの距離の目安を示します。
- ①赤色：約0.5m
- ②黄色：約1m
- ③緑色：約2m
- ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

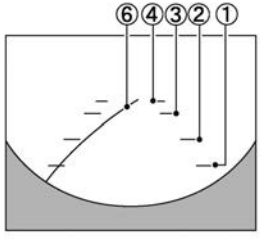
● 車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

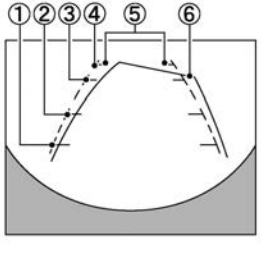
● 運転操作時に予想進路を示します。予想進路線は、ハンドルを切ったときに表示されます。予想進路線はハンドルを切った角度に応じて移動し、ハンドルを中立位置にすると表示されなくなります。

● 前方映像は、車速が10km/hを超えると表示されなくなります。

<前方映像>



<後方映像>



⚠ 警告

● **後方映像に表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**

アドバイス

● 前方映像が表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。

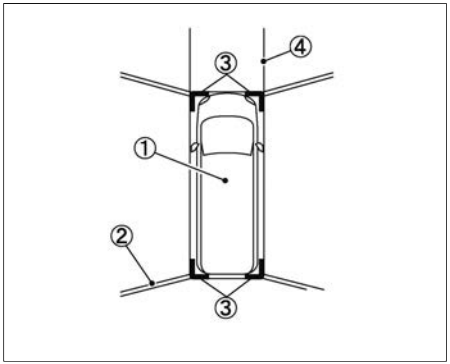
● 後方映像モニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた鏡像です。

● 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

● バックカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、後方映像の表示は多少右にずれて見えます。

■ トップ映像

- 自車位置や駐車スペースへの進入コースが分かりやすい、車両を上から見たような映像を全方位モニター左側画面に表示します。
- 車両アイコン①は、自車位置を示しています。トップ映像に表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。カメラで撮影できない領域トップ映像境目②は、黒色で表示されます。
- 電源ポジションをONにし、初めてトップ映像を表示すると、トップ映像境目②と表示されないコーナー部分③は、約4秒間黄色で強調表示されます。フロント&バックソナーがOFFのとき、表示されないコーナー部③は赤色で表示されます。
- 予想進路線④は、運転操作時に予測進路を示します。
  予想進路線は、ハンドルを切った角度に応じて移動します。



⚠ 警告

- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップ映像は、障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されないことがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**
- **トップ映像の映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ サイド映像

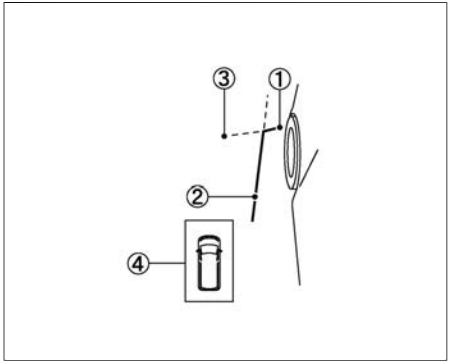
- 車両の左側前輪付近から前方を、全方位モニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

- モニターには車幅と車両の前端を示す目安ラインが表示されます。
  - 前端目安ライン①は、車両前部の位置の目安を示します。
  - 側方目安ライン②は、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。
  - 前端目安ライン①と側方目安ライン②の延長線③は、緑色の破線で表示します。

ソナー表示

- サイド映像を表示させると、ソナー検知時のみ④（➔P.299）を表示します。



⚠ 注意

- **カメラから汚れや雪を取り除くときに、カバーに傷をつけないように注意してください。**
- **方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。**

MOD（移動物検知）機能について

- 車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
- 車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。
- トップ映像に MOD 表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。
- MOD（移動物検知）機能は以下の条件のとき、 MOD が表示されている画面で作動します。
  - セレクトレバーが P または N で車両が停車しているときに、トップ映像側で作動します。
  - セレクトレバーが D で車速約8km/h以下のときに、前方映像で作動します。
  - セレクトレバーが R で車速約8km/h以下のときに、後方映像で作動します。

⚠ 注意

- **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

知識

- ソナーブザーが鳴っている場合はMOD（移動物検知）機能ブザーは鳴りません。
- サイド映像にはMOD（移動物検知）機能がないため、 MOD アイコンを表示しません。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面の見かた

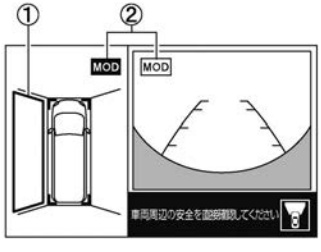
①MOD（移動物検知）表示

- MOD（移動物検知）機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

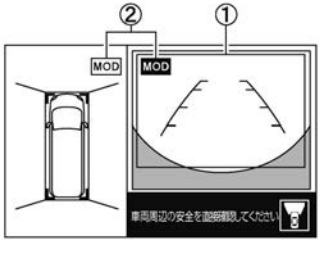
②MOD（移動物検知）機能作動状態アイコン

- MOD（移動物検知）機能を作動させる側の画面のアイコンを青色で表示します。
  - – MOD：MOD（移動物検知）機能が作動します
  - – MOD：MOD（移動物検知）機能が作動しません

<トップ映像>



<前方映像>

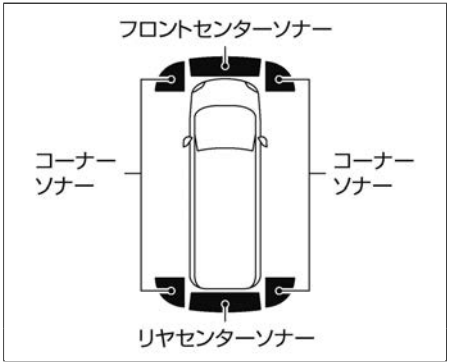


知識

- 以下の場合にはMOD（移動物検知）機能は作動しません。
  - – 車速やセレクトレバーの位置がMOD（移動物検知）機能の作動条件から外れている場合
  - – トップ映像によるMOD（移動物検知）機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
  - – 後方映像によるMOD（移動物検知）機能作動中でバックドアが開いている場合
- トップ映像によるMOD（移動物検知）機能作動中で電動格納ミラーが作動している場合、誤検知する場合があります。

ソナー機能について

- 車速約10km/h以下で前進中にソナーが障害物を検知した場合は、ソナー表示とブザーでお知らせします。
- ソナー表示はトップ映像またはサイド映像画面に表示されます。



⚠ 注意

- 気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物が動いていたり小さい場合にはセンサーが検知できないことがあります。必ず周囲の安全を確認してから運転してください。
- センサーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けないでください。
- バンパーに凹みなどがあると正確な距離が測定できず、誤検知する場合があります。
- 適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ コーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～70cm	70～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	早い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150～70cm	70～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ ソナー表示色

- ソナー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

- 障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
- 障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。
- フロントソナーが検知したときは低音、リヤソナーが検知したときは高音でお知らせします。
- コーナーソナーが検知したときは障害物との距離が3秒間変わらない場合は断続音は消え、ソナー表示のみとなります。
- 障害物を検知しているときは、ステアリングスイッチの OK スイッチでソナーの音がOFFになります。

全方位モニターに関する注意事項

⚠ 警告

- カメラはフロントグリル中央部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートを装着すると、後方映像の映像が一部映らなくなることがあります。
- 距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- 目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。
- サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップ映像が不適切に表示されることがあります。
- 上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。

⚠ 注意

- 前方映像および後方映像の表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。
- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて含ませた布でふき取ったあと、乾いた布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。

全方位モニターに関する注意事項

⚠ 注意

- **カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。**

知識

- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。
- セレクトレバーが R 以外のとき、CAMERA ボタンを押して全方位モニターを表示させたあと3分間操作を行わないでいると、自動的に全方位モニター表示が消えます。
- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。全方位モニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。
- 全方位モニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗い所や夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。
- トップ映像の各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。
- トップ映像の画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。

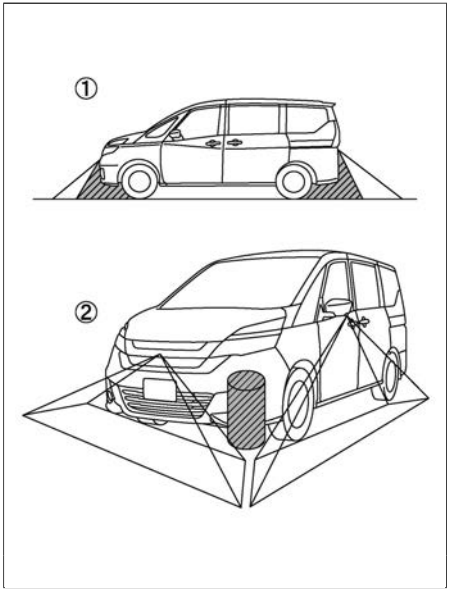
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識
– 立体物が倒れこんで見える – 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える – 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される – 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲

- 特定の領域は、カメラに映し出されません。前方映像または後方映像では、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップ映像ではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。



次ページに続く

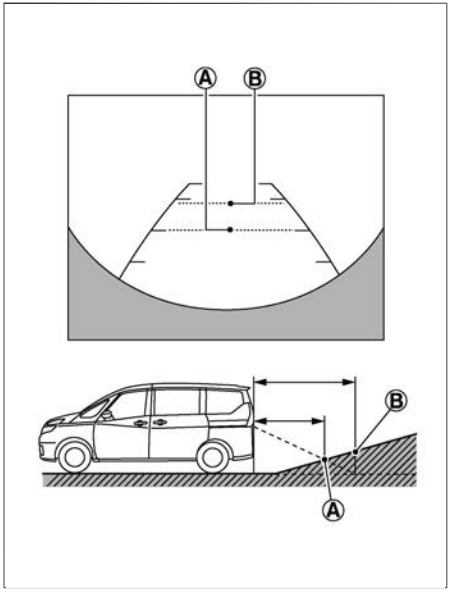
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

映像と実際の路面との誤差

- 前方映像と後方映像に表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

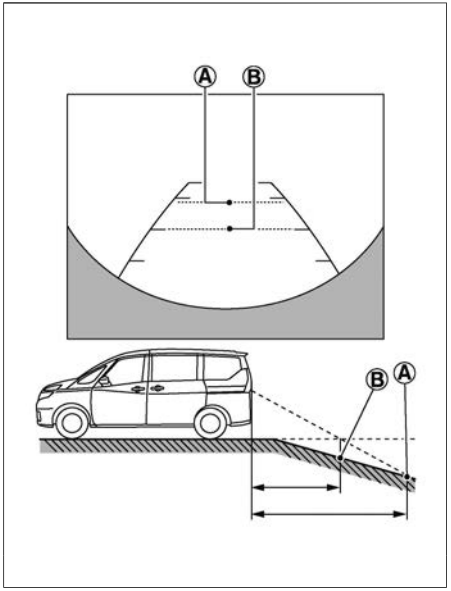
急な上り坂が後方にあるとき

- 距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り 坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。



急な下り坂が後方にあるとき

- 距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。 例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。



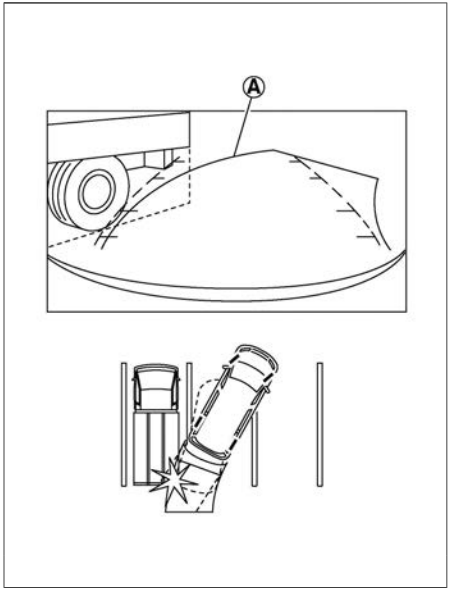
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

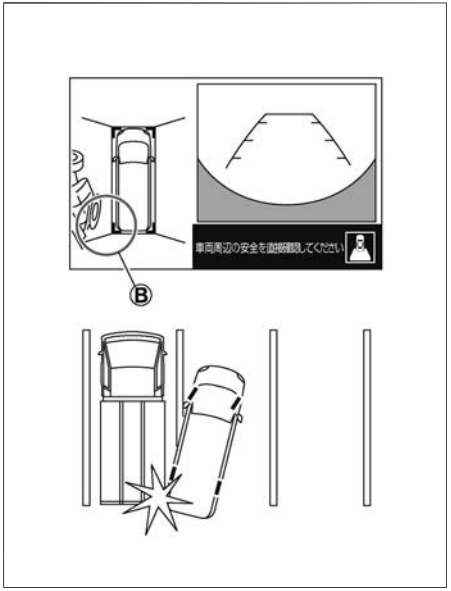
全方位モニターに関する注意事項

立体物が近くにあるとき

- 立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。
- 例1:予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。



- 例2:表示されているトップ映像Ⓑでは、自車とトラックの車体間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。

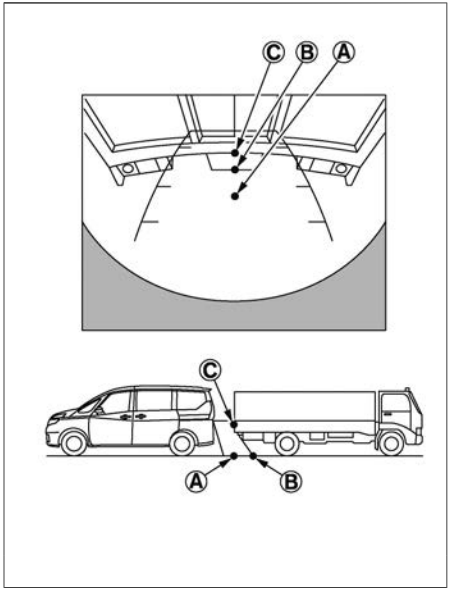


次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

立体物に接近するとき

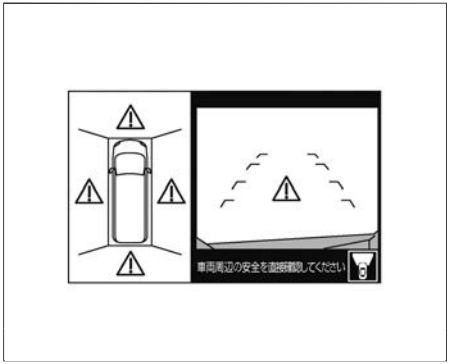
- Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶ の位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出し ている場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。

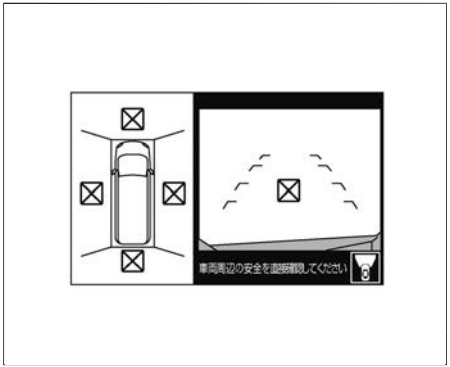


画面のエラー表示について

⚠ アイコンが画面内に表示された場合は、全方位モニターの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⊠ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。





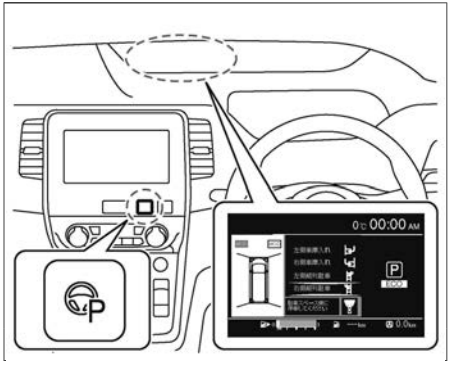
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パーキングアシスト★

パーキングアシストは、ハンドル操作を自動で行い、駐車時の運転操作を支援します。

パーキングアシストについて

- パーキングアシストはメーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- 全方位モニターのトップ映像画面で設定した駐車目安枠付近へ駐車するように自動でハンドル操作をします。同時に、画面表示とハンドルの切り返し操作やセレクトレバー操作をガイドします。



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信しない。**
  パーキングアシストは、駐車場における運転者のハンドル操作を補助することを目的としています。自動で速度を調整したり障害物を回避する機能ではありません。通常の駐車操作と同様に、周囲の安全や路面の状態をミラーや目視で直接確認してください。システム作動中は車両をゆっくり移動させ、周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときはブレーキを踏み込むなど回避操作を行ってください。
- **パーキングアシスト作動中に、ハンドルのスポーク部に触れない。**
  手や指がスポーク部に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。また、ネクタイ、スカーフなども巻き込まれないように十分注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

画面の見かた

①PA
- パーキングアシストが起動していることを意味します。

②想像進路線（緑色）
- 目標駐車位置に入れるために、進むべき進路を表示します。

③障害物目安線（赤色）
- 駐車スペースの目安を表示します。

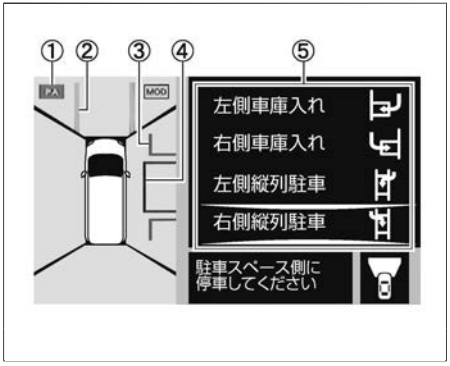
④駐車目安枠（青色）
- 駐車したい位置を表示します。

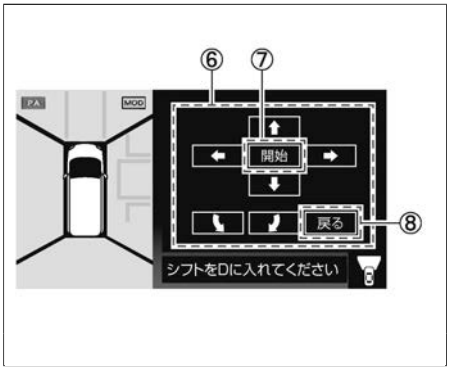
⑤駐車方法選択メニュー
- 駐車方法を選択します。

⑥ ◀▶（ ）スイッチ ▲▼（ ）スイッチ ⏮⏭（ ）スイッチ
- 駐車目安枠の位置を微調整します。
駐車位置を微調整する (P.317)

⑦OK（開始）スイッチ
- パーキングアシストの作動を開始します。

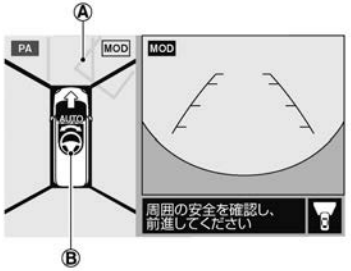
⑧戻る
- 駐車方法選択メニューに戻ります。





アドバイス

- パーキングアシストの作動中はⒶが表示されます。

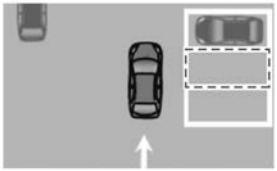
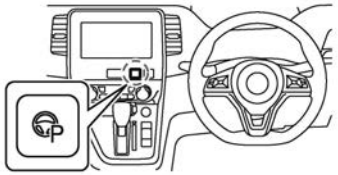
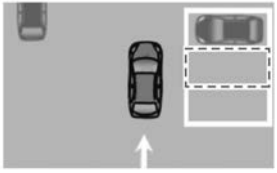


- パーキングアシスト作動中はⒷが表示されます。

次ページに続く

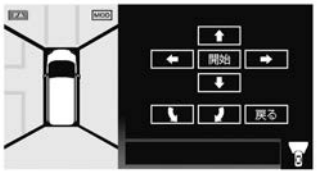
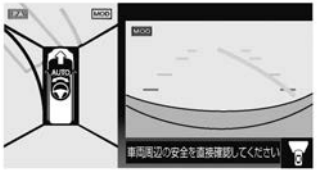
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パーキングアシストの使いかた

1	駐車したい場所の手前で停車します。	
2	スイッチを押します。 左画面がトップ映像を表示していないときは、再度スイッチを押してトップ映像を表示します。	
3	駐車方法を選び、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。 2回目以降は、前回使用した駐車方法が自動選択されます。	
4	ゆっくりと前進し、駐車したい場所の1mほど横に停車します。 駐車場や車庫での駐車入れは駐車場所に垂直に、縦列駐車は水平になるように車両を停めます。	

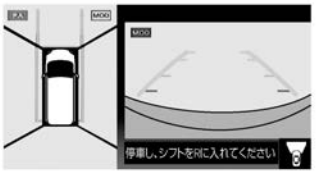
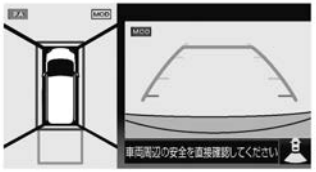
知識

- 駐車方法を選択したあとでも、方向指示器を使って駐車場所の方向を切り替えることができます。
- セレクトレバーが R 以外のときに、駐車方法選択メニューが表示されます。
- 斜め駐車には使用できません。

5	停車した状態で画面上の枠の位置を確認します。 周囲の安全を目視で確認しながらゆっくりと車両を移動させます。 再度車両を停車させて位置が合っていることを確認します。	
6	OK（開始）スイッチを押します。 以下の状態になっているときにシステムを作動できます。 ● 車両が完全に停止している （ブレーキを踏んでいる状態） ● ハンドルがまっすぐになっている ● セレクトレバーがDまたはLになっている	
7	ハンドルに軽く手を添え、ブレーキで速度を調整しながらゆっくり前進します。 切り返し目安枠（緑色）に向かって自動でハンドルが制御されます。 進行方向に車両や障害物がある場合、または車両が切り返し目安枠付近に到達したときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。	

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

8	緑枠へ到着したらセレクトレバーをRに入れて、ハンドルに軽く手を添えブレーキで速度を調整しながらゆっくり後退します。 （ハンドルは自動で制御されます。）	
9	駐車したい場所まで車両を移動し、ブレーキを踏んで停止後、セレクトレバーをPにする、または駐車目安枠（青色）付近に移動するとブザーが鳴り、パーキングアシストが自動で終了します。	

アドバイス

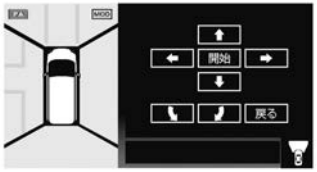
- ソナー機能をOFFにしていてもパーキングアシストが作動中のときは、ソナーがONになります。
- 速度が速すぎると警告音が鳴ります。
- 切り返しを繰り返すことで駐車目安枠（青色）付近に駐車します。
- 切り返し目安枠付近に到達するごとに、ブザーが鳴ります。

駐車位置を微調整する

1 駐車位置を設定するときに、駐車目安枠（青色）を微調整できます。駐車枠線が引いてある駐車場の場合は、画像を解析して自動で微調整します。



2
- 駐車枠線が引いていない駐車場や正しく調整ができなかったときに駐車位置を微調整することができます。
- ステアリングスイッチの ◀▶（ ）▲▼（ ） ⏮⏭（ ）を押して、調整します。
- 障害物が障害物目安線（赤色）の外側になるように、駐車目安枠（青色）位置を調整してください。（約70cmまで調整することができます。）



知識

- 手順通り操作して、車両が枠から外れてしまう場合は、周囲の状況を確認しながら自車の位置を微調整してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パーキングアシストの解除について

- 以下の場合にはパーキングアシストが解除されます。
  - ハンドル操作をしたとき
  - セレクトレバーがNの状態で、約5秒以上経過したとき
  - 切り返しを15回以上繰り返したとき
  - タイヤの摩耗や空気圧の低下、路面状態により、システムが車両の進路予測をできないと判断したとき
  - パーキングアシストの作動を開始した位置より、車両が後退したとき
  - 切り返し枠を約2m以上超えたとき
  - 車速が約7km/hを超えた場合（切り返しを繰り返したときは、車速が約5km/hを超えた場合）
  - スイッチを押したとき

パーキングアシストに関する注意事項★

⚠ 警告

- **画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **パーキングアシストによる補助が必要なくなったときは、 スイッチを押して機能を終了してください。パーキングアシストが作動状態のままだと自動でハンドルが操作され、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **パーキングアシストを使用する前に、車両周辺に駐車操作ができるスペースが十分あることを直接確認してください。**

⚠ 注意

- **以下の状況下では使用しないでください。**
  - 砂地や砂利地などの整備されていない路面
  - 雪や凍結などでスリップしやすい路面
  - 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平たんではない路面
  - 機械式駐車場
  - タイヤチェーン、応急用タイヤ装着時
  - けん引時
  - ドア（バックドアを含む）が閉まっていないとき

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- 以下の操作や状況により、進路予測が正しくできず、駐車車両などの障害物が障害物目安線の内側に入り込む、駐車場所がずれるなど、パーキングアシストが正常に機能しない場合があります。
  - 走行中にセレクトレバーを切り替えたとき
  - 急発進、急停止、急なセレクトレバー操作をしたとき
  - タイヤの空気圧が低いとき、極端に摩耗しているとき
  - 工場出荷時装着タイヤ以外のタイヤを装着しているとき
  - 積荷などで車両が傾いているとき

画面のエラー表示について

- パーキングアシストに異常があると、画面に警告メッセージが表示され、自動的に解除されます。
- パーキングアシスト使用中に警告が表示されたときは安全な場所に停止して、一度エンジンを切ってから再始動してください。
- 上記の操作を行っても警告が表示される、もしくはパーキングアシストが起動できないときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。

室内照明

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジルームランプ P.322

収納装備

ティッシュボックス収納 P.325
運転席ロアボックス P.326
グローブボックス P.327
運転席／助手席アッパーボックス P.328
ドリンクホルダー／ボトルホルダー P.329

その他の室内装備

アクセサリーソケット P.334
USB電源ソケット P.336
ロールサンシェード P.338
パーソナルテーブル★ P.339
ショッピングフック P.341
フロアマット P.342
サンバイザー／バニティミラー P.344
チケットホルダー P.345
ラゲッジアンダーボックス P.346
シートバックフック★ P.347
アシストグリップの使いかた P.349
ラゲッジフック P.350

マップランプ/ルームランプの使いかた

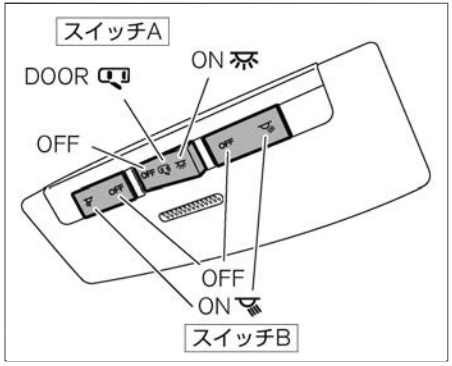
- マップランプは、フロントシート天井部の中央にあります。
- ルームランプは、セカンドシート天井部の中央にあります。
- 次のように点灯･消灯します。

スイッチA

スイッチ位置	点灯･消灯のしかた
ON	常時点灯
DOOR（中立）	スイッチが中立位置にあるときにドア（デュアルバックドアを除く）を開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	消灯

スイッチB

スイッチ位置	点灯･消灯のしかた
ON	常時点灯
OFF（水平）	スイッチAが中立のとき、ドア（デュアルバックドアを除く）を開けると点灯し、閉めると消灯します。



アドバイス

- エンジンが停止しているときは、長時間マップランプやルームランプを点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- ドアの施錠、解錠に連動して、スイッチAがDOOR位置にあると、次の条件で点灯します。
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
  - ドアが開いているとき
- マルチインフォメーションディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「自動室内灯」を選択すると、キー連動室内照明システム機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジルームランプ

知識

画面の切り替えかた (P.71)
車両設定 (P.88)

バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、マップランプおよびルームランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

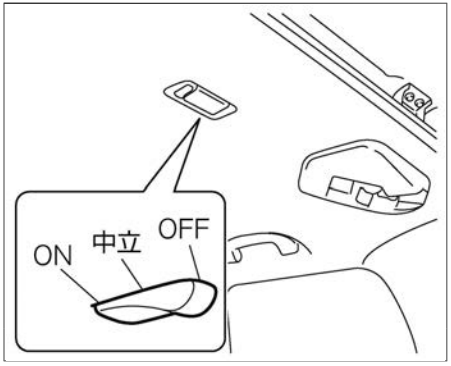
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ラゲッジルームランプの使いかた

● 次のように点灯･消灯します。

スイッチ位置	点灯･消灯のしかた
OFF	消灯
中立位置	デュアルバックドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。
ON	常時点灯



アドバイス

● エンジンが停止しているときは、長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

バッテリーセーバー

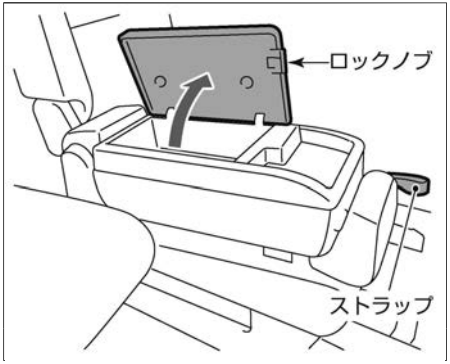
● バッテリーあがりを防止するため、ラゲッジルームランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

ティッシュボックス収納

- スマートマルチセンターシート部にあります。

① ストラップを引いてスマートマルチセンターシートの背もたれを前に倒します。
② ロックノブを引きながらふたを開けます。

※ふたを閉めるときは、ふたを上から押してロックさせます。

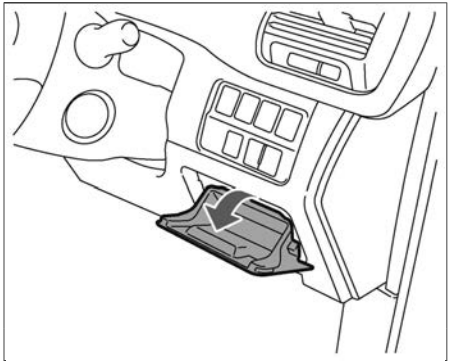


⚠ 注意

- **ふたを開けたまま走行しない。**
  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。
- **ふたを開けたままで手を掛けるなど、ふたに無理な力を掛けない。**
  破損して思わぬケガをするおそれがあります。

運転席ロアボックス

- ふたを引いて開けます。
- 閉めるときは、前方へ押してロックします。

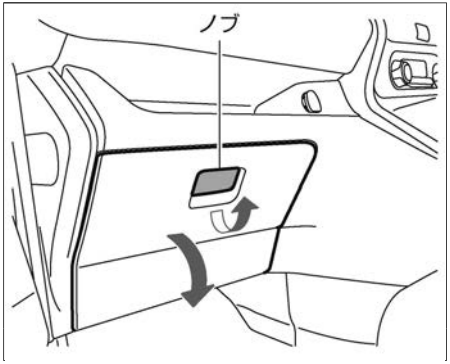


知識

- ふたを開けると、ETC車載器★があります。

グローブボックスの使いかた

- 開けるときは、ノブを手前に引きます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

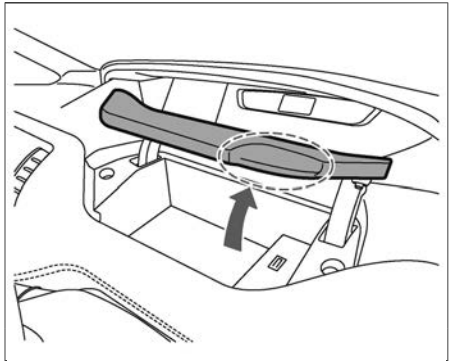


⚠ 注意

- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**
  走行中に収納したものが飛び出したり、開いたふたが身体に当たるなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**
  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

運転席アッパーボックス

- 切り欠き部を持ち上げます。
- 閉めるときは、押し戻します。
- ボックス内部にUSB電源ソケットがあります。
  USB電源ソケット (P.336)

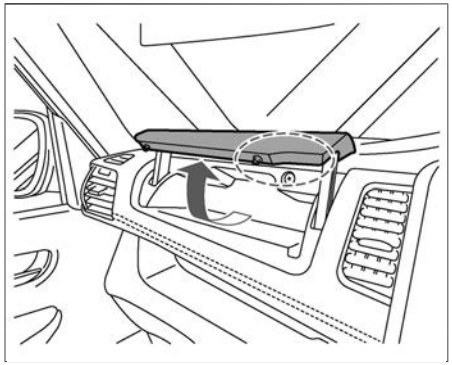


⚠ 注意

- **ふたを開けたまま走行しない。**
  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。

助手席アッパーボックス

- 切り欠き部を持ち上げます。
- 閉めるときは、押し戻します。

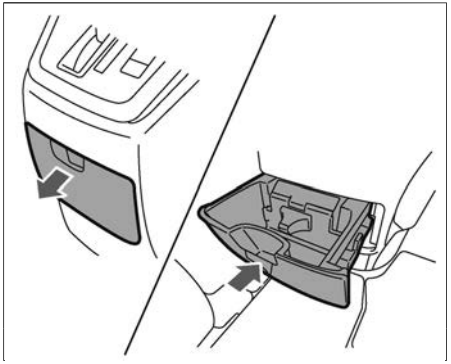


⚠ 注意

- **ふたを開けたまま走行しない。**
  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。

フロントシート用ドリンクホルダーについて

- 手前に引き出して使います。
- 格納するときは、押し戻します。



⚠ 注意

- **ショッピングフックに3kg以上の物を掛けない。**
  ドリンクホルダーが破損するおそれがあります。
  ➔ ショッピングフックの使いかた (P.341)

アドバイス

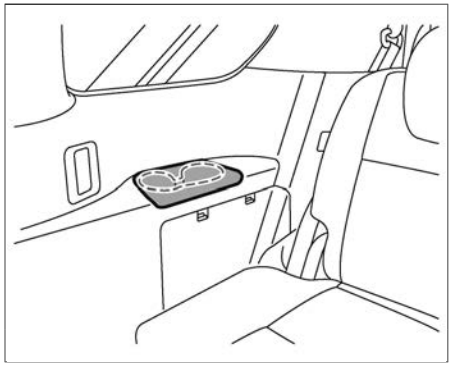
- 物を入れたまま格納しないでください。 入れた物やドリンクホルダーが破損します。
- フロントシートからセカンドシートに移動するときや、スマートマルチセンターシートをフロントシート側に移動させるときは、ドリンクホルダーを格納してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

サードシート用ドリンクホルダー

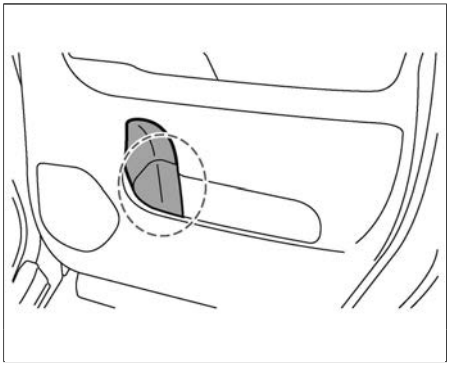
- サードシートの横にあります。



ボトルホルダー

■ フロントドアポケット（前席ドア）左右

- ペットボトルのふたを閉めてから収納してください。



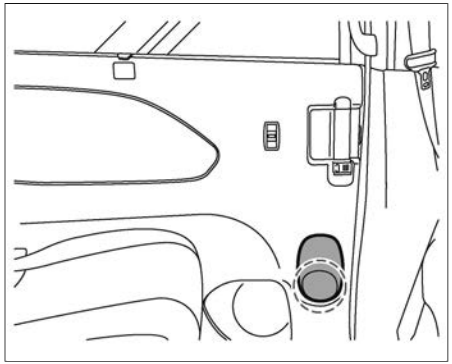
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ドリンクホルダー／ボトルホルダー

■ スライドドアポケット左右

- ペットボトルのふたを閉めてから収納してください。



ドリンクホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 注意

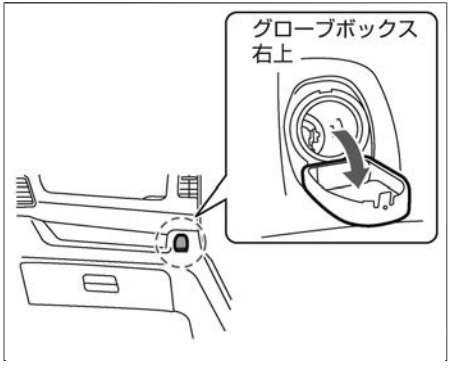
- **運転中に飲物を出し入れしない。**
  運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。
- **熱い飲物を置かない。**
  熱い飲物をドリンクホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- **いっぱいに満たされた容器を置かない。**
  飲物や液体がいっぱいに満たされた容器をドリンクホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れだしたりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。
- **飲物をこぼさないように注意する。**
  飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- **車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。**
  故障や火災のおそれがあります。

アクセサリーソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。電源ポジションがONまたはOFF（ACC状態）のとき使えます。
ACC状態については、オートACC機能（P.205）をお読みください。

アクセサリーソケットの使いかた

- アクセサリーソケットはグローブボックスの右上にあります。
- ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- 相手プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、電源ポジションをOFFにしてください。



⚠ 注意

- **アクセサリーソケットを使うときは、次のことを守る。**
  アクセサリーソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。
  - 2マタソケットなどでタコ足配線をしない
  - 消費電力120W以下のものを使用する
  - 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入する
  - 使用中や使用後はソケットやプラグに注意する
  - シガーライターをソケットに差し込まない
  - ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない

アドバイス

- バッテリーあがりを防止するため、エンジンをかけた状態で使用してください。また、長時間使用したり、

アクセサリーソケット

アドバイス

エアコン、ヘッドライト、リヤウインドーデフォッガーなどを同時に使用しないでください。

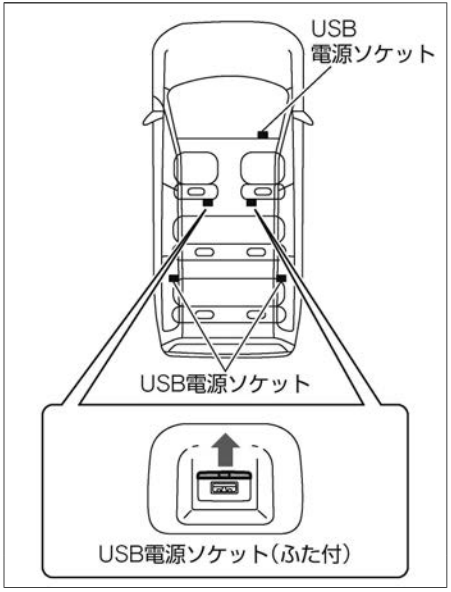
USB電源ソケット

USB電源ソケットはモバイル機器などの充電専用です。電源ポジションがONまたはOFF（ACC状態）のとき使えます。 ACC状態については、オートACC機能（P.205）をお読みください。

USB電源ソケットの使いかた

モバイル機器を充電するのに便利なUSB電源ソケットが用意されています。

- USB電源ソケットは以下の場所（5か所）にあります。
  - 運転席アッパーボックス内
  - 運転席シートと助手席シートの背もたれの裏側★
  - サードシート左右のドリンクホルダーの横★
- 運転席シートと助手席シート背もたれの裏側にあるUSB電源ソケット★は、ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は1か所につき、5V（ボルト）、1A（アンペア）、5W（ワット）です。



⚠ 警告

- **SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。**
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。**
  運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **USB電源ソケットを使用するときは、次のことを守る。**
  USB電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
  - 複数のUSB電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない

USB電源ソケット

⚠ 注意

- 消費電力5W以下のものを使用する
- ケーブルはしっかり奥まで挿入する
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない
- ソケットの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

⚠ 注意

- **両面挿し（リバーシブル）対応のUSBケーブルは、USB電源ソケットの内部端子を破損するおそれがあるので使用しない。**



リバーシブルタイプUSBコネクター
（接点基板が中央にある）

アドバイス

- バッテリーあがりを防止するため、エンジンをかけた状態で使用してください。
- サードシート左右のUSB電源ソケット★使用時は、ラジオ･テレビにノイズ（雑音）が入ることがあります。

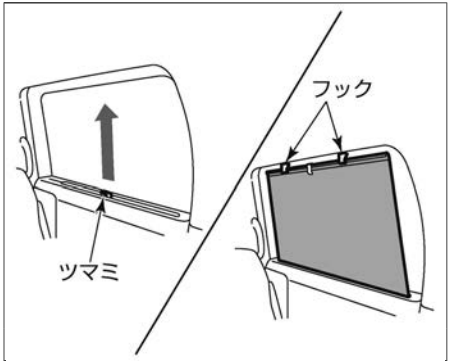
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ロールサンシェード

セカンドシートの左右にあります。

ロールサンシェードの使いかた

- ツマミを持って上方向に引き出し、フックに引っ掛けます。
- 格納するときは、フックから外して元の位置に格納します。



アドバイス

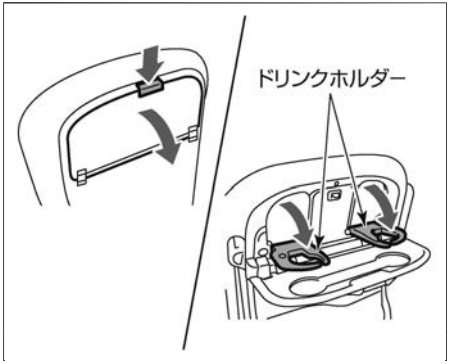
- ロールサンシェードを上方向以外に引っ張らないでください。破損の原因になります。
- ロールサンシェードを格納するときは、傾けた状態で格納しないでください。しわになる場合があります。

パーソナルテーブル★

フロントシート、セカンドシート左右の背もたれの裏側に折りたたみ式テーブルがあります。

パーソナルテーブル（セカンドシート用）の使いかた

- 中央のボタンを押し、テーブルを手前に開きます。
- ドリンクホルダーは手前に倒して使用します。
- 格納するときはドリンクホルダーを元の位置に戻し、テーブルを押し上げてロックするまで押しつけます。



⚠ 注意

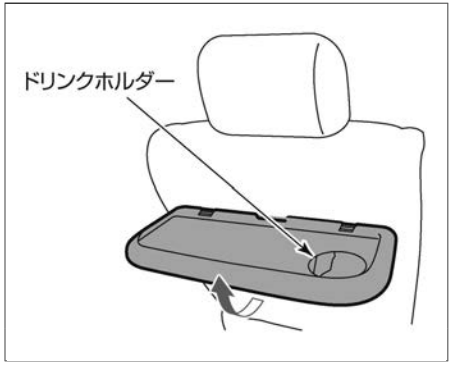
- **走行中はテーブルを格納し、使用しない。**
- **テーブルを使うときは、確実に固定されていることを確認する。**
- **テーブルに3kg以上の物を載せない。**
  破損したり、物が落ちたりして思わぬケガをするおそれがあります。また、ドリンクホルダー部に熱い飲物を置いているときは、こぼれてやけどをするおそれがあります。
- **テーブル、ドリンクホルダーの使用位置から下向きに必要以上の負荷をかけない。**
  テーブル、ドリンクホルダーが破損するおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パーソナルテーブル（サードシート用）の使いかた★

- 手前に引き上げて使います。
- 格納するときは、テーブル先端の中央部を持ち、押し下げます。



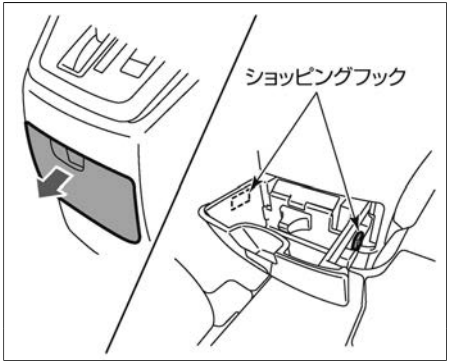
⚠ 注意

- **走行中はテーブルを格納し、使用しない。**
- **テーブルを使うときは、確実に固定されていることを確認する。**
- **テーブルに3kg以上の物を載せない。**
  破損したり、テーブルが格納してしまい、物が落ちたりして思わぬケガをするおそれがあります。また、ドリンクホルダー部に熱い飲物を置いているときは、こぼれてやけどをするおそれがあります。

ショッピングフックの使いかた

■ ショッピングフック

- フロントシート用ドリンクホルダーを引き出して使用します。



⚠ 注意

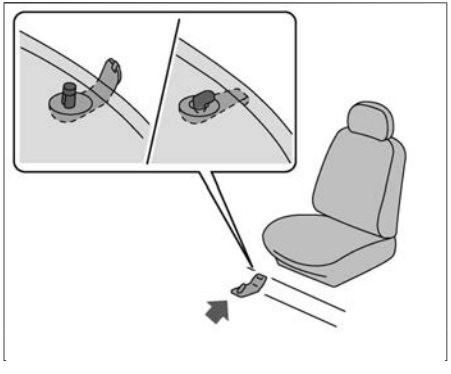
- **ショッピングフックに3kg以上の物を掛けない。**
  フックが破損するおそれがあります。

フロアマット

この車（年式）専用のフロアマットが設定されています。
床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

- 床面にはスズキ純正フロアマット用の固定クリップが付いています。
- フロアマットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ·ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。



⚠ 警告

- **この車（年式）専用のフロアマットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**
  フロアマットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬ速度が出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **運転席にフロアマットを敷くときは、次のことを守る。**
  - スズキ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない。
  - フロアマットでペダルを覆わない。
  - フロアマットを重ねて敷かない。
  - 運転席専用のフロアマットを使用する。
  - フロアマットを前後さかさまにしたり、裏返して使用しない。
- **運転する前にフロアマットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**
- **運転に支障がないことを確認する。**
  運転する前、電源ポジションがOFFの状

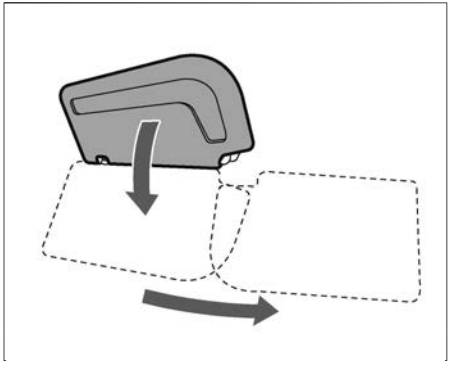
⚠ 警告

態でセレクトレバーがPのとき、各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

- **タバコの火種をフロアマットなどに落とさない。**
  火災につながるおそれがあります。

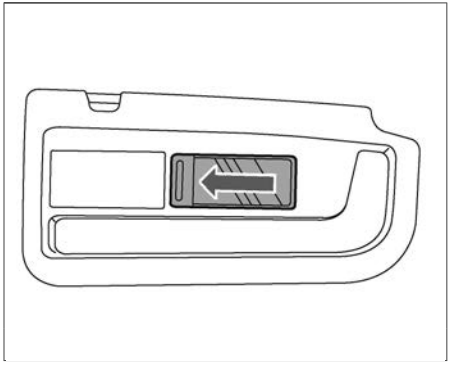
サンバイザーの使いかた

- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。



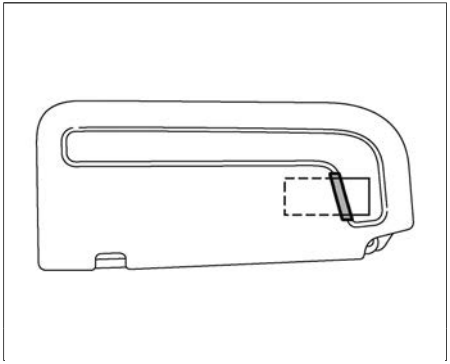
バニティミラーの使いかた

- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げ、カバーを横にスライドさせて使います。



チケットホルダーの使いかた

- 挟みこんで使います。
- パーキングチケットなど約1mm以下のカードを3枚程度入れることができます。



アドバイス

- 厚さ1mm以上のカードを無理に入れないでください。カードが変形、破損またはサンバイザーに傷がつくおそれがあります。

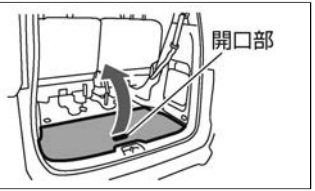
ラゲッジアンダーボックス

収納スペースとしてお使いください。

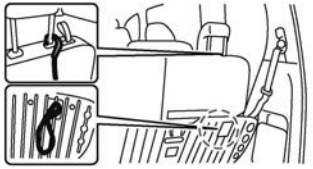
ラゲッジアンダーボックスの使いかた

1 バックドアを開けます。
バックドアの開けかた (P.138)

2 開口部に手を入れて、ラゲッジボードを持ち上げます。



3 ラゲッジボード裏側にあるフックをサードシートのヘッドレストステーに引っ掛け、ラゲッジボードを固定します。



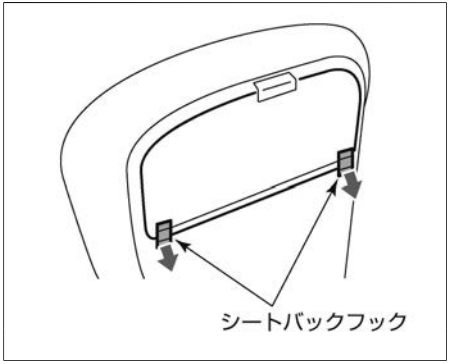
知識

- ラゲッジボードを開いたままサードシートを移動させたり、走行したりしないでください。荷物やラゲッジボードを損傷させるおそれがあります。
- サードシートの位置によっては、ラゲッジボード裏側にあるフックがサードシートのヘッドレストステーに引っ掛けにくいときがあります。

シートバックフックの使いかた

■ セカンドシート用

- フロントシート左右背もたれの裏側に2箇所ずつあります。
- 買い物袋などを引っ掛けるときに使います。
- フックを手前に倒して使います。



アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

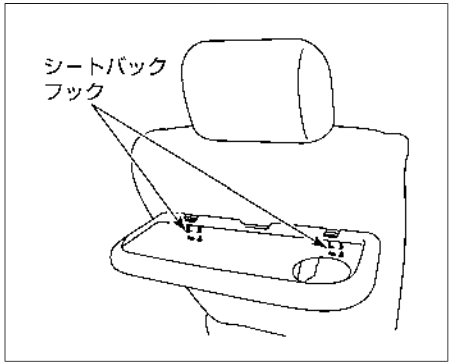
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

シートバックフック★

■ サードシート用★

- セカンドシート左右背もたれの裏側に2箇所ずつあります。
- 買い物袋などを引っ掛けるときに使います。
- パーソナルテーブル（サードシート用）使用時に使うことができます。

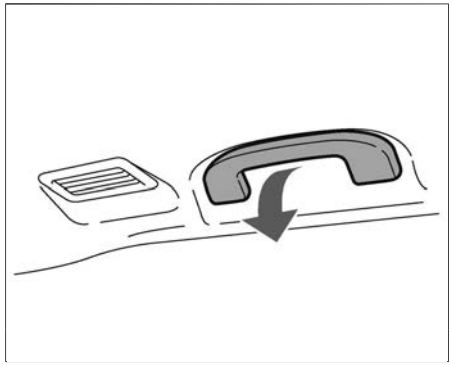


アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

アシストグリップの使いかた

- アシストグリップは、助手席およびセカンドシート左右、サードシート左右にあります。



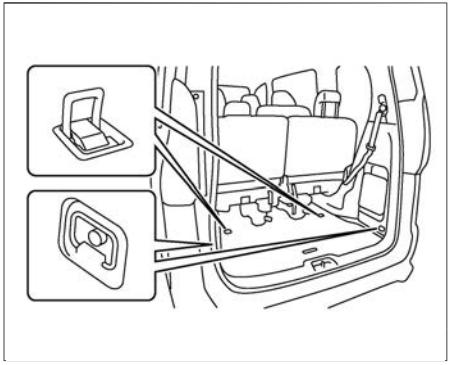
ラゲッジフック

荷物の固定用としてロープなどをかけるときに使います。

ラゲッジフックの使いかた

■ ラゲッジフロア（4箇所）

- ラゲッジフロアの左右に2箇所ずつあります。
- 使わないときは、格納しておきます。

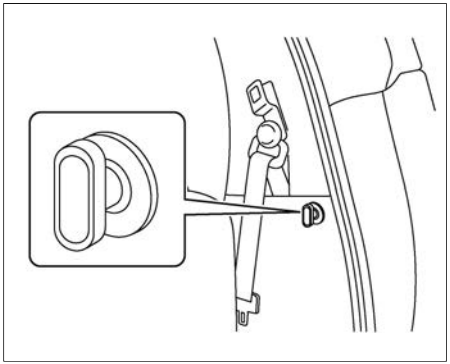


アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。破損するおそれがあります。
- 30kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

■ ラゲッジルームピラー部（2箇所）

- ラゲッジルームの左右に1箇所ずつあります。



アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

MEMO

まずはじめに

故障したときは	P.354
発炎筒	P.355
けん引について	P.356

緊急時の対処方法

パンクしたときは	P.360
ドアが開かないときは	P.369
キーレスプッシュスタートシステムで始動できないときは	P.371
バッテリーがあがったときは	P.372
警告灯がついたときは	P.380
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.385
窓ガラスがくもったときは	P.387
オーバーヒートしたときは	P.389
セレクトレバーが動かないときは	P.391
雪道やぬかるみにはまったときは	P.392

故障したときは

高速道路や自動車専用道路で車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

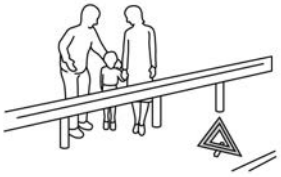
1 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。



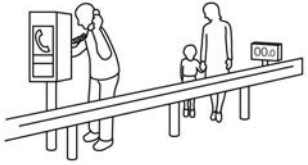
2 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（別売り）または停止表示灯（市販品）を置きます。
発炎筒 (P.355)



3 運転者もガードレールの外側などに避難します。
避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。



4 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。



⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

⚠ 注意

- **エンジンが停止しているときは慎重に運転する。**
  故障によりエンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなるので慎重に運転してください。

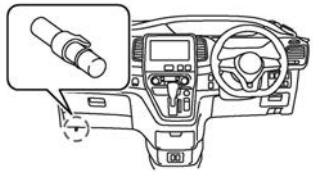
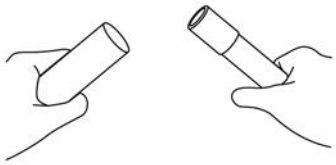
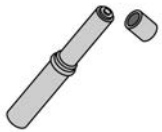
アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（別売り）または停止表示灯（市販品）の表示が法律で義務づけられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障･事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

発炎筒の使いかた

1	助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。	
2	本体をひねりながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。	
3	先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。	

⚠ 警告

- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **トンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

アドバイス

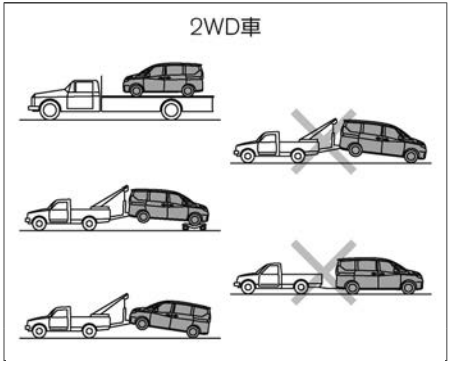
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前にスズキ販売店またはスズキ代理店でお買い求めください。

けん引について

けん引が必要なときは、スズキ販売店、スズキ代理店またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。
やむをえずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

けん引時の注意事項

- 車両が動かなかったり、異常な音がするときは、けん引せずにスズキ販売店またはスズキ代理店へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、4WD車は4輪を持ち上げてください。
- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、セレクトレバーを N に入れて行ってください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスミッションが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

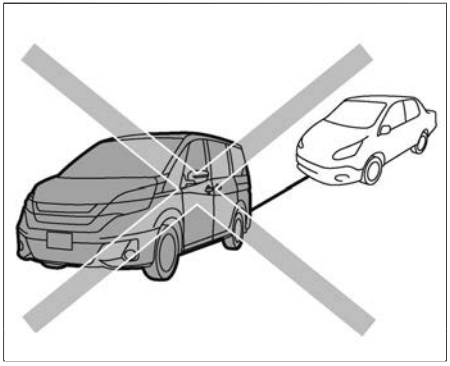


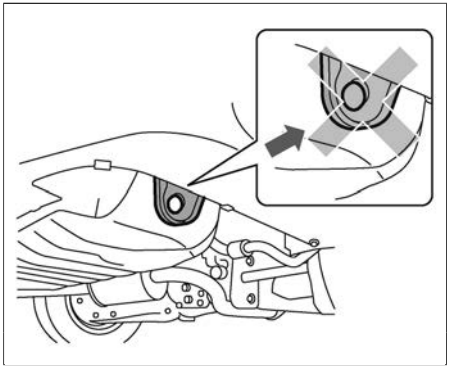
⚠ 注意

- **2WD車の前輪を持ち上げてけん引するときは、電源ポジションをONにしない。**
  VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。

他車のけん引について

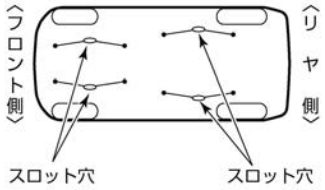
この車両で他車をけん引することはできません。後ろ側についているフックは船舶輸送時の固定専用です。
けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。





アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。
- トレーラーなどで輸送するときは、車両下側のスロット穴を使い固定してください。



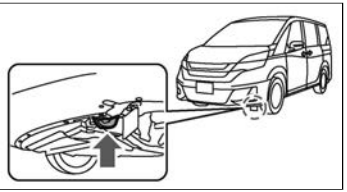
- 船舶輸送時は、フロントのけん引フックとリヤのタイダウンフックを使い固定してください。

次ページに続く

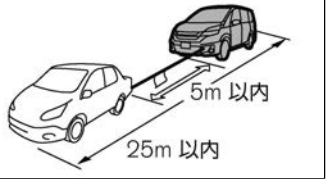
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

やむをえず4輪接地でけん引されるときは

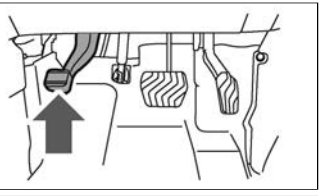
1 自車および他車のけん引フックにロープを掛けます。



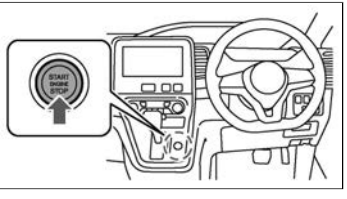
2 ロープ中央に30cm x 30cm 以上の白い布を取り付けます。
ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。



3 エンジンを始動しセレクトレバーを N に入れ、パーキングブレーキを解除します。



4 エンジンを始動できないときは電源ポジションをONにし、セレクトレバーを N に入れてください。



⚠ 警告

- **4輪接地でけん引されるときは、電源ポジションをOFFにしない。**
  電源ポジションがOFFでバッテリーがあがると、ステアリングロックの解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車のバッテリーとつなぎ、電源ポジションをONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中は電源ポジションをOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

- **エンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなるので注意する。**
- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**
  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**
  ブレーキが過熱して効かなくなり、事

⚠ 注意

故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。

- **4WD車はトレーラーに車載するか、4輪接地の状態でけん引してもらう。**
  2輪を上げた状態でけん引すると、上げた車輪が回転して、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両にはスペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。
タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- セレクトレバーを**P**にする。
- 電源ポジションをOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。

アドバイス

- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜かずにそのまま修理してください。

知識

- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。スズキ販売店、スズキ代理店またはJAFなどに連絡してください。
  - 約4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - タイヤサイド部が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールから外れているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき
  - 修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤ応急修理キット

- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、サードシート運転席側のドリンクホルダー下部に格納されています。
  工具の格納場所 (P.395)
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかにスズキサービス工場または専門の修理業者で点検、恒久修理または タイヤ交換を行ってください。

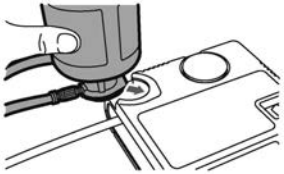


次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

応急修理のしかた

■ コンプレッサーの準備

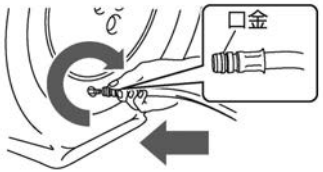
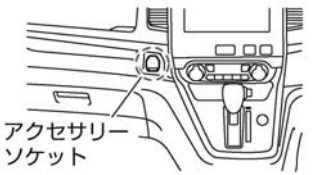
1	コンプレッサーからタイヤ空気圧排気キャップ、ホース、電源プラグを取り出します。（電源プラグはコンプレッサーの裏側に収納されています。）	
2	コンプレッサーからのホースの口金を修理剤ボトルにしっかりとねじ込みます。	
3	コンプレッサーにボトルを固定します。	

4	修理剤ボトルの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。	

⚠ 注意

- **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

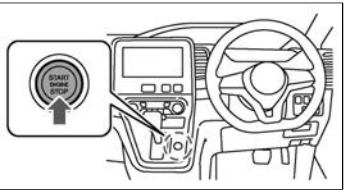
■ エアの注入

1	パンクしたタイヤのバルブからキャップを外し、ボトルからのホースの口金をパンクしたタイヤのバルブにしっかりとねじ込みます。	
2	コンプレッサーのスイッチがOFF （「○」の位置）であることを確認し、電源プラグを車室内のアクセサリーソケットに差し込みます。	

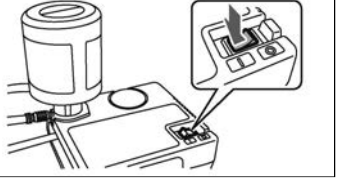
次ページに続く

パンクしたときは

3 電源ポジションをONにします。



4 コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にし、タイヤを指定空気圧まで昇圧させます。 この際、実際の空気圧が測れるようにコンプレッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。



5 指定空気圧まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、電源プラグをアクセサリーソケットから抜きます。

6 ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

⚠ 注意

- **ホースとタイヤのバルブの接続をしっかり行う。**
  接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛びちるおそれがあります。
- **破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。**
- **タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。**
  タイヤのバルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。
- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**

アドバイス

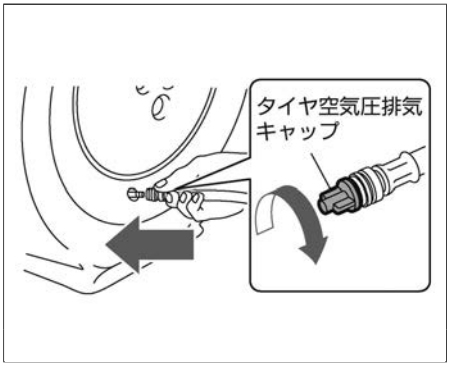
- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、15分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。スズキ販売店、スズキ代理店またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき

ホースをタイヤのバルブから外します。ホース先端にタイヤ空気圧排気キャップをねじ込み、タイヤ空気圧排気キャップの突起部をタイヤバルブに押しあてて、空気を抜いてください。



次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 点検走行

1 ただちに走行を始め、3km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。

2 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認します。コンプレッサーからのホースを修理剤ボトルから取り外し、タイヤのバルブに取り付けて空気圧計で測定してください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止してスズキ販売店、スズキ代理店またはJAFなどのロードサー ビスに連絡してください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止してスズキ販売店、スズキ代理店またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

JAFの営業所一覧…スズキ4輪車サービスネットワーク「JAFロードサービス」をお読みください。

⚠ 注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかにスズキ販売店、スズキ代理店または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、スズキサービス工場または修理業者で点検を受けてください。

知識

- 修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。修理･再使用される場合は、専門の修理業者と相談してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

タイヤ応急修理キット

⚠ 注意

タイヤ応急修理キット

- **タイヤ応急修理キットは、必ずスズキ純正品を使用する。**
- **タイヤ応急修理キットは、搭載車両専用のため、他の車には使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充填や空気圧チェック以外で使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はできません。**
- **水やほこりを避けて使用する。**
- **分解、改造などは絶対にしない。**
- **コンプレッサーに衝撃を与えない。**
  故障の原因となります。
- **お子さまが誤って手を触れないように注意する。**

修理剤について

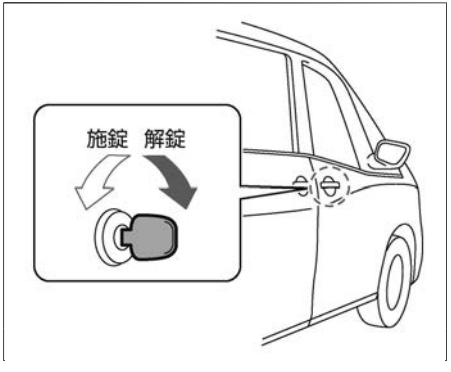
- **修理剤を口に入れない。**
  修理剤を飲みこむと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- **万一目や皮膚に付着した場合は、 水でよく洗い流す。**
  それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

ドアが開かないときは

携帯リモコンの電池が切れたときや、バッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠･解錠してください。

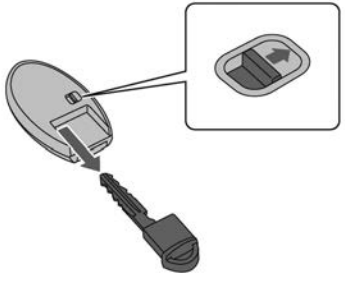
エマージェンシーキーでのドアの開けかた

運転席ドアにある鍵穴にエマージェンシーキーを差し込んで車両前方にエマージェンシーキーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方にエマージェンシーキーを回します。



知識

- エマージェンシーキーは携帯リモコンに内蔵されています。



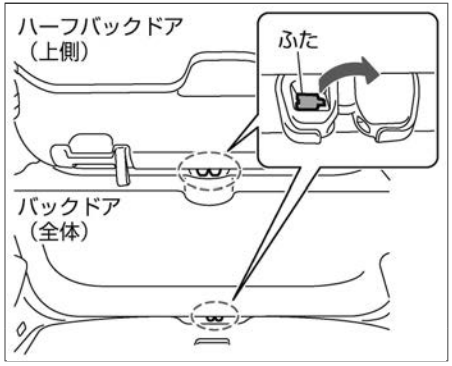
次ページに続く

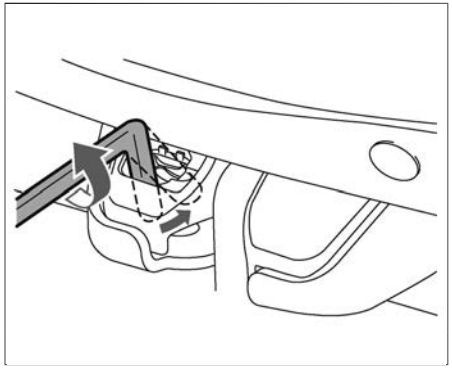
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

緊急時のバックドアの開けかた

バッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

- バックドア（全体）、ハーフバックドア（上側）の車室内側にあるロック機構のふたを開けます。
- お手持ちの六角レンチを穴に差し込みレバーを矢印の方向に動かして解錠し、バックドアを持ち上げます。





アドバイス

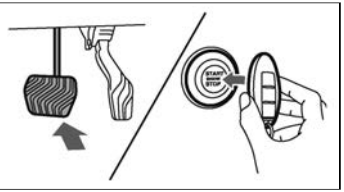
- バックドアオープナースイッチなどに故障を与えるおそれがあるため、操作をしたときはスズキサービス工場で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早くスズキサービス工場で点検を受けてください。

キーレスプッシュスタートシステムで始動できないときは

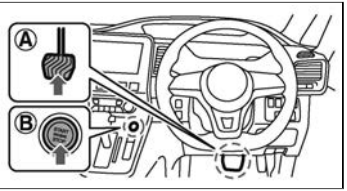
携帯リモコンの電池が切れたときや、使用環境により携帯リモコンと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でエンジンを始動してください。

エンジンの始動のしかた

1 ブレーキペダルを踏み、携帯リモコンのロゴマークの裏面をエンジンスイッチに接触させます。
（ブザーが“ピピッ”と鳴ります。）



2 ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチⒷを押します。



アドバイス

- 左記の手順でエンジンを始動できない場合は、早めにスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

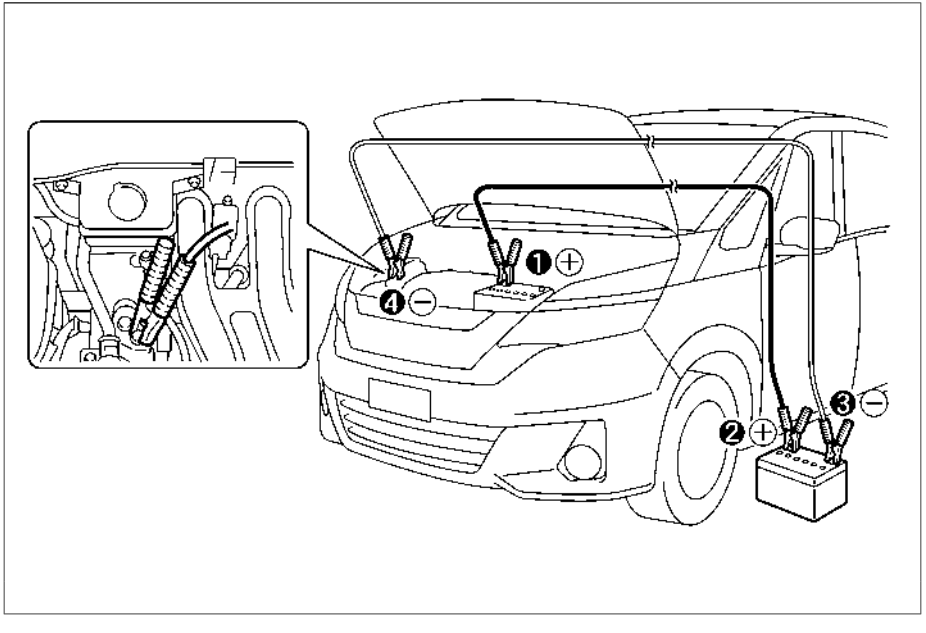
知識

- 停止操作は通常と同じ手順です。
- ドアの施錠･解錠は、エマージェンシーキー（➔P.369）をご使用ください。
- 携帯リモコンの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
  ➔ キー（携帯リモコン）の電池交換 (P.433)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがり、エンジンの始動ができなくなったときは、救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。
S-HYBRID付車には2種類のバッテリーが搭載されています。エンジンルーム内の配置図 (P.402)



⚠ 警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**
  火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、

バッテリーがあがったときは

⚠ 警告

バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アドバイス

S-HYBRID付車

- S-HYBRID専用にバッテリー（メイン）とバッテリー（サブ）の2つのバッテリーを使用しています。どちらかのバッテリーがあがるとエンジンが始動できません。バッテリーがあがったときは、バッテリー（メイン）から処置をしてください。
- ブースターケーブルをつなぐときは、必ず12V（ボルト）バッテリー仕様の救援車を依頼してください。12V（ボルト）以上のバッテリーにブースターケーブルをつないだ場合、つなぎ方を間違えると車両が破損するおそれがあります。

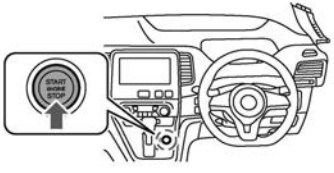
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

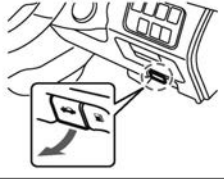
バッテリーがあがったときは

ジャンプスタートのしかた

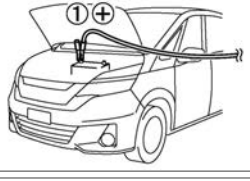
1 自車と救援車の電源ポジションをOFFにします。
電源ポジションの切り替えかた (P.203)



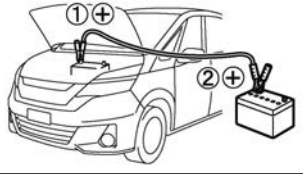
2 運転席の右下にあるボンネットオープナーを引いて、ボンネットを開けます。
ボンネットの開けかた、閉めかた (P.403)



3 ブースターケーブル①を自車のバッテリーの⊕端子に接続します。
※S-HYBRID付車はバッテリー（メイン）に接続します。



4 手順3で接続したケーブルの反対側②を救援車のバッテリーの⊕端子に接続します。

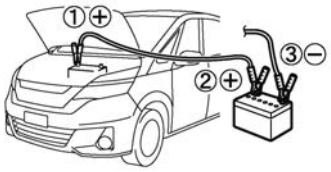


⚠ 注意

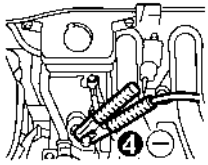
- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**
  エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

バッテリーがあがったときは

5 もう1本のブースターケーブル③を救援車のバッテリーの⊖端子に接続します。



6 手順5で接続したケーブルの反対側④を右記のような自車の車体（手順3で接続した位置から離れた未塗装の金属部）に接続します。



7 救援車のエンジンを始動し、エンジン回転数を少し高めにします。

8 自車のエンジンを始動します。
エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

エンジン始動のしかた (P.200)

アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- バッテリーがあがるとステアリングロックの解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかにバッテリーを充電してください。
- エンジンをかけるときは、ヘッドライトやエアコンなどはOFFにしてください。
- エンジンが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★を使用しないでください。
- S-HYBRID付車は、充放電能力と寿命性能を強化したS-HYBRID付車専用のバッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップ機能、エンジンアシスト機能が正常に作動しなくなる原因となります。

アドバイス

- エンジンが始動できない場合には、一旦電源ポジションをOFFにして、10秒以上待ってから再始動してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

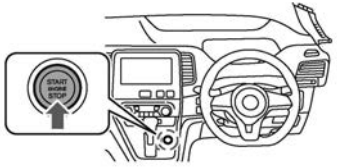
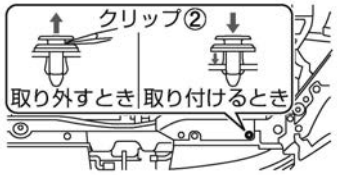
バッテリーがあがったときは

アドバイス

S-HYBRID付車

- エンジンが始動できない場合は、バッテリー（サブ）あがりが考えられます。バッテリー（サブ）にブースターケーブルをつなぎエンジンを始動してください。

バッテリー（サブ）（S-HYBRID付車）

1	自車と救援車の電源ポジションをOFFにします。 電源ポジションの切り替えかた (P.203)	
2	運転席の右下にあるボンネットオープナーを引いて、ボンネットを開けます。 ボンネットの開けかた、閉めかた (P.403)	
3	エアダクトのクリップ①を外します。 中央部を先の細い工具などで押し込み、ロックを解除してからクリップを引き抜きます。 エアダクトの外しかた (P.405)	
4	エアダクトのクリップ②を外します。 切り欠きにお手持ちの工具（マイナスドライバーなど）を差し込み、ロックを解除してから抜きます。	

⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**
  エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

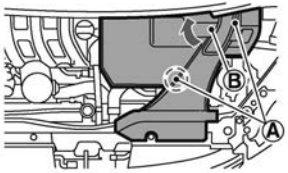
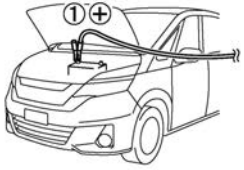
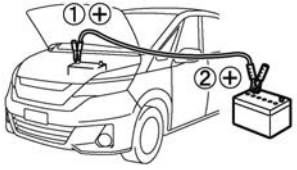
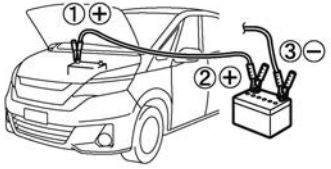
アドバイス

- 左記の手順でエンジンが始動できない場合は、バッテリー（メイン）とバッテリー（サブ）両方のバッテリーあがりが考えられます。スズキ販売店、スズキ代理店またはJAFなどに連絡してください。

次ページに続く

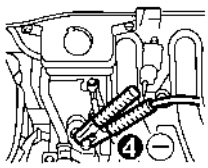
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

バッテリーがあがったときは

5	エアダクトのⒶ部を持ち上げてからⒷ部を矢印方向に回しながらエアダクトを引き抜きます。	
6	ブースターケーブル①を自車のバッテリーの⊕端子に接続します。	
7	手順6で接続したケーブルの反対側②を救援車のバッテリーの⊕端子に接続します。	
8	もう1本のブースターケーブル③を救援車のバッテリーの⊖端子に接続します。	

バッテリーがあがったときは

9 手順8で接続したケーブルの反対側④を右記のような自車の車体（手順6で接続した位置から離れた未塗装の金属部）に接続します。



10 ブースターケーブルをつないだあとは、バッテリー（メイン）があがったときの処置のしかたと同じです。

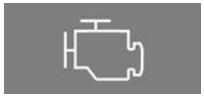
アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- エンジンが始動できない場合には、一旦電源ポジションをOFFにして、10秒以上待ってから再始動してください。
- バッテリーがあがるとステアリングロックの解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかにバッテリーを充電してください。
- エンジンをかけるときは、ヘッドライトやエアコンなどはOFFにしてください。
- エンジンが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★を使用しないでください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯がついたときは

運転中に警告灯･表示灯が点灯または点滅したときは、次の対処方法に従ってください。
車両故障のおそれがない表示灯の説明は、（P.68）をお読みください。

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	油圧警告灯	● エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。	● 点灯したときは、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。
	故障警告灯（MIL）	● エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。
	充電警告灯	● バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 **点灯したまま走行すると、バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
	ABS警告灯	● ABSのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。 **点灯したときは、ABSが作動しなくなるため、高速走行や急ブレーキを避けて運転してください。**

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	ブレーキ警告灯	● 次の場合は点灯し続けます。 – パーキングブレーキをかけているとき – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 **ブレーキの効きが極度に悪いときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、走行しないでください。** ● ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。
	SRSエアバッグ警告灯	● SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	● すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。 **万一のときSRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
	シートベルト警告灯	● 運転席および助手席の乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。	● シートベルトを着用してください。 **走行中は全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	VDC警告灯	● VDCが作動すると点滅します。 ● VDC、ヒルホールドコントロールの電子制御システムに異常があると点灯します。	● すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。 **点灯したときはVDC、ヒルホールドコントロールの作動が停止するため、滑りやすい路面では注意して走行してください。**

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯	● 次の場合は点灯します。 – エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしているとき – VDCをOFFにしているとき – エマージェンシーブレーキまたは踏み間違い衝突防止アシストのシステムに異常が発生しているとき ●次の場合は点滅します。 – 踏み間違い衝突防止アシストが作動したとき ●次の場合はゆっくり点滅します。 – フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき – 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき – 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき – フロントガラスの結露や曇りなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき	● エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ➔ VDCの停止のしかた (P.249) ● エンジン再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、スズキサービス工場で点検を受けてください。 ● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● フロントガラスに結露や曇りなどがある場合は結露や曇りを除去し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● 室内の温度が高いときなどは、温度が下がると自動的に作動を復帰します。 各システムについては、エマージェンシーブレーキ(➔P.255)および踏み間違い衝突防止アシスト(➔P.264)をお読みください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	パワーステアリング警告灯	● パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。 ● **点灯しているときは、パワーステアリングが作動しなくなるため、ハンドルの操作力が重くなります。**
	マスターウォーニング	● マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 警告 (P.76)

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ…	ドアハンドルのスイッチを押したとき	電源ポジションはOFFになっているか 携帯リモコンを車室内またはラゲッジルーム内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのスイッチを押していないか
		携帯リモコンのドア施錠スイッチを押したとき	いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONのまま、携帯リモコンが車外に持ち出されていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
	ピー	ドアを閉めたとき	セレクトレバーがP以外のまま、携帯リモコンが車外に持ち出されていないか。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ブザー（警報音）が鳴ったときは

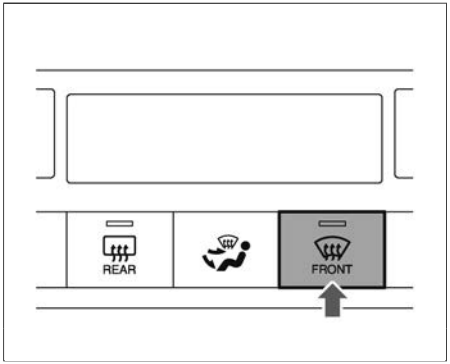
どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ピピピピッ、 ピピピピッ…	電源ポジションをOFFにしたとき	ドアを開けた状態で、電源ポジションをONからOFFにしていないか
	ピピッピピッピピッ	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONのまま、携帯リモコンが車外に持ち出されていないか
		エンジンスイッチを押したとき	携帯リモコンを携帯しているか 携帯リモコンを携帯してもブザーが鳴るときは、携帯リモコンの電池を交換してください
	ピピッピピッ…	電源ポジションをOFFにしたとき	セレクトレバーをPに入れているか

窓ガラスがくもったときは

電源ポジションがONのとき使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

- デフロスタースイッチを押すとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。（スイッチの表示灯が点灯）
- もう一度スイッチを押すと止まります。（スイッチの表示灯が消灯）



⚠ 注意

- **デフロスタースイッチをONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- デフロスタースイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

知識

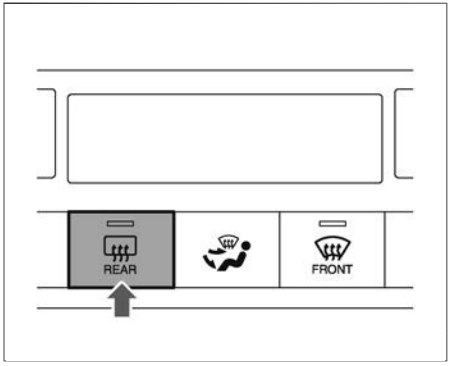
- エアコンがOFFのとき、デフロスタースイッチを押すとエアコンも自動的に作動します。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

リヤガラスのくもりの取りかた

- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。
  （リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
  （リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が消灯）



アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因になります。

知識

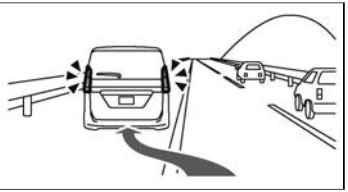
- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

オーバーヒートしたときは

マルチインフォメーションディスプレイにオーバーヒート警告（➔P.79）が表示されたときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

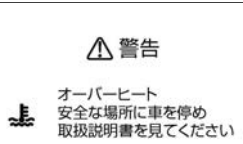
1 ただちに安全な場所に停車します。
➔ 故障したときの対処のしかた (P.354)



2 エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにエンジンを止め、自然冷却してください。



3 マルチインフォメーションディスプレイのオーバーヒート警告が消えたら、エンジンを止めしばらく待ちます。
エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。



4 冷却水が不足しているときは、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。
➔ エンジンルーム内の配置図 (P.402)
補充後は、しっかりキャップを閉めてください。



⚠ 警告

- **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**
  エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**
  やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  エンジンを止め、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。
- **エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さない。**
  蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

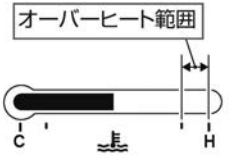
⚠ 注意

- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。**
  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

オーバーヒートしたときは

5	走行中、再度水温計がオーバーヒートの範囲を示したときは、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。	
6	早めにスズキサービス工場で点検を受けてください。	

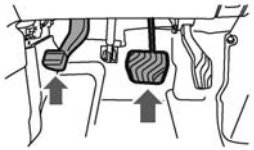
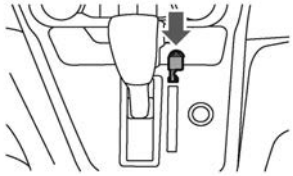
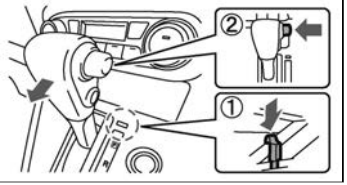
アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、できるだけ早くエンジンクーラントを交換してください。

セレクトレバーが動かないときは

万一バッテリーあがりなどでセレクトレバーを P から動かせないときは、次の方法で動かすことができます。

セレクトレバーの動かしかた

1	安全のためパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。	
2	エマージェンシーキーまたは、お手持ちのマイナスドライバーなどでボタンを押し込みます。	
3	エマージェンシーキーまたはお手持ちのマイナスドライバーなどを押し込んだまま①、ボタンを押して②セレクトレバーを動かします。	

アドバイス

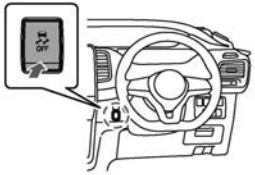
- セレクトレバーを P から動かせないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

雪道やぬかるみにはまったときは

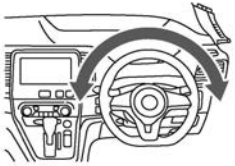
雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

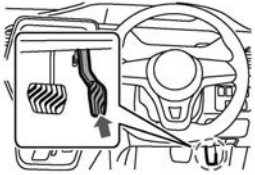
1 VDC OFF スイッチを押して、VDC をOFF にします。
VDCの停止のしかた (P.249)



2 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。



3 ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。



⚠ 警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**
  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品の異常加熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、スズキ販売店、スズキ代理店またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

メンテナンスの前に

点検整備･工具について P.394

点検と整備

エンジンルーム P.402
ウォッシャー液の補給 P.407
寒冷時の取り扱い P.408
タイヤ P.411
冬用タイヤ･タイヤチェーン P.416
ワイパー P.417
ヒューズ P.419
電球（バルブ）交換 P.424
キー（携帯リモコン）の電池交換 P.433
バッテリー P.434
エンジンオイル P.436

清掃･お手入れ

外装のお手入れ P.437
内装のお手入れ P.445

サービスデータ

点検値／交換油脂類 P.449
車両仕様 P.452
イベントデータレコーダ（EDR） P.454

点検整備･工具について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
  いつもと違うことに気がついたらスズキサービス工場で点検を受けてください。（音、振動、におい、水もれ、油もれなど）
- **定期点検**
  1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- **その他の点検**
  新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

知識

- 点検･整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ 検査標章（ステッカー）の貼り付け位置について

- フロントガラスにあるマルチセンシングフロントカメラを避け、車室内から貼り付けます。車外から見やすい位置に貼り付けてください。

工具の格納場所

- 工具、ジャッキ★は、ラゲッジルームに格納されています。
  ジャッキの取り出しかた★ (P.396)
- タイヤ応急修理キットは、サードシート運転席側のドリンクホルダー下部に格納されています。
  タイヤ応急修理キット (P.361)



⚠ 注意

- **工具、ジャッキ★、タイヤ応急修理キットを使ったあとは、元の場所に格納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

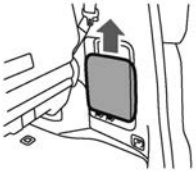
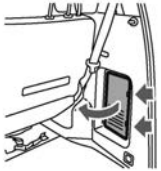
知識

- この車両には、スペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 停止表示板（別売り）または停止表示灯（市販品）、輪止めは標準で搭載されておりません。必要に応じて準備してください。
- 工具の種類や発炎筒（P.355）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。

次ページに続く

★：車型式、オプションなどで異なる装備

ジャッキの取り出しかた★

1	ラゲッジルーム右側に格納されているヘッドレストを取り出します。 ➲ ヘッドレストの使いかた (P.163) ➲ 工具の格納場所 (P.395)	
2	ふたを取り外します。	
3	工具袋を固定しているバンドを外し工具袋を取り出します。	
4	ジャッキを緩めます。	

5 上部からゆっくりと抜き取ります。
※格納するときは、取り出したときと逆の手順で行い、ガタツキがなくなるまでしっかりと締め付けます。

⚠ 注意

- **ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。**
  金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。
- **ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。**

アドバイス

- ジャッキを格納するときは、ドライバーなどで無理に締め付けないでください。ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。
- ジャッキが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

知識

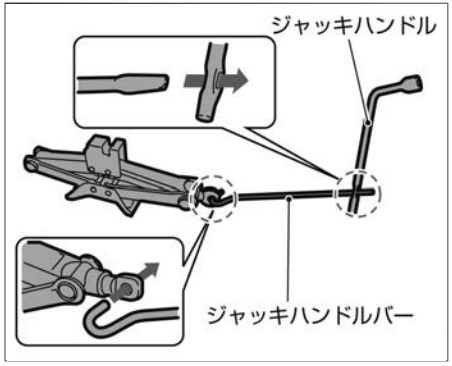
- 工具袋を格納するときは、工具袋に付いているバンドできつく締めてから格納してください。工具がぶつかり合って音がでることがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ジャッキの使いかた★

- ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。

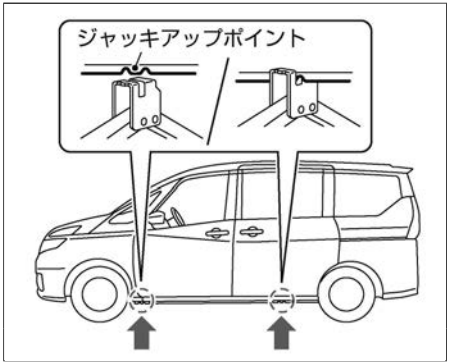


⚠ 注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかり握って回す。**
  ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込む。**
  ジャッキハンドルバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**
  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。
- **ジャッキアップ中はエンジンを始動しない。**
  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

ジャッキアップポイント

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



⚠ 注意

- **ジャッキ★を使うときは、次のことを必ず守る。**
  - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使わないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使わないでください。
  - ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
  - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
  - 使用前にパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを**P**にしてください。
  - 輪止めなどで車を固定してください。
  - ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
  - 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外にはジャッキ★をかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

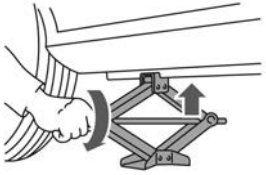
ジャッキアップのしかた★

1 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。
停車･駐車のしかた (P.215)

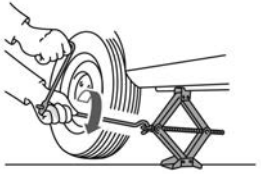
2 ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。



3 ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。
ジャッキアップポイント (P.399)



4 ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。



⚠ 注意

- **やわらかい地面の上ではジャッキアップしない。**
  ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- **やむをえず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

知識

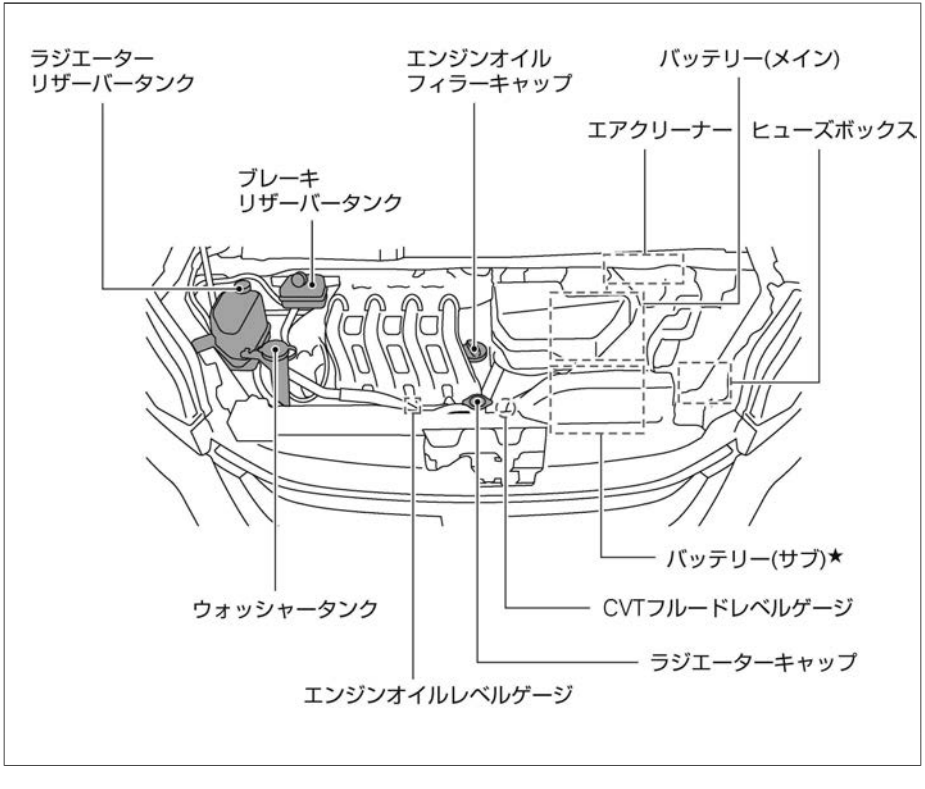
- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- **エンジンルーム内の作業をするときは、電源ポジションをOFFにする。**
  エンジン回転中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

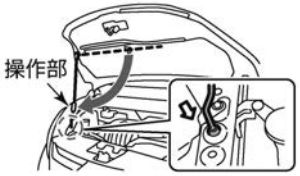
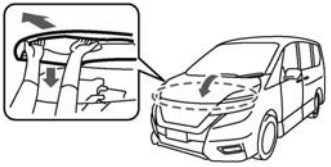
⚠ 注意

- **点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。**
  故障や車両火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

1	運転席の右下にあるボンネットオープナーを引きます。 ボンネットが少し浮き上がります。	
2	ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを押し上げながらボンネットを持ち上げます。	
3	ボンネット裏側に付いているステーの操作部を持ってフックから外し、車体の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。	
4	閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットをゆっくり降ろして20cm～30cmの高さからボンネットを落とし、確実にロックします。	

⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**
  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**
- **ステーを持つときは、必ず操作部を持つ。**
  エンジン停止直後はステーが高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- ボンネットを30cm以上の高さから落とさないでください。破損するおそれがあります。

エアダクトの外しかた

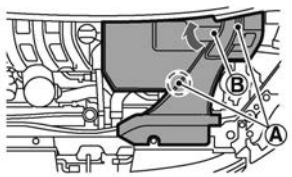
1 エアダクトのクリップ①を外します。
中央部を先の細い工具などで押し込み、ロックを解除してからクリップを引き抜きます。



2 エアダクトのクリップ②を外します。
切り欠きにお手持ちの工具（マイナスドライバーなど）を差し込み、ロックを解除してから抜きます。



3 エアダクトのⒶ部を持ち上げてからⒷ部を矢印方向に回しながらエアダクトを引き抜きます。



4 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

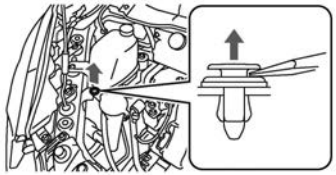
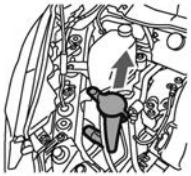
アドバイス

- エアダクトを取り外すときは、接続部のツメなどを破損しないように注意してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ウォッシャー液補給口の外しかた

1	クリップを1つ外します。 切り欠きにお手持ちの工具（マイナスドライバーなど）を差し込み、ロックを解除してから引き抜きます。 ※取り付けるときは、ロックが解除された状態で取り付け、指でロックを押し込みます。	
2	ウォッシャー液補給口を持って、引き抜きます。	
3	外したときと逆の手順で取り付けます。	

⚠ 注意

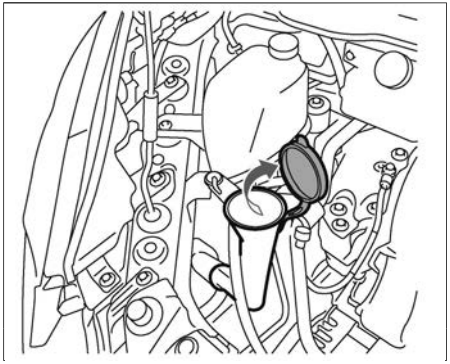
- ステーなどの端で指や腕をケガしないように注意する。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

- ウォッシャー液が減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。



⚠ 注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

知識

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。
- スズキ純正ウインドーウォッシャー液をおすすめします。
  ウォッシャータンク容量（P.451）

★：車型式、オプションなどで異なる装備

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約-15℃
50%	約-35℃

- 冷却水を補充･交換するときは、ランディ用スーパーロングライフクーラント（青色）をお使いください。
  サービスデータ（冷却水）（P.451）

アドバイス

- 寒冷地仕様車の冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検･補充･交換はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ バッテリーの液量、比重の点検

- 別冊のメンテナンスノート「日常点検整備のしかた」をお読みください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
- タイヤチェーンは、タイヤサイズにあったスズキ純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

- ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使用して、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。
- 足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

⚠ 警告

- **ルーフに積もった雪は落とす。**
  窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
➔ 冬用タイヤ･タイヤチェーン (P.416)

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- セレクトレバーを**P**に入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗･損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。
詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

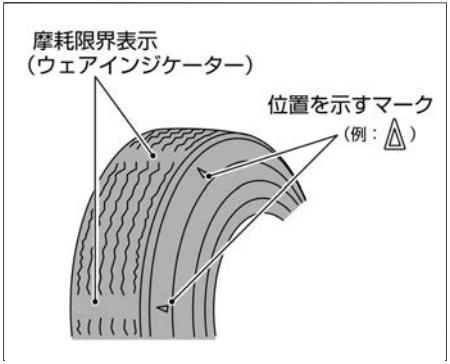
- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。

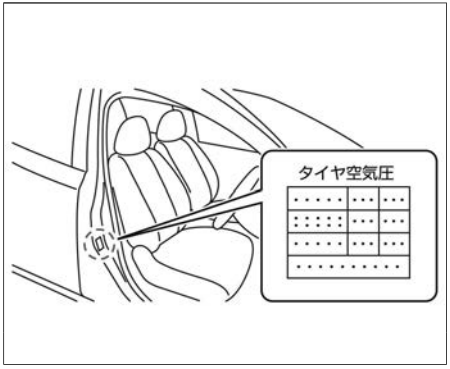
タイヤの亀裂･損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限度表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限度表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。





⚠ 注意

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**
  バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **使用開始後5～7年を目安に必ず点検する。**
  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検についてはスズキ販売店またはスズキ代理店へご相談ください。

知識

- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検･調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識
● 走行直後はタイヤ空気圧が約1割程度上がることがあります。

タイヤ･ロードホイールを交換するときは

- タイヤ交換をするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
  ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

⚠ 注意

- **指定サイズ以外のタイヤ･ロードホイールは絶対に取り付けない。**
  不適合なタイヤ･ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**
  特に4WD車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
  - 摩耗差の大きいタイヤの装着
  - 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
  - サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- アルミホイール★には荷重制限がありますので、交換するときはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップはスズキ純正品を使用してください。スズキ純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。

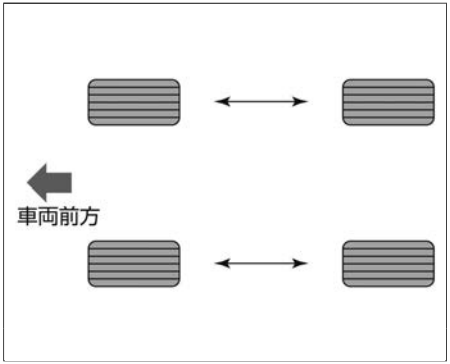
アドバイス



- バルブキャップを工具などを使用して締め付けると、バルブキャップが破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N·m（11kg·m）です。

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏磨耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



⚠ 注意

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**
  車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

冬用タイヤ･タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**
  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、電源ポジションをOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。4WD車も前2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- お客様のタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。
- タイヤチェーンはお客様の車に適合したスズキ純正品をおすすめします。
- 適合するタイヤチェーンについてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アドバイス

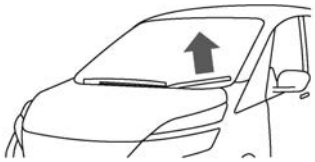
- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバー★やアルミホイール★に傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、4WD車は機構に無理がかかり故障の原因となります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。
定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

1 ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。



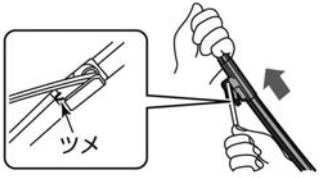
2 ワイパーブレードのツメを押したままにします。



3 ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。



4 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。



⚠ 注意

- **交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつける。**
  ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

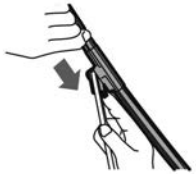
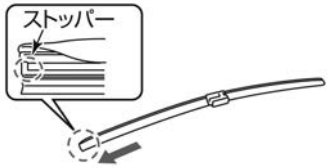
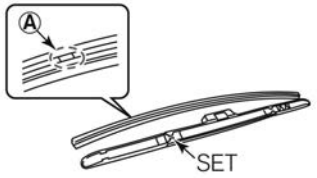
知識

- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- ワイパーゴムの交換のしかたは、別冊のメンテナンスノートの「簡単なお手入れのしかた」をお読みください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ワイパーゴムの交換のしかた

1	ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。	
2	ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。	
3	取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。 ● ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。 ● ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。	

知識

- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

ヒューズ

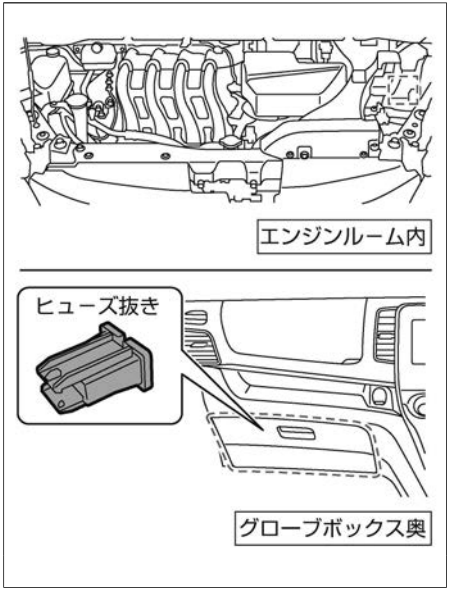
ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズボックスの位置

- ヒューズボックスは、次の位置にあります。
  - エンジンルーム内
  - グローブボックス奥
- 各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側またはヒューズボックス付近に表示してあります。

ヒューズ抜きについて

- グローブボックス奥のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。

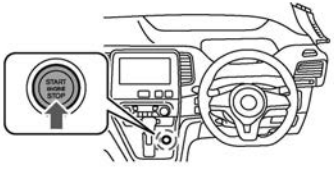


次ページに続く

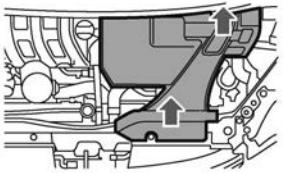
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヒューズの点検･交換のしかた（エンジンルーム内）

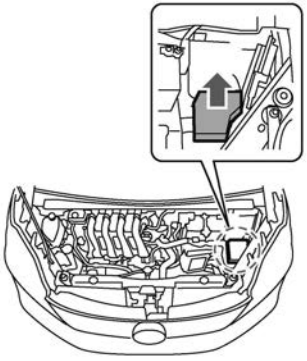
1 電源ポジションをOFFにし、ボンネットを開けます。
ボンネットの開けかた、閉めかた (P.403)



2 エアダクト（外気導入）を外します。
エアダクトの外しかた (P.405)



3 ヒューズボックスのふたを外します。



⚠ 警告

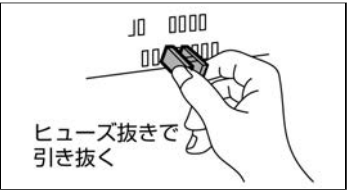
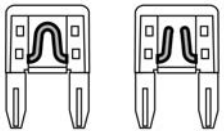
- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

知識

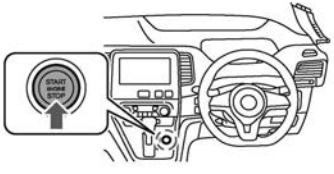
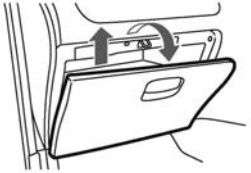
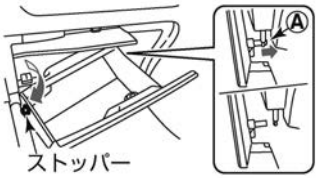
- エンジンルーム内のヒューズを交換するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

4	ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。 ヒューズ抜き（P.419）	
5	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヒューズの点検･交換のしかた（グローブボックス奥）

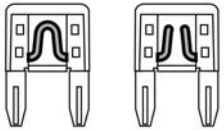
1	電源ポジションをOFFにします。	
2	グローブボックスを開けた状態で上方向に引き、下側のロック部を外します。	
3	グローブボックス左側のストッパーを抜き、ダンパーⒶ部を外してからグローブボックス右側のストッパーを抜いて外します。	
4	ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。 ヒューズ抜き（P.419）	

⚠ 警告

- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

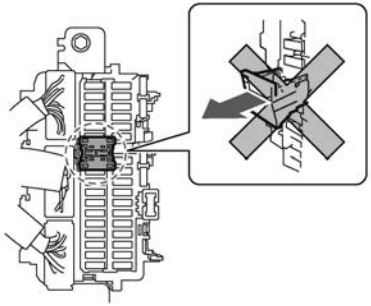
アドバイス

- お手持ちの工具を布などで覆い、傷をつけないように注意してください。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- グローブボックスを取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

5	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

アドバイス

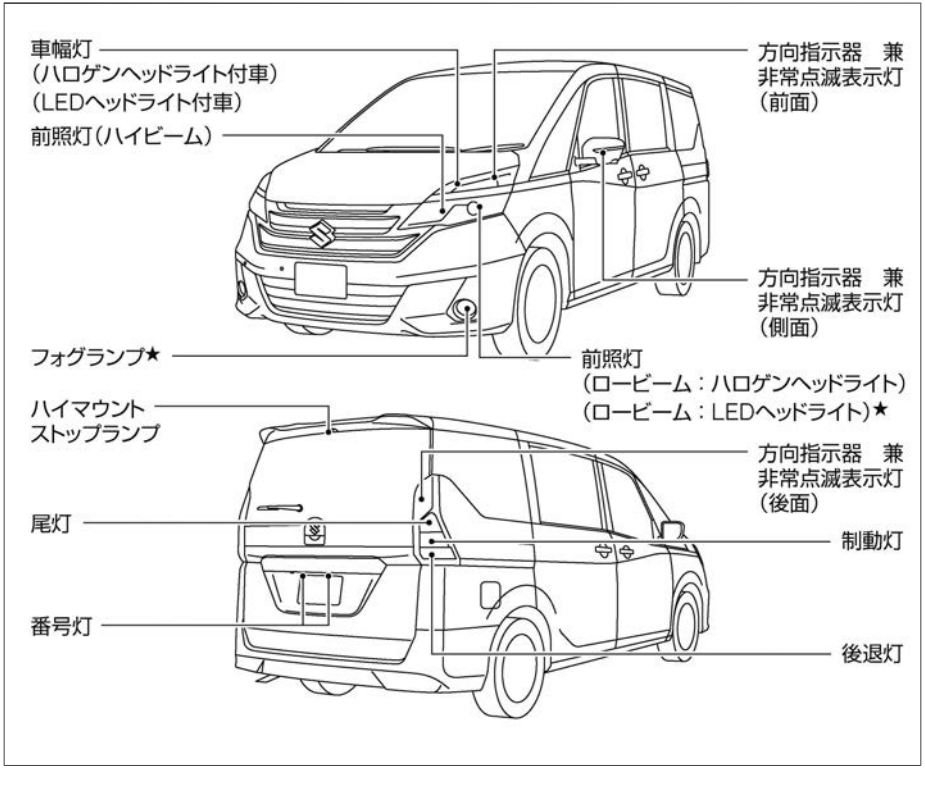
- ヒューズを交換するときは、次のイラストの部品を取り外さないでください。



電球（バルブ）交換

外装ランプが点灯しないときは、電球の球切れが考えられます。
電球の交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

各電球（バルブ）の位置



⚠ 注意

- **電球交換は、ボンネットや電球が冷えた状態で行う。**
  やけどをするおそれがあります。
- **電球交換をするときは、軍手などを着用する。**
- **ステーなどの端で指や腕をケガしないように注意する。**
- **電球は確実に取り付ける。**
  電球は点灯中、表面が高温になります。電球が正しく取り付けられていないと、走行中に電球が外れて周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

アドバイス

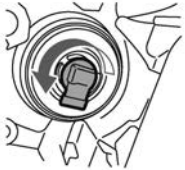
- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- 電球に油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。電球の寿命が短くなったり電球が破損するおそれがあります。

ロービーム（ハロゲンヘッドライト付車）

1 ボンネットを開け、コネクターを取り外します。
（ツメを押しながら外します。）
➔ ボンネットの開けかた、閉めかた (P.403)
➔ エアダクトの外しかた (P.405)



2 ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、電球を交換します。



3 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

⚠ 注意

- **電球の取り扱いには注意する。**
  ロービームに使用している電球は、電球内の圧力が高いため、破損するとガラスが飛び散ることがあります。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

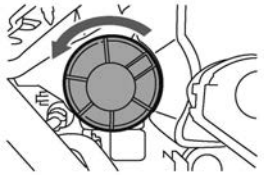
知識

- ロービームヘッドライト：
  - 12V-55W（ハロゲンヘッドライト付車）
  - LED（LEDヘッドライト付車）

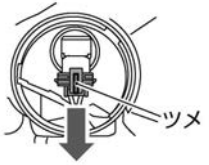
次ページに続く

ハイビームヘッドライト

1 ボンネットを開け、カバーを取り外します。
ボンネットの開けかた、閉めかた (P.403)
エアダクトの外しかた (P.405)
ウォッシャー液補給口の外しかた (P.406)



2 コネクターを取り外します。
（ツメを手前に引きながら外します。）



3 ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、電球を交換します。



4 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

⚠ 注意

- **電球の取り扱いには注意する。**
  ハイビームに使用している電球は、電球内の圧力が高いため、破損するとガラスが飛び散ることがあります。

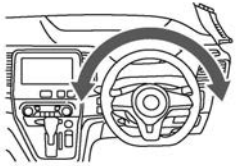
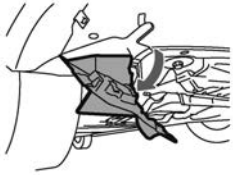
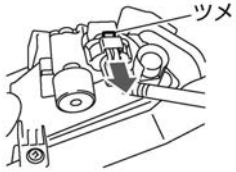
アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- ハイビームヘッドライト：12V-65W

フォグランプ★

1	作業スペースを確保するため、作業する側と反対方向にハンドルを切ります。	
2	お手持ちの工具（トルクス）で下側のネジを外します。	
3	カバーをめくり、作業スペースを確保します。	
4	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

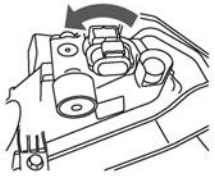
知識

- フォグランプ：12V-55W

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

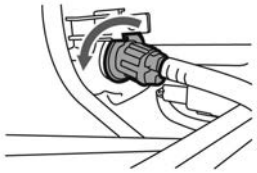
電球（バルブ）交換

5	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、電球を交換します。	
6	取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。	

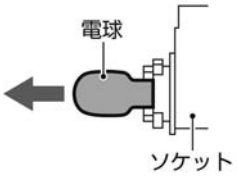
■ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）／車幅灯★（ハロゲンヘッドライト付車）

1 ボンネットを開けます。
ボンネットの開けかた、閉めかた (P.403)

2 交換したい電球のソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。



3 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



4 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

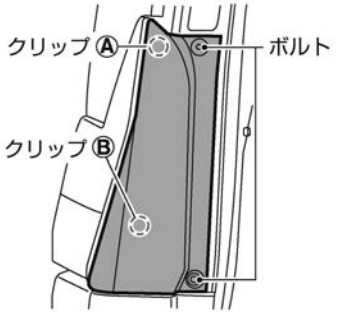
知識

- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）：12V-21W（アンバー）
- 車幅灯：
  - 12V-5W（ハロゲンヘッドライト付車）
  - LED（LEDヘッドライト付車）

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）／制動灯／後退灯

1	バックドアを開けます。	
2	リヤコンビランプのボルトを外し、ランプをまっすぐ後方に引いて取り外します。	

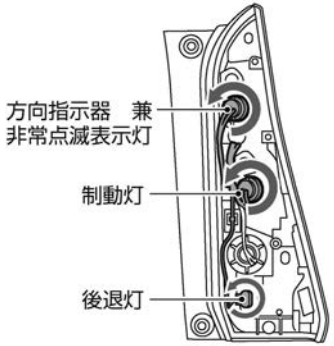
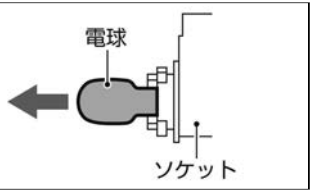
アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- 取り付けボルトを外したら、クリップⒶの高さに手をかけて後方に引いてください。次にクリップⒷの高さに手をかけて後方に引いて取り外してください。

知識

- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）：12V-21W（アンバー）
- 制動灯：12V-21W
- 後退灯：12V-16W

電球（バルブ）交換

3	交換したい電球のソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
4	古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。	
5	取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。	

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

その他の電球

次の電球が点灯しないときはスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **ロービーム（LEDヘッドライト付車）**
- **車幅灯（LEDヘッドライト付車）**
- **ハイマウントストップランプ（LED）**
- **方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（LED）**
- **尾灯（LED）**
- **番号灯（灯体交換）**

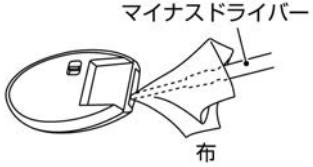
キー（携帯リモコン）の電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときや作動表示灯（P.104）が点滅しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

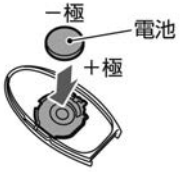
1 キー裏側のロックを外しながら、エマージェンシーキーを引き抜きます。



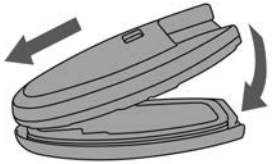
2 すき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）



3 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。）
使用電池：CR2032



4 カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。



⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

アドバイス

- 電池交換の際、無理にカバーを取り外そうとすると、キーを破損するおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

バッテリー

バッテリーのメンテナンスについては、別冊のメンテナンスノートをお読みください。
詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

バッテリーに関する注意事項

⚠ 警告

- **バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アドバイス

- S-HYBRID付車は、充放電能力と寿命性能を強化したS-HYBRID付車専用バッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。 詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

知識

- バッテリー交換したあとや長期間バッテリー端子を外したあとは、アイドリングストップ★のシステムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期は別冊のメンテナンスノートをお読みください。
また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータ（P.450）をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- **オイル交換は適切に行う。**
  適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。**
  オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが吹き出し火災の原因になるおそれがあります。
- **エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。**
  走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 自動洗車機で洗車するときは、ドアミラーを格納してください。
  ドアミラーの格納のしかた (P.167)
- 高圧洗車機で洗車するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。
- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **エンジンルーム内に水をかけない。**
  エンジンの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

水洗いするときは

① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、カーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
③ はん点が残らないように水をふき取ります。

洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納してください。
ドアミラーの格納のしかた (P.167)
- 高圧洗車機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミホイールのお手入れ★

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

外装のお手入れ

アドバイス

- 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
- 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

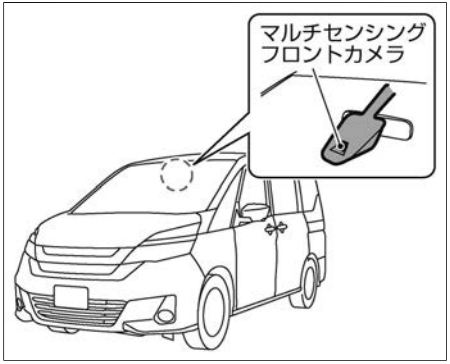
軽い補修のしかた

- 塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- カメラ前方のフロントガラスに車検の検査標章（ステッカー）を貼らないでください。正しい貼り付け位置はスズキ販売店またはスズキ代理店にご確認ください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。
  事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



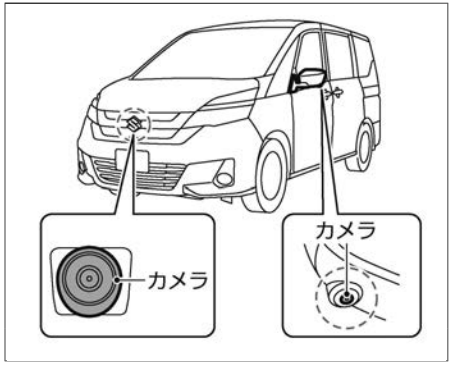
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

フロント／サイドカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。



⚠ 警告

- カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

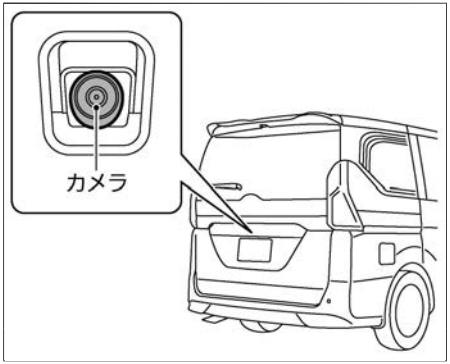
⚠ 注意

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、ぬれた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。画面の映像へ影響が出ることがあります。

バックカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- 光が反射するため、ナンバープレートのアクセサリーを取り付けないでください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。



⚠ 警告

- カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、ぬれた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。画面の映像へ影響が出ることがあります。

アドバイス

- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

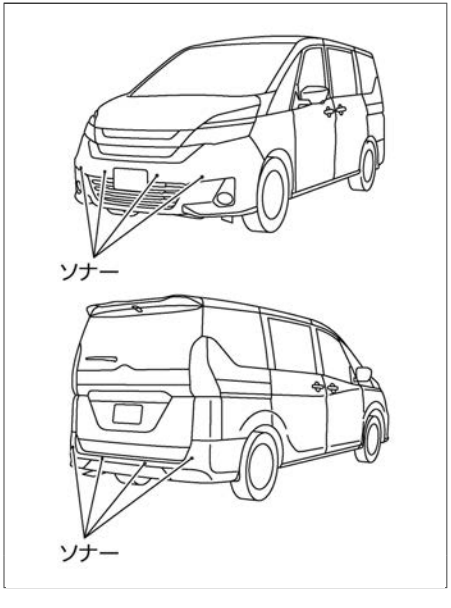
次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、以下のことをお守りください。

- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
  汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。



マットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、ルームクリーナー（市販品）などで汚れを落としてください。フロアマットを取り外したときは、敷き直すときにフロアマットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
フロアマット (P.342)

⚠ 注意

- **車室内に水をかけない。**
オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。

⚠ 注意

- **車室内に水をかけない。**
  オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため確認してからご使用ください。

スーパーUVカット断熱グリーンガラス★

フロントドアガラスの内側にはUVカットコーティングがされてます。

- フロントドアガラスの内側を清掃するときは、水または温水を含ませた柔らかいきれいな布で早めに汚れをふき取ってください。

アドバイス

- UVカットコーティングの傷つきや劣化を防ぐため、次のことをお守りください。
  - フロントドアガラスの汚れがひどいときは、なるべく窓ガラスの開閉を行わない。
  - 清掃するときはコンパウンド（研磨剤）入りのガラスクリーナー、アルカリ性洗剤は使用しない。

内装のお手入れ

アドバイス
– 砂などが付着している布で清掃をしない。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

メーター表面の汚れ取り

- 柔らかい布を真水に浸し、固くしぼってからふき取ります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

バックドアガラスの汚れ取り

- ガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。

点検値

項目		点検値
補機ベルト		調整不要※1
ブレーキペダル※2	遊び	3～11mm
	床板とのすき間 エンジン回転中、踏力約490N（50kg）で踏んだとき	105mm以上
パーキングブレーキ（足踏み式）	踏みしろ 約196N（20kg）で踏んだとき	5～6ノッチ

※1: 補機ベルトは、ベルトオートテンショナー（自動張力調整機構）を採用しており、ベルト張力調整は不要です。また、パワーステアリングおよび冷却ファンは、ベルト駆動ではないためベルトの張力調整は不要です。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

※2: ブレーキが正常に作動しないときは、必ずスズキサービス工場で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

次ページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
交換時期については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

項目	適用		規定量（ ℓ ） ※1	指定銘柄
エンジンオイル	MR20DD	オイルのみ交換	3.6	エクスターＦ SN 0W-16
		オイルとオイルフィルター交換	3.8	

※1： 規定量は目安です。

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。
グレード：API規格SNをお使いください。ILSACマークのついたものをお勧めします。



APIマーク　ILSACマーク

粘度：SAE規格0W-20をご使用ください。

項目	適用	規定量（ℓ）※1	指定銘柄
CVTフルード	全車	7.9	スズキCVTF グリーン2※2
リヤディファレンシャルオイル	4WD	0.8	スズキ四輪スーパーギヤオイル 80W-90（GL-5）
トランスファーオイル	4WD	0.31	
ブレーキフルード	全車	–	スズキ純正ブレーキフルード（DOT-3）
冷却水	リヤクーラー付車	10.1 ※3	ランディ用スーパーロングライフクーラント（青色） ※4
	リヤクーラー無車	8.3 ※3	
ウォッシャー液	全車	2.0	スズキ純正ウインドーウォッシャー液※5

※1： 規定量は目安です。
※2： 必ずスズキCVTF グリーン2を使用してください。スズキCVTF グリーン2以外のフルードを使用するとCVTが破損するおそれがあります。
※3： リザーバータンクのMAXレベル容量（0.51ℓ）を含みます。
※4： 市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水は、ランディ用スーパーロングライフクーラント（青色）を必ずご使用ください。
※5： 外気温に応じて濃度を調節してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

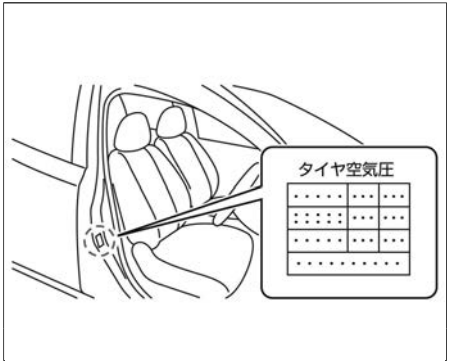
電球（バルブ）の容量

電球			容量（V-W）	電球のタイプ
前照灯（ヘッドライト）	LEDヘッドライト付車	ロービーム	—	LED
		ハイビーム	12-65	H9
	ハロゲンヘッドライト付車	ロービーム	12-55	H11
		ハイビーム	12-65	H9
前部霧灯（フォグランプ）★			12-55	H11
車幅灯	LEDヘッドライト付車		—	LED
	ハロゲンヘッドライト付車		12-5	W5W
番号灯			—	
制動灯			12-21	W21W
尾灯			—	LED
ハイマウントストップランプ			—	LED
後退灯			12-16	W16W
方向指示器 兼 非常点滅表示灯		前面、後面	12-21（アンバー）	WY21W
		側面	—	LED

タイヤ･ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	インセット
195/65R15	15 x 5.5JJ	114.3mm（5穴）	45mm
	15 x 5.5J		

タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。



★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車両データの記録･蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。
以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録･蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録･蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

データの扱いについて

スズキおよびスズキが委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータをスズキの車両衝突安全性能の向上を目的として、取得･利用することがあります。
なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

知識

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。

4

4WD
- 4WD（4輪駆動）車の扱いかた P.245

A

A/C（エアコン）
- エアコンスイッチ P.174, P.181
- エアコンを使うときに注意すること P.190
- 吹き出し口 P.187
- プラズマクラスターイオン®
- フルオートエアコン P.189
- フルオートエアコン P.181
- フルオートデュアルエアコン P.174

ABS
- ABS P.247
- ABS 警告灯 P.61

E

ECO モード
- ECO モード P.229
- ECO モードインジケーター P.68
- ECO モードスイッチ P.229
- エコドライブレポート P.100

EDR（イベントデータレコーダ） P.454

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト P.19

I

ISO FIX 対応チャイルドシート固定専用金具 P.52

L

LDW（車線逸脱警報）
- LDW（車線逸脱警報） P.280
- LDW（車線逸脱警報）表示 P.98

M

MOD（移動物検知）機能 P.297

O

ODO（オドメーター） P.58

S

S-HYBRID P.237

SPORT 表示灯 P.68

SRS エアバッグ P.27

SRS エアバッグ警告灯 P.61

T

TRIP（トリップメーター） P.58

U

USB電源ソケット P.336

V

VDC
- VDC P.248
- VDC OFF スイッチ P.249
- VDC OFF表示灯 P.68
- VDC警告灯 P.61

W

W数（電球の容量） P.452

ア

アームレスト
- セカンドシート P.153

フロントシート P.148
アイドリングストップ
アイドリングストップ P.230
アイドリングストップ（車両情報） P.73
アイドリングストップOFFスイッチ P.232
アイドリングストップ表示灯 P.68
アウターミラー（ドアミラー） P.166
アクセサリーソケット P.334
アシストグリップ P.349
アダプティブシフトコントロール P.209
アラーム（携帯リモコン） P.385
アルミホイールのお手入れ P.439
アンテナ P.196

イ

イベントデータレコーダ（EDR） P.454
イモビライザー（盗難防止装置）
イモビライザー（盗難防止装置） P.54
表示灯（セキュリティーインジケーター） P.68
イルミネーションコントロール P.101
インナーミラー（ルームミラー） P.165

ウ

ウィンカー（方向指示器） P.220
ウインドーガラス（パワーウインドー） P.168
ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付） P.221
ウォーニング（警告灯） P.61
ウォッシャー
ウォッシャー液（規定量） P.450
ウォッシャー液の補給 P.407
ウォッシャー液補給口 P.406
ウォッシャースイッチ P.227
動けなくなったときは P.354
運転するときに注意すること P.14
運転席アッパーボックス P.328
運転席スイッチ（パワースライドドア） P.132
運転席ロアボックス P.326
運転前の準備 P.12

エ

エアコン
エアコンスイッチ P.174, P.181
エアコンを使うときに注意すること P.190
吹き出し口 P.187
プラズマクラスターイオン®
フルオートエアコン P.189
フルオートエアコン P.181
フルオートデュアルエアコン P.174
エアダクト P.405
エアバッグシステム
SRS エアバッグ P.27
SRS エアバッグ警告灯 P.61
SRS カーテンエアバッグシステム P.38
運転席·助手席SRS エアバッグシステム P.31
運転席·助手席SRS サイドエアバッグシステム P.36
ABS
ABS P.247
ABS 警告灯 P.61
エコインジケーター P.59
ECO モード
ECO モードスイッチ P.229
エコドライブレポート P.100
ECO モード P.229
ECO モードインジケーター P.68
エマージェンシーブレーキ
エマージェンシーブレーキ P.255
エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 P.61
エマージェンシーブレーキ表示 P.97
エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストスイッチ P.258
エンジン
エンジンオイル P.436, P.450
エンジンスイッチ P.200
エンジンルーム P.402

エンジンルームから蒸気が出ているとき..... P.389
エンジンを始動できないときは..... P.371
フード（ボンネット）..... P.403

オ

オイル..... P.450
応急修理する前に..... P.360
オーディオ
アンテナ..... P.196
オーディオ..... P.195
ステアリングスイッチ..... P.197
オートACC機能..... P.205
オートライトシステム..... P.218
オーバーヒート..... P.389
オーバーヒート警告が表示されたとき..... P.389
お子さまを乗せるときに注意すること..... P.40
オドメーター（積算距離計）..... P.58

カ

外気温度計..... P.95
外装のお手入れ..... P.437
カギ
携帯リモコン..... P.104
各種設定画面..... P.84
ガソリン..... P.170
カメラ
サイドカメラ..... P.442
バックカメラ..... P.443
フロントカメラ..... P.442
マルチセンシングフロントカメラ..... P.441
カメラスイッチ..... P.291
寒冷時の取り扱い..... P.408

キ

キー
エマージェンシーキー..... P.369
キーレスプッシュスタートシステム..... P.104
キーレスプッシュスタートシステム（キー）の電池交換..... P.433
キーレスプッシュスタートシステム
機能·使いかた..... P.104
キー連動室内照明..... P.322
キックダウン..... P.213

ク

空気圧（タイヤ）..... P.453
くもり取り
デフロスタースイッチ..... P.387
リヤウインドーデフォッガースイッチ..... P.388
クラクション（ホーン）..... P.164
クリアランス（車幅灯）
スイッチ..... P.217
クリアランスランプ（車幅灯）
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
クルーズコントロール
クルーズコントロール..... P.240
クルーズコントロール表示..... P.98
車のお手入れ..... P.437
グローブボックスの使いかた..... P.327

ケ

警告灯..... P.61
警告灯がついたときは..... P.380
警告メッセージ..... P.76
携帯リモコン
エマージェンシーキー..... P.369
電池が切れたとき..... P.371
電池交換のしかた..... P.433
警報ブザー音別一覧表（携帯リモコン）..... P.385
けん引について..... P.356

コ

工具..... P.395
後席シート
サードシート..... P.157

セカンドシート P.149
後退灯
電球（バルブ）交換 P.424
電球（バルブ）容量 P.452
故障警告灯（MIL） P.61
故障したときは P.354

サ

サードシート
格納のしかた P.161
サードシート P.157
サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構） P.150
サードシート用助手席側パワースライドドアスイッチ P.134
サービスデータ（車両仕様） P.452
サイドミラー（ドアミラー） P.166
サンバイザー P.344

シ

シート
お手入れ P.446
サードシート P.157
サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構） P.150
スマートマルチセンターシート P.155
セカンドシート P.149
チャイルドシート P.43
フロントシート P.145
横スライド機構 P.154
シートバックフック P.347
シートベルト
シートベルト警告灯 P.61
シートベルトの着用のしかた P.21
シートベルトの注意事項 P.25
室内灯 P.322
始動しない P.371
始動のしかた P.200
自動ブレーキ P.255
シフトロックシステム P.391
車線逸脱警報(LDW) P.280
ジャッキ P.395
車幅灯
スイッチ P.217
電球（バルブ）交換 P.424
電球（バルブ）容量 P.452
車両仕様 P.452
車両情報画面 P.73
ジャンプスタートのしかた P.374
充電警告灯 P.61
助手席アッパーボックス P.328
ショッピングフック P.341
進入禁止標識検知 P.288

ス

水温計 P.75
スイッチの操作
ECO モードスイッチ P.229
VDC OFF スイッチ P.249
アイドリングストップOFFスイッチ P.232
運転席スイッチ（パワースライドドア） P.132
エアコンスイッチ P.174, P.181
エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストスイッチ P.258, P.274
エンジンスイッチ P.200
カメラスイッチ P.291
クルーズコントロールスイッチ P.240
サードシート用助手席側パワースライドドアスイッチ P.134
照明調整スイッチ P.101
ステアリングスイッチ（オーディオ） P.197
ステアリングスイッチ（マルチインフォメーションディスプレイ） P.71
スポーツモードスイッチ P.210
デフロスタースイッチ P.387
ドアスイッチ P.112
ドアミラースイッチ P.166
ドアロックスイッチ P.118
トリップ切り替えスイッチ P.58

パーキングアシストスイッチ..... P.312
ハーフバックドアオープナースイッチ..... P.140
バックドアオープナースイッチ..... P.138
パワーウインドースイッチ..... P.168
パワースライドドア開閉スイッチ..... P.132
パワードアメインスイッチ..... P.128
非常点滅表示灯スイッチ（ハザードスイッチ）..... P.5
フォグランプスイッチ..... P.224
ヘッドライトレベリングスイッチ..... P.222
方向指示器スイッチ..... P.220
ライトスイッチ..... P.217
リヤウインドーデフォッガースイッチ..... P.388
ワイパー･ウォッシャースイッチ..... P.225
ワンアクションスイッチ..... P.133
ステアリング（ハンドル）..... P.164
ステアリングスイッチ
オーディオ..... P.197
クルーズコントロール..... P.240
マルチインフォメーションディスプレイ..... P.71
スピードメーター（速度計）..... P.57
スペアタイヤ..... P.395
スマートマルチセンターシート..... P.155
スモール（車幅灯）
スイッチ..... P.217
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
スライドドア
スライドドア..... P.119
スライドドアクローザー..... P.122
ワンアクションスイッチ..... P.133
スライドドアクローザー..... P.122

セ

制動灯
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
セーフティ･シールド..... P.75
セカンドシート
サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構）..... P.150
スマートマルチセンターシート..... P.155
セカンドシート..... P.149
横スライド機構..... P.154
セキュリティーインジケーター..... P.68
設定（メーター）..... P.84
セレクトレバー
アダプティブシフトコントロール..... P.209
セレクトレバー..... P.206
セレクトレバーが動かない..... P.391
洗車のしかた..... P.437
前照灯（ヘッドライト）
スイッチ..... P.217
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
全ドア連動ロック機能..... P.134
前部霧灯（フォグランプ）
スイッチ..... P.224
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
全方位モニター
MOD（移動物検知）機能..... P.297
カメラスイッチ..... P.291
全方位モニター..... P.291
全方位モニターに関する注意事項..... P.302
ソナー機能について..... P.299

ソ

走行距離（車両情報）..... P.75
走行支援機能画面..... P.96
走行時間（車両情報）..... P.75
走行時間アラーム..... P.84
走行のしかた..... P.213
速度計（スピードメーター）..... P.57
ソナー
ソナー..... P.99

ソナー設定 P.84
ソナーの取り扱い P.444

タ

タイヤ
アルミホイールのお手入れ P.439
タイヤ·ホイールを交換するとき P.413
タイヤ·ロードホイールサイズ P.453
タイヤ応急修理キット P.361
タイヤチェーン P.416
タイヤについて（4WD） P.245
タイヤの位置交換（ローテーション） P.415
タイヤの空気圧 P.453
タイヤの点検項目 P.411
パンク P.360
冬用タイヤ P.416
タコメーター（エンジン回転計） P.72
正しい運転姿勢について P.12

チ

チケットホルダー P.345
チャイルドシート P.43
チャイルドシート適合表 P.44
チャイルドプルーフ P.122
駐車のしかた P.215
チルト·テレスコピックステアリング P.164

テ

停止のしかた P.202
停車のしかた P.215
低水温表示灯 P.68
低速加速抑制機能 P.265
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.265
ティッシュボックス収納 P.325
テール（尾灯）
スイッチ P.217
テールランプ（尾灯）
テールランプ表示灯 P.68
電球（バルブ）交換 P.424
電球（バルブ）容量 P.452
デフロスタースイッチ P.387
デュアルバックドア P.138
電球（バルブ）交換 P.424
電球（バルブ）容量 P.452
点検整備について P.394
点検値／交換油脂類 P.449
電池交換のしかた P.433
電動格納式ドアミラー P.166
テンプメーター（水温計） P.75

ト

ドア
スライドドア P.119
ドア P.112
ドアが開かないときは P.369
ドアスイッチ P.112
ドアを室内から開けられないとき（チャイルドプルーフ） P.122
バックドア P.138
フロントドア P.118
ドアミラー P.166
ドアロックスイッチ P.118
盗難防止装置（イモビライザー） P.54
時計 P.94
ドライブコンピュータ P.75
トラブルがおきたときは
オーバーヒートしたときは P.389
キーレスプッシュスタートシステムで始動できないときは P.371
警告灯がついたときは P.380
セレクトレバーが動かないときは P.391
ドアが開かないときは P.369
バッテリーがあがったときは P.372
パンクしたときは P.360
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.385
窓ガラスがくもったときは P.387
雪道やぬかるみにはまったときは P.392

トリップメーター（区間距離計）..... P.58
ドリンクホルダー..... P.329

ナ

内装のお手入れ..... P.445
ナンバー灯（番号灯）
　スイッチ..... P.217
　電球（バルブ）交換..... P.424
　電球（バルブ）容量..... P.452

ネ

燃費情報表示..... P.73
燃料
　燃料計..... P.57
　燃料タンク容量..... P.170
　燃料補給口..... P.171

ハ

パーキングアシスト
　パーキングアシスト..... P.312
　パーキングアシストに関する注意事項..... P.319
パーキングブレーキ..... P.211
パーソナルテーブル..... P.339
ハーフバックドア..... P.140
ハイマウントストップランプ
　電球（バルブ）交換..... P.424
　電球（バルブ）容量..... P.452
ハザードスイッチ（非常点滅表示灯スイッチ）..... P.5
挟み込み防止機構
　パワーウインドー..... P.169
　パワースライドドア..... P.135
発炎筒..... P.355
バックカメラ..... P.443
バックドア
　ハーフバックドア..... P.140
　バックドアオープナースイッチ..... P.138
バックミラー（ルームミラー）..... P.165
発進..... P.212
バッテリー
　バッテリー..... P.434
　バッテリーがあがったときは..... P.372
バッテリーセーバー
　ヘッドライト..... P.217
　マップランプ..... P.322
　ラゲッジルームランプ..... P.324
バニティミラー..... P.344
バルブ（電球）交換..... P.424
バルブ（電球）容量..... P.452
パワーウインドー
　挟み込み防止機構..... P.169
　パワーウインドー..... P.168
　パワーウインドーが正常に作動しないとき..... P.169
パワーステアリング警告灯..... P.61
パワースライドドア..... P.132
　運転席スイッチ..... P.132
　正常に作動しないとき..... P.135
　挟み込み防止機構..... P.135
　パワースライドドア（オートスライドドア）..... P.132
パワースライドドア（オートスライドドア）
　パワースライドドア..... P.126
パワードアメインスイッチ..... P.128
パンクしたときは..... P.360
番号灯
　スイッチ..... P.217
　電球（バルブ）交換..... P.424
　電球（バルブ）容量..... P.452
ハンドル..... P.164

ヒ

ヒーター付ドアミラー..... P.166
非常停止のしかた..... P.204
非常点滅表示灯
　スイッチ..... P.5
　電球（バルブ）交換..... P.424
　電球（バルブ）容量..... P.452

尾灯
スイッチ..... P.217
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
ヒューズ..... P.419
表示灯..... P.68
ヒルホールドコントロール..... P.251

フ

VDC
VDC OFF スイッチ..... P.249
VDC OFF 表示灯..... P.68
VDC 警告灯..... P.61
VDC..... P.248
ブースターケーブルのつなぎかた..... P.372
フード（ボンネット）..... P.403
フォグランプ
スイッチ..... P.224
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
フォグランプ表示灯..... P.68
吹き出し口..... P.187
ブザー（警報音）が鳴ったときは..... P.385
踏み間違い衝突防止アシスト
エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシストスイッチ..... P.274
低速加速抑制機能..... P.265
低速衝突軽減ブレーキ機能..... P.265
踏み間違い衝突防止アシスト..... P.264
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）..... P.170
フューエルフィラーリッドオープナー..... P.171
フューエルメーター（燃料計）..... P.57
冬用タイヤ·タイヤチェーン..... P.416
プラズマクラスターイオン®フルオートエアコン..... P.189
ふらつき警報..... P.285
フルオートエアコン
フルオートエアコン..... P.181
リヤクーラー..... P.184
フルオートデュアルエアコン
フルオートデュアルエアコン..... P.174
後席用..... P.178
ブレーキ警告灯..... P.61
フロアマット..... P.13, P.342
フロントガラスのくもりの取りかた..... P.387
フロントシート..... P.145
フロントドア..... P.118

ヘ

平均車速（車両情報）..... P.75
平均燃費（車両情報）..... P.75
ヘッドライト
スイッチ..... P.217
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
ヘッドライト上向き表示灯..... P.68
ヘッドライトレベリングスイッチ..... P.222
ヘッドライトオートレベリング..... P.217
ヘッドレスト
サードシート..... P.163
セカンドシート..... P.152
フロントシート..... P.147

ホ

ホイールサイズ..... P.453
方向指示器
スイッチ..... P.220
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
方向指示表示灯..... P.68
防犯装置
イモビライザー（盗難防止装置）..... P.54
セキュリティーインジケーター..... P.68
ホーンの鳴らしかた..... P.164
ポジション（車幅灯）
スイッチ..... P.217

ポジションインジケーター..... P.59
ポジションランプ（車幅灯）
電球（バルブ）交換..... P.424
電球（バルブ）容量..... P.452
ボトルホルダー..... P.331
ボンネット（フード）..... P.403

マ

マスターウォーニング..... P.61
マップランプ..... P.322
窓ガラスがくもったときは..... P.387
マルチインフォメーションディスプレイ
各種設定画面..... P.84
警告メッセージ..... P.76
車両情報画面..... P.73
ステアリングスイッチ..... P.71
マルチインフォメーションディスプレイ..... P.71
マルチセンシングフロントカメラ..... P.441

ミ

ミラー
ドアミラー..... P.166
バニティミラー..... P.344
ルームミラー..... P.165

メ

メーター
エコインジケーター..... P.59
オドメーター（積算距離計）..... P.58
外気温度計..... P.95
各種設定画面..... P.84
警告灯..... P.61
車両情報画面..... P.73
表示灯..... P.68
マルチインフォメーションディスプレイ..... P.71
メーター..... P.56
メーターの明るさの調節のしかた..... P.101
メンテナンス設定..... P.84
メンテナンスデータ（サービスデータ）..... P.449

ユ

油圧警告灯..... P.61
雪道の走行のしかた..... P.410
雪道やぬかるみにはまったときは..... P.392

ヨ

横スライド機構..... P.154
4WD（4輪駆動）車の扱いかた..... P.245

ラ

ライトスイッチ..... P.217
ラゲッジアンダーボックス..... P.346
ラゲッジフック..... P.350
ラゲッジルームランプ..... P.324
ランプ（室内照明）
マップランプ..... P.322
ラゲッジルームランプ..... P.324
ランプが点灯しないとき（バルブの交換）..... P.424

リ

リモコンによる施錠･解錠..... P.114
リヤウインドーデフォッガースイッチ..... P.388
リヤガラスのくもりの取りかた..... P.388
リヤワイパースイッチ..... P.226

ル

ルームミラー..... P.165
ルームランプ
マップランプ..... P.322
ラゲッジルームランプ..... P.324

レ

冷却水
寒冷地の取り扱い..... P.408
規定量..... P.450
レバー（セレクトレバー）..... P.206

ロ

ロードホイール
お手入れ..... P.439
交換..... P.413
サイズ..... P.453
ロープフック（ラゲッジフック）..... P.350
ロールサンシェード..... P.338
路上で故障したときは..... P.354
ロックノブ..... P.118

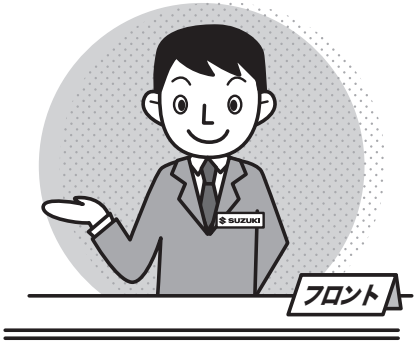
ワ

ワイパー
ワイパー･ウォッシャースイッチ..... P.225
ワイパーゴムの交換..... P.418
ワイパーブレードの交換..... P.417
ワックスをかけるときは..... P.439

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら

まずは、お買い上げいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。**お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。**

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号